

平成 1 7 年度

保健活動のまとめ

大口町保健センター

大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくれます。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくれます。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくれます。

目 次

1 大口市の概要

1	町の位置及び紹介.....	1
2	大口市医療機関等分布図.....	2
3	人口.....	2
4	人口動態統計年次推移.....	5
5	選択死因別死亡数年次推移.....	5
6	大口市組織図.....	7
7	保健センターの概要.....	8
8	保健活動の変遷.....	10

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み.....	18
2	母子健康手帳の交付・妊婦相談.....	20
3	妊婦・乳児健康診査.....	21
4	母親教室.....	22
5	パパママ教室.....	23
6	フレッシュママの会.....	24
7	低体重児の状況.....	24
8	乳幼児健康診査.....	25
9	子育て相談室.....	30
10	家庭訪問.....	32
11	たんぼぼ教室.....	33
12	ちゅーりっぷの会.....	34
13	離乳食教室.....	35
14	子育て支援.....	37
15	「子どもの健康」に関する連絡会.....	38

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み.....	39
2	健康手帳の交付.....	41
3	基本健康診査.....	42
4	各種がん検診.....	45
5	わかば健診.....	52
6	骨密度測定.....	54
7	健康教育.....	56
8	健康相談.....	73
9	機能訓練.....	77
10	保健師活動報告.....	79
11	栄養士活動報告.....	80
12	家庭訪問.....	81

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み.....	83
2	幼児期歯科健康診査.....	84
3	妊婦歯科健康診査.....	86
4	わかば健康診査時歯科健診.....	87
5	歯周病予防健診.....	89
6	歯の健康センター.....	91
7	8020・9018運動.....	91

5 健康推進事業

1	健康推進員活動.....	92
2	「健康おおくち21」計画推進.....	98

6 感染症予防事業

1	予防接種.....	110
2	結核予防.....	115

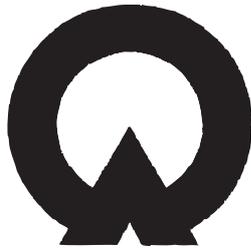
7 救急医療

1	救急医療の取り組み.....	117
2	第一次救急医療.....	117
3	第二次救急医療.....	117

8 調査・研究等

1	学生実習指導.....	118
2	研究・発表等.....	118

1 町の位置及び紹介

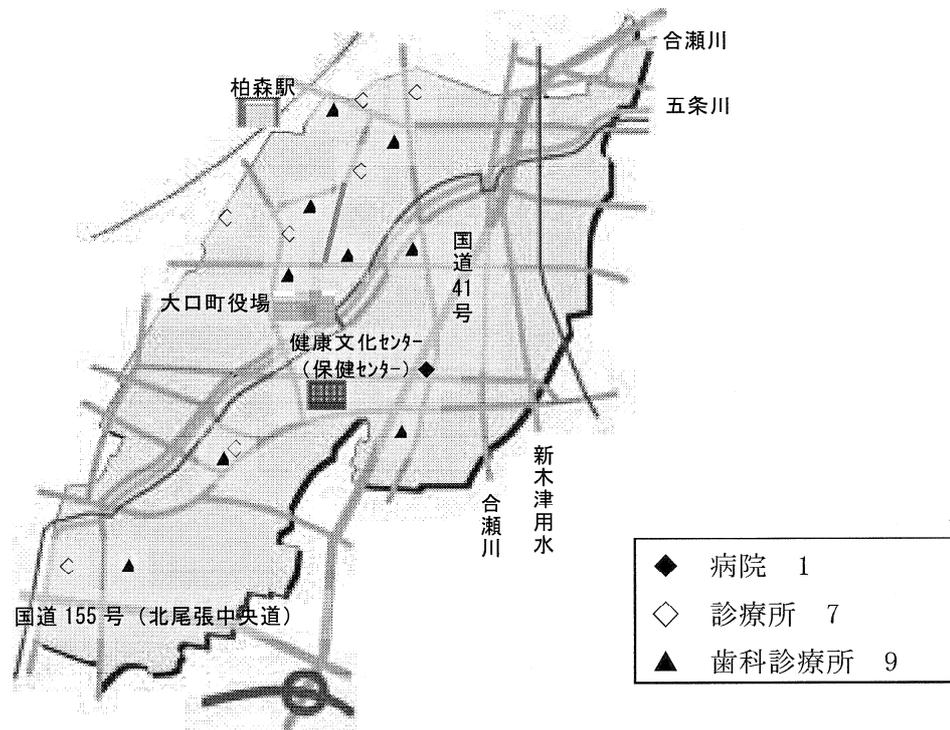


大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.58平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。また、近隣には県営名古屋空港があるなど国内外の地域や国々との交流条件が充実しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位：世帯)

地区	区分	世帯
秋田		688
豊田		562
大屋敷		472
外坪		233
河北		375
余野		1,538
上小口		583
中小口		680
下小口		1,334
垣田		386
さつきヶ丘		302
合計		7,153

(2) 地区別人口

(単位：人)

地区	区分	人口		
		総数	男	女
秋田		2,209	1,116	1,093
豊田		1,975	970	1,005
大屋敷		1,387	677	710
外坪		817	403	414
河北		1,287	628	659
余野		4,433	2,302	2,131
上小口		1,686	907	779
中小口		2,079	1,053	1,026
下小口		3,540	1,831	1,709
垣田		1,008	450	558
さつきヶ丘		840	421	419
合計		21,261	10,758	10,503

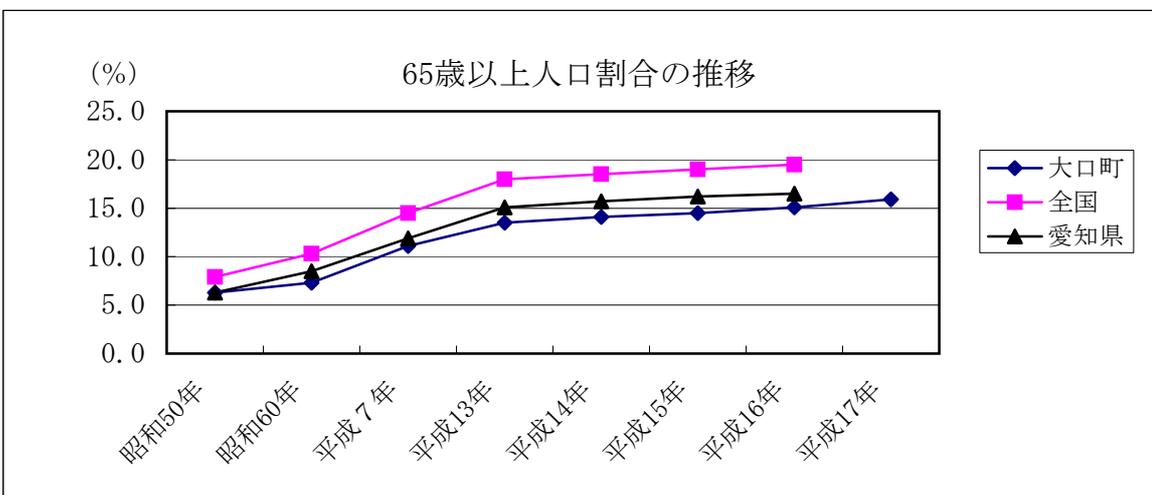
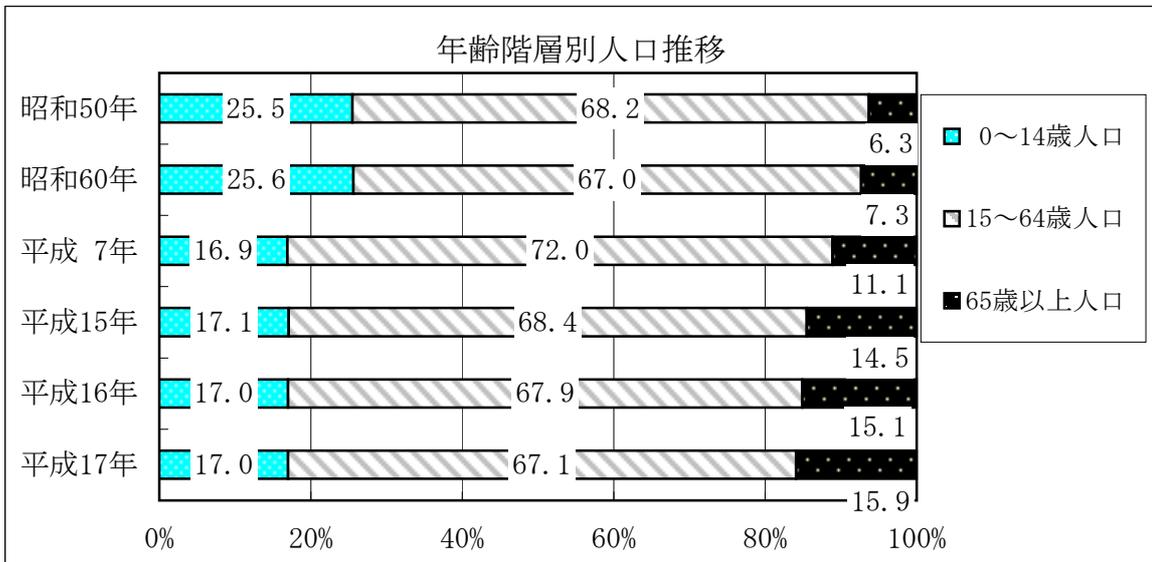
(平成17年10月1日現在 住民基本台帳より)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成15年	平成16年	平成17年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,209	21,254	21,261
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,617	3,613	3,616
	比率	25.5	25.6	16.9	17.1	17.0	17.0
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,511	14,440	14,257
	比率	68.2	67.0	72.0	68.4	67.9	67.1
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,081	3,201	3,388
	比率	6.3	7.3	11.1	14.5	15.1	15.9
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	9,848	10,004	10,189
	比率	28.1	32.2	45.4	46.4	47.1	47.9
	75歳以上	308	421	873	1,250	1,301	1,364
比率	1.9	2.6	4.6	5.9	6.1	6.4	
全国 65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	19.0	19.5	-	
愛知県 65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	16.2	16.5	-	

資料：全国・愛知県は、国勢調査及び「国民衛生の動向」より



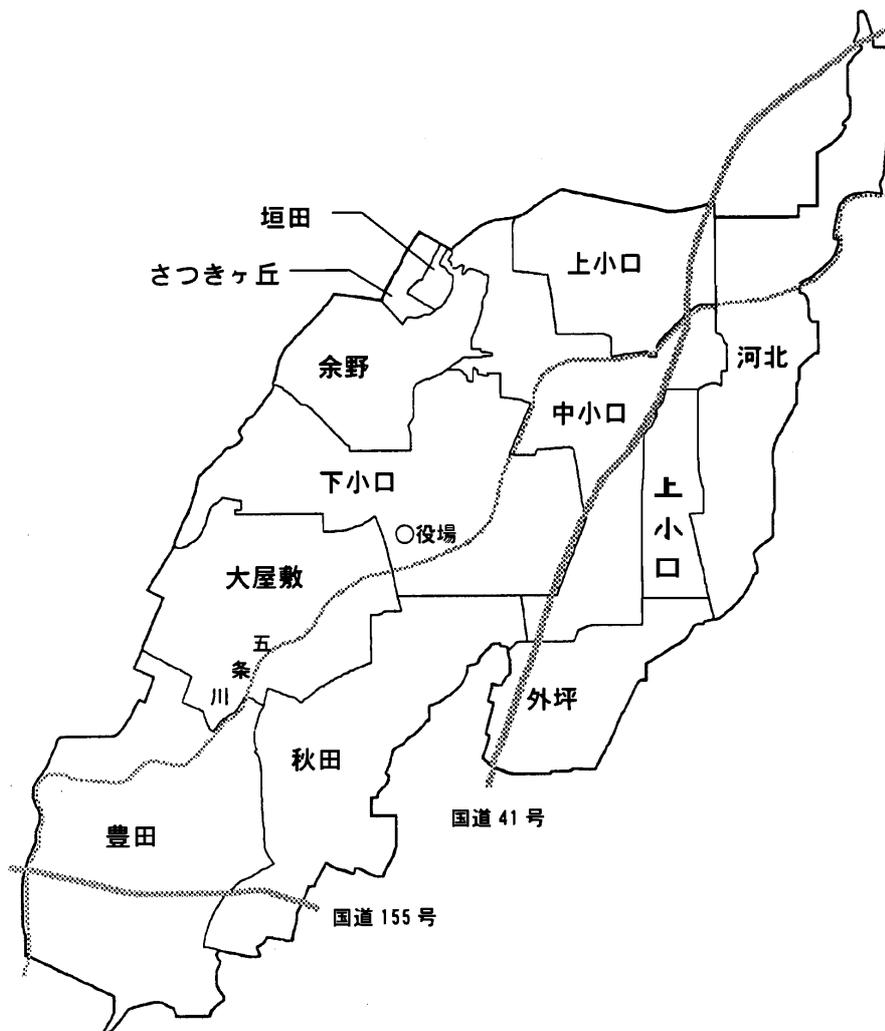
(4) 地区別高齢化率

(上段：人 下段：%)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,209	1,975	1,387	817	1,287	4,433
65歳以上人口	329	383	305	173	240	466
比 率	14.9	19.4	22.0	21.2	18.6	10.5
地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,686	2,079	3,540	1,008	840	21,261
65歳以上人口	256	316	596	141	183	3,388
比 率	15.2	15.2	16.8	14.0	21.8	15.9

(平成17年10月1日現在 住民基本台帳より)

〈行政区域図〉



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000対)

種別 年	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
昭和 55	16,195	226	120	106	14.0	100	53	47	6.2	126	7.8	3	2	1	13.3	-	-	3	13.3	7	30.0	98	6.1	16	1.0
60	17,247	199	111	88	11.5	86	42	44	5.0	113	6.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9	43.3	88	5.1	14	0.8
平成 元	17,184	162	97	65	9.4	85	48	37	4.9	77	4.5	1	-	1	6.2	1	6.2	-	-	8	47.1	83	4.8	20	1.2
6	18,822	233	127	106	12.4	103	58	45	5.5	130	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8.5	131	7.0	23	1.2
12	20,633	271	135	136	13.1	139	65	74	6.7	132	6.4	-	-	-	-	-	-	-	-	9	32.1	167	8.1	37	1.8
13	20,911	264	130	134	12.6	136	67	69	6.5	128	6.1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	22.2	185	8.8	37	1.8
14	21,170	279	152	127	13.2	117	61	56	5.5	162	7.7	1	-	1	3.6	1	3.6	2	7.1	4	14.1	145	6.8	44	2.1
15	21,275	254	134	120	11.9	141	80	61	6.6	113	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3.9	145	6.8	37	1.7
16	21,349	250	140	110	11.8	138	73	65	6.5	112	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	16.0	125	5.9	44	2.1
17	21,261	229	123	106	10.7	157	83	74	7.4	72	3.3	1	1	-	4.4	-	-	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1
愛知県 H16	7,205,625	70,417	36,148	34,269	10.0	49,457	27,280	22,177	7.0	20,960	3.0	189	92	97	2.7	92	1.3	316	4.5	1,852	25.6	44,608	6.3	14,232	2.0
全国 H16	126,176,000	1,110,721	569,559	541,162	8.8	1,028,602	557,097	471,505	8.2	82,119	0.7	3,122	1,716	1,406	2.8	1,622	1.7	5,541	5.0	34,365	30.0	720,417	5.7	270,804	2.2

人口は、大口町及び愛知県が愛知県企画振興部統計課発表の総人口、全国が厚生労働省大臣官房統計情報部試算の日本人人口で隔年10月1日現在である。平成17年の数値は大口町は概算である。

<率算出式>

$$\begin{aligned}
 \text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} &= \frac{\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率}}{\text{人口}} \times 1,000 & \text{死産率} &= \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000 & \text{乳児死亡・新生児死亡率} &= \frac{\text{乳児死亡・新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000 \\
 \text{周産期死亡率} &= \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000 & \text{周産期死亡率} &= \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数+妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000 & \text{死因別死亡率} &= \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 1,000
 \end{aligned}$$

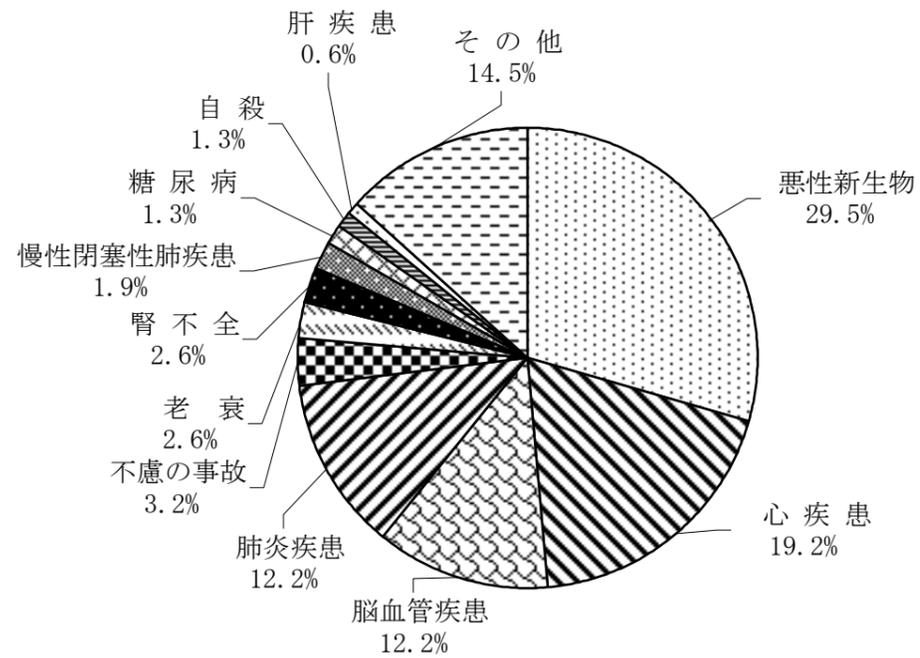
5 選択死因別死亡数・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

死因 年	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎疾患		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成7年	119	5.3	1	5.3	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3
12年	139	-	-	-	38	184.2	1	4.8	1	4.8	15	72.7	23	111.5	1	4.8	24	116.3	-	-	1	4.8	2	9.7	1	4.8	7	33.9	7	33.9	4	19.4	14	67.9
13年	136	-	-	-	34	162.6	1	4.8	1	4.8	28	133.9	23	110.0	3	14.4	12	57.4	1	4.8	-	-	1	4.8	2	9.6	2	9.6	10	47.8	5	23.9	13	62.2
14年	117	-	-	-	32	151.2	2	9.4	1	4.7	16	75.6	11	52.0	2	9.4	13	61.4	2	4.8	-	-	2	9.4	3	14.2	4	18.9	6	28.3	2	9.4	21	99.2
15年	141	-	-	-	44	206.8	2	9.4	-	-	21	98.7	25	117.5	-	-	12	56.4	1	4.7	-	-	2	9.4	2	9.4	4	18.8	7	32.9	4	18.8	17	79.9
16年	138	1	4.7	4.7	43	202.3	1	4.7	-	-	27	131.7	15	70.6	-	-	13	61.2	-	-	-	-	3	14.1	2	9.4	4	18.8	5	23.5	3	14.1	20	94.1
17年	157	-	-	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	-	19	89.4	3	14.1	-	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8
愛知県 H16	49,457	138	2.0	2.0	15,628	221.5	540	7.7	194	2.7	7,983	113.1	5,991	84.9	532	7.0	4,320	61.2	497	8.0	131	2.0	703	10.0	831	11.8	1,281	18.2	1,993	28.2	1,432	20.3	7,263	100.8
全国 H16	1,028,502	2,330	1.8	1.8	302,358	239.6	12,637	10.0	5,706	4.5	159,625	126.5	129,055	102.3	10,679	8.5	95,534	75.7	13,444	10.7	3,238	2.6	15,885	12.6	19,117	15.2	24,196	19.1	48,744	38.6	30,247	24.0	155,777	123.5

人口は各年10月1日現在のもの。平成17年の数値は、大口町は概数である。

(1) 選択死因別死亡割合 (平成17年)

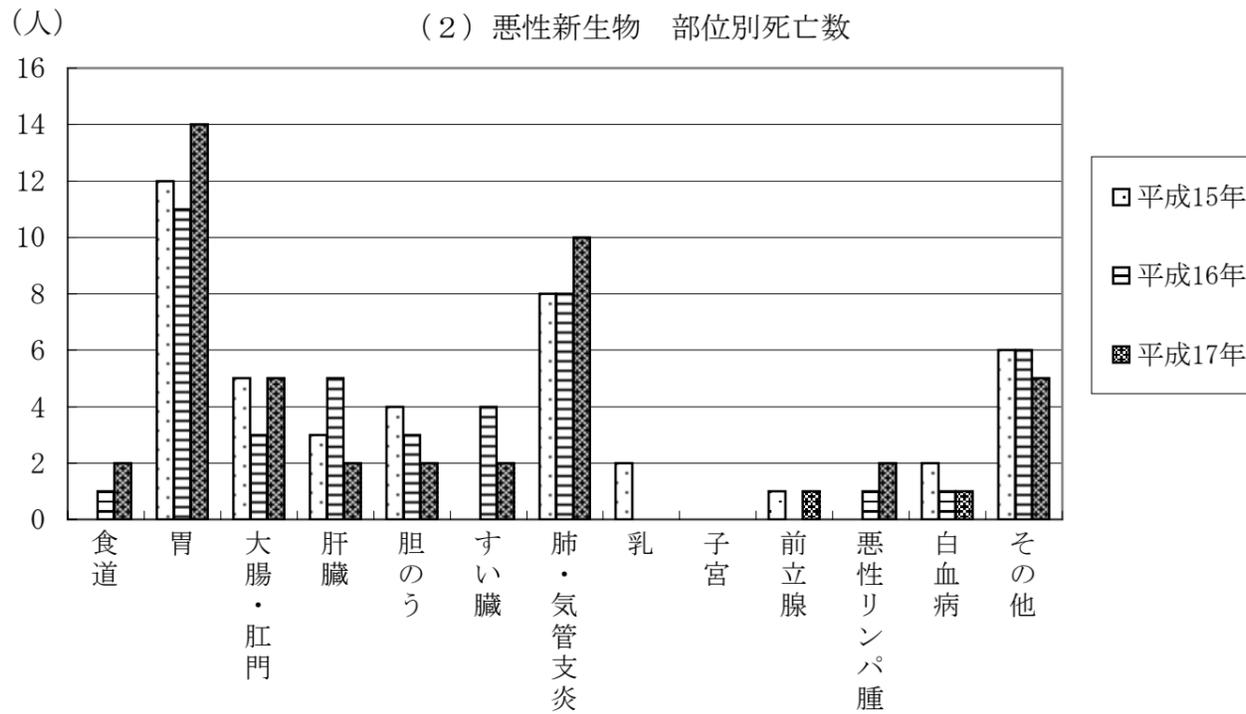


(3) 年齢別死亡数・死亡原因 (平成17年)

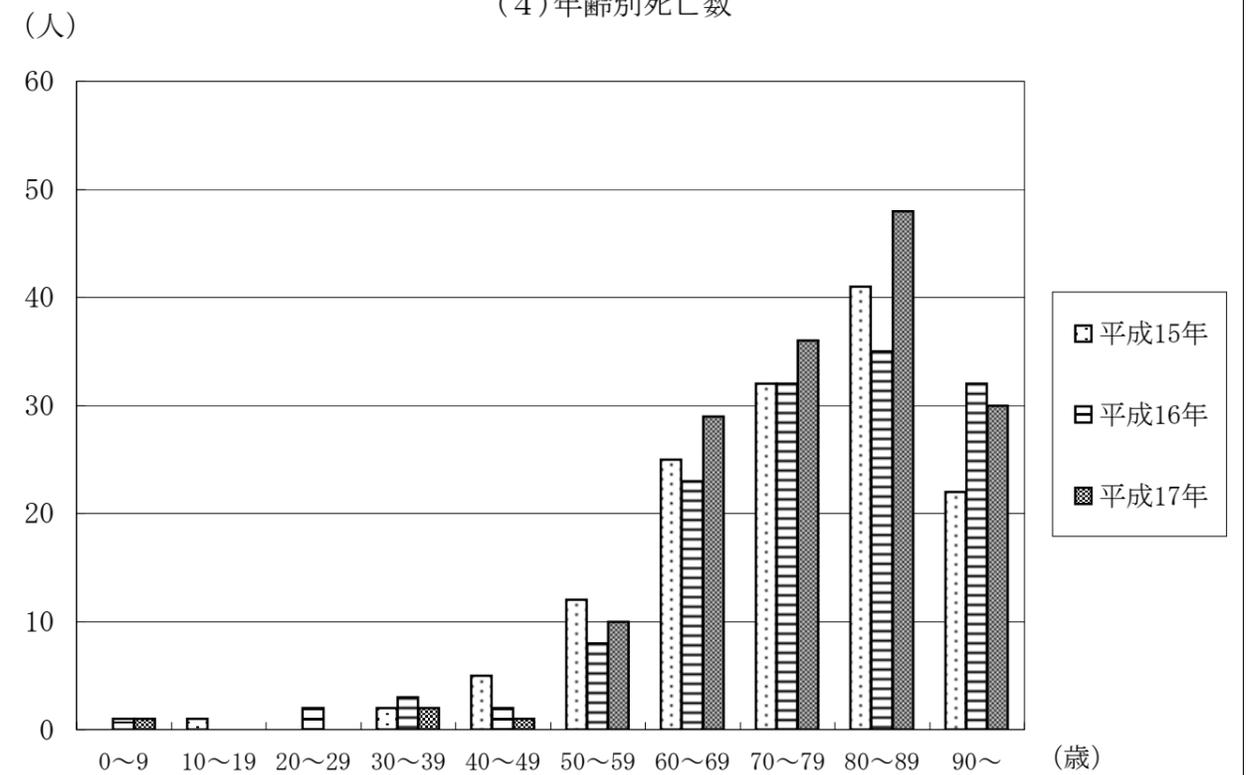
(単位:人)

年齢 (歳)	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎疾患	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺	その他
0~9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
10~19	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~29	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30~39	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
40~49	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
50~59	10	-	5	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
60~69	29	-	15	-	-	4	4	-	2	1	-	1	1	-	1	-	-
70~79	36	-	12	1	-	4	7	-	2	1	-	-	1	-	-	-	8
80~89	48	-	11	1	-	8	2	-	12	1	-	-	2	-	2	-	9
90~	30	-	3	-	-	11	5	-	3	-	-	-	-	4	1	-	3

(2) 悪性新生物 部位別死亡数

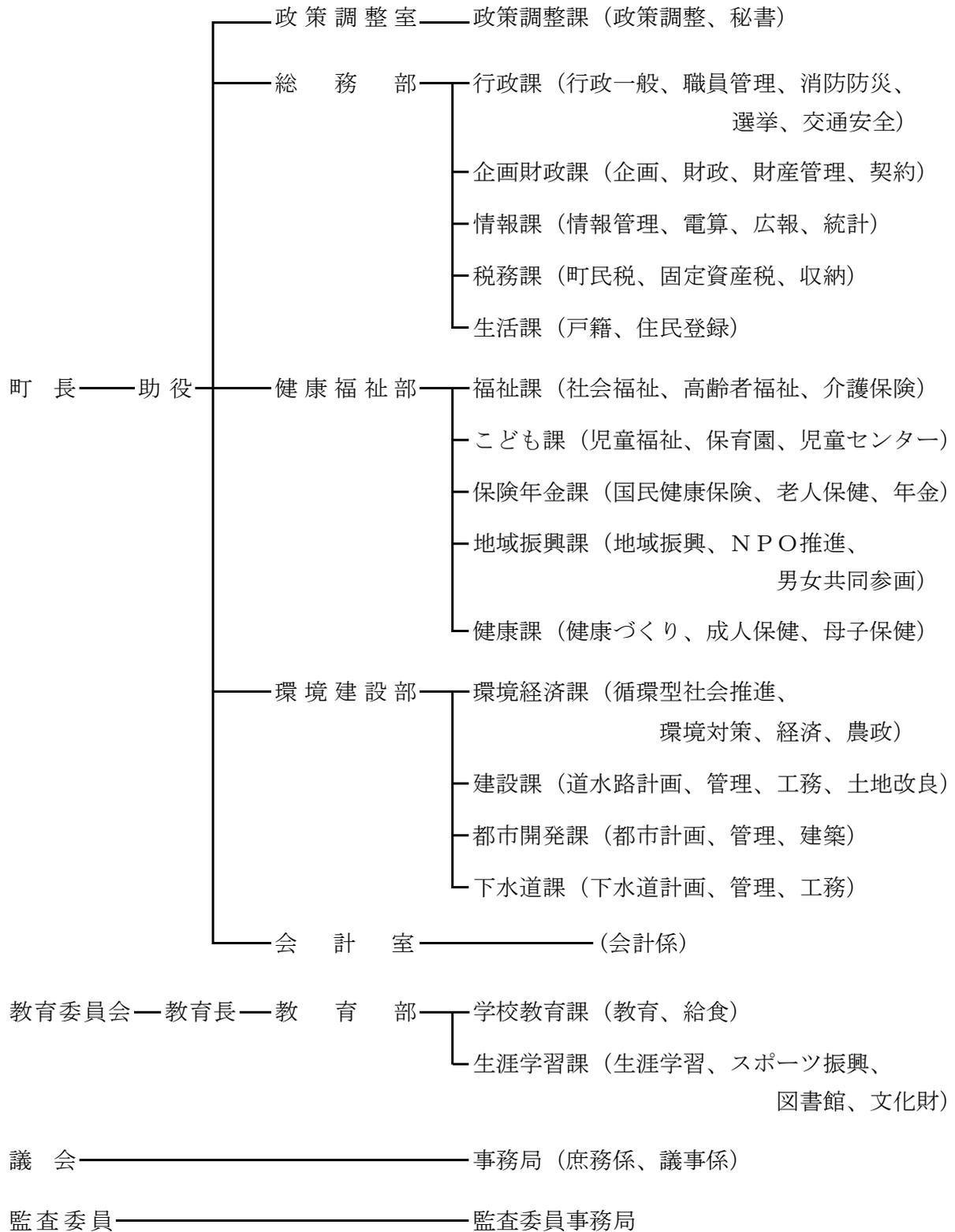


(4) 年齢別死亡数



6 大口町組織図

(平成17年4月1日現在)



7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成 10 年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目 3 5 番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造 5 階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
 - 1 階 1,847.40 m² 保健センター（専用面積 974.78 m²）
 - 2 階 1,639.98 m² 保健センター（専用面積 611.92 m²）
社会福祉協議会
 - 3 階 1,106.63 m² 歴史民俗資料館
 - 4 階 1,106.63 m² 研修センター
 - 5 階 1,106.63 m² トレーニングセンター
 - PH 階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本 体 施 設 5,069.95 m²
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m²

・本体施設の工期

着工 平成 9 年 6 月 2 4 日

竣工 平成 1 0 年 9 月 2 4 日

・使用開始年月日

平成 1 0 年 1 1 月 9 日

(2) 保健センターの主要施設

- 1 階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室
- 2 階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室・健康おおぐち 2 1 推進室

(3) 事務分掌

- (1) 予防接種に関すること。
- (2) 結核予防に関すること。
- (3) 感染症に関すること。
- (4) 医療団体等に関すること。
- (5) 救急医療に関すること。
- (6) 保健センターの管理運営に関すること。
- (7) その他地域保健対策に関すること。
- (8) 母子保健に関すること。
- (9) 成人保健に関すること。
- (10) 老人保健に関すること。
- (11) 健康増進に関すること。
- (12) 健康推進員に関すること。
- (13) 健康に係る教育及び地区組織の育成に関すること。
- (14) 介護保険の認定調査に関すること。
- (15) その他保健衛生に関すること。

(4) 主な事業内容

母子保健...母子健康手帳交付、妊婦相談、母親教室、パパママ教室、フレッシュママの会、乳幼児健診(4 か月児・9 か月児・1 歳6 か月児・3 歳児)、離乳食教室、子育て相談室、たんぼぼ教室、ちゅーりっぷの会、歯科健診、子どもの事故予防教育、子育てサークル等支援

成人保健...住民結核検診、基本健康診査(肝炎ウイルス検診)、がん検診(胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺)、わかば健康診査、健康手帳交付、健康相談、栄養相談、歯周病予防健診、生活習慣病予防教室(ステップアップ高脂血症予防教室)、B 型訓練教室(ひだまりの会)、高齢者の健康づくり教室(しなやかお達者教室)、生き生き体操、体力チェック

予防接種...集団接種：急性灰白髄炎(ポリオ)、BCG 接種
個別接種：麻疹、三種混合、二種混合、日本脳炎、風疹、インフルエンザ(65 歳以上等)

家庭訪問...第 1 子出生児全員及び希望者・低出生体重児(2000 g 以上)及び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、寝たきり(者)老人、精神障害者、介護保険認定調査等

健康推進事業...健康おおぐち 2 1 計画推進事業、健康推進員活動(OB 会も含む)、健康まつり等

その他...健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法 ・ その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
昭和 40			<ul style="list-style-type: none"> 昭和26年国民健康保険直営診療所開設 国保診療所改築 (1月)
41			<ul style="list-style-type: none"> 母子保健センター設立 (5月) (助産業務中心)
43			<ul style="list-style-type: none"> 保健婦1名退職
48	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦相談・出生児全戸訪問開始 0～3か月児健診 4～6か月児健診 7～12か月児健診 		
50	<ul style="list-style-type: none"> 出生児全戸訪問廃止 		<ul style="list-style-type: none"> 保健婦産休 (12月) 助産業務廃止 (3月) (保健指導業務のみとなる)
51	<ul style="list-style-type: none"> 1～2歳児健診開始 歯科健診開始 母子健康手帳の交付 母子センターに移行 		<ul style="list-style-type: none"> 保健婦1名採用 (4月) 助産婦4名退職 (9月) 保健婦1名採用
52	<ul style="list-style-type: none"> はは子教室(歯の健康教室)実施 1～2歳児健診廃止 (9月) 1歳6か月児健診開始 (10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 一般健康相談開始 地区巡回健康相談開始 寝たきり老人訪問開始 	<ul style="list-style-type: none"> 助産婦1名退職
53	<ul style="list-style-type: none"> 第1子全戸家庭訪問実施 乳児健診改正 4か月児健診開始 6か月児健診開始 健診時集団保健指導開始 母親教室2回コースとなる 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉会館での健康相談開始 畜産婦人部への保健活動開始 	<ul style="list-style-type: none"> 国民の健康づくり 市町村保健婦一体化になる 麻疹の予防接種について厚生省より通知個別接種になる (8月) 大口町総合福祉会館設立 (12月)
昭和 54	<ul style="list-style-type: none"> 6か月児健診廃止 9か月児健診開始 乳幼児健康カード改正 	<ul style="list-style-type: none"> 地区巡回健康相談廃止 家庭介護教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> 大口町健康づくり推進協議会設置
56			<ul style="list-style-type: none"> 母子センター係長設置 事務職員本庁配置となる
55	<ul style="list-style-type: none"> 育児教室開始 (7月) (1歳6か月児健診事後指導) 		

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
57		<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん検診開始 (12月) ・健康手帳交付開始 (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・看護婦1名臨時採用 (4月) ・老人保健法公布 (3月) ・老人保健法施行 (2月) ・国保診療所廃止 ・尾北歯科医師会による歯の健康センター開始
58	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産婦人部への保健活動廃止 ・一般健康診査開始 ・成人病教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・看護婦1名臨時から雇いとなる ・保健センター開設 (4月) ・保健婦1名退職 (9月)
59	<ul style="list-style-type: none"> ・育児教室をたんぽぽ教室に改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 (エアロビクス) 地区活動開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月)
60	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室3回コースとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区巡回健康相談再開 ・健康 (パネル) 展開始 	
61		<ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診開始 ・寝たきり家族の会開始 ・一般健康診査廃止 	
昭和 62	<ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査開始 ・70歳以上の老人健康実態調査 	
63		<ul style="list-style-type: none"> ・歩く健康教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名退職 (3月)
平成 元年		<ul style="list-style-type: none"> ・成人歯科相談開始 ・大腸がん検診・肺がん検診を町内医療機関にも委託 ・健康 (パネル) 展をミニ健康展に改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・国の高齢者保健推進「10年戦略ゴールドプラン」策定 ・高齢者サービス調整チーム会議開始 ・保健福祉調整会議 ・保健婦1名退職 (3月)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科相談開始 ・キッチンカー (県) による離乳食教室開始 (年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練教室としてひまわり教室開始(年6回) ・身体障害者を訪問しひまわり教室を紹介 ・乳がん検診町内医療機関に追加委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診に視力検査追加(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月1回となる ・ひまわり教室スタッフに作業療法士加わる ・送迎用リフトバス配置(1月) ・地区巡回健康相談廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月議会に「健康の町宣言」について一般質問
4	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室スタッフに栄養士加わる ・3歳児健診に聴力検査追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月2回となる ・生命の貯蓄体操開始 ・80歳以上老人及び要介護者の全戸訪問実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により、保健センターに本庁より衛生係移転、センター職員が課長補佐兼衛生係長1名として加わり6名となる(4月) ・8020運動推進対策事業開始(県) ・東保育園に障害者保育「うさぎ組」開設 ・事務職雇1名採用(7月)
平成 5		<ul style="list-style-type: none"> ・生命の貯蓄体操、国保とタイアップし前期・後期の2教室とする ・ひまわり教室野外活動導入 ・作業療法士、年間18回となる ・家庭介護教室(10回コースで実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町老人保健福祉計画を策定 ・大口町健康づくり企画推進委員会及び担当者部会設置 ・大口町議会定例会にて「大口町健康の町宣言」議決(12月) ・老人福祉センター内にデイサービスセンター(D型)開設
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室半日から一日となる。作業療法士24回となる ・男の料理教室開始・家庭介護教室(6回コース)で実施 ・家庭訪問に作業療法士加わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦活動業務が母子、成人の業務分担制となる ・保健所法の一部改正により地域保健法に改名(7月) ・母子保健法の一部改正(7月) ・予防接種法及び結核予防法の一部改正(10月) ・「健康の町宣言」記念式典記念講演会及び第1回健康まつり実施(11月12日・13日) ・国保人間ドック開始

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談スタッフに助産婦、栄養士加わる (各6回) ・保育園・保健センター連絡会開始 (12月に1回) ・日本脳炎・三種 (二種) 混合・風しんが個別接種となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきウォーキング講座開始 (8回コース) ・ひまわり教室に理学療法士加わる (年2回) ・家庭訪問に理学療法士 (2回) ・家庭訪問に作業療法士 (6回) ・骨検診開始 (11月・1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・特別養護老人ホーム「御桜乃里」開設 (4月)、在宅介護支援センター・デイサービスセンター (B型) が併設される (7月) ・老人福祉センター内デイサービスセンターがC型に変更 ・大口町健康推進員設置 (6月)
平成 8	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室4回コースとなる (妊婦歯科相談を母親教室の中に組み入れる) ・町で離乳食教室開始 ・「乳幼児相談」を「子育て相談室」に改名し、同時に2階にて「親子ふれあい広場」 (生涯学習課) を開設 ・自主子育てサークル誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室理学療法士、年6回になる ・ひまわり教室、花見交流会で豊山町来町・岩倉市来町 ・8020 運動歯の健康コンクール開催 ・歩く健康教室を歩く健康のつどいに改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関するアンケート実施 ・母子保健計画策定 ・精神保健法の一部を改正する法律公布 ・健康まつりを「ふれあいまつり」に統合 ・管内栄養士会設立 (1月) ・老人保健施設「さくら荘」開設 ・保健センター内に健康課新設 ・(仮称) 健康文化センター基本設計、実施設計 ・公衆衛生審議会で「生活習慣病」の概念を提言
9	<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室開始 (年2回) ・子育てサークル支援 ・3歳児健康診査、妊婦・乳児健康診査等、県より委譲される ・歯科健診の対象者を2歳、2歳6か月児とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング教室中止 ・ステップアップ教室開始 ・生命の貯蓄体操前期のみで終了 ・後期より太極拳教室開始 ・基本健康診査実施要領改正によりヘモグロビン A1c 加わる (平成5年より町は実施) ・町民歩け歩け大会開始 (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健法全面施行 (4月) ・母子保健法全面施行 (4月) ・保健サービス評価事業開始 ・地域福祉サービスセンター開設 (4月1日) ・健康推進員要綱改正 ・(仮称) 健康文化センター建設工事着手 (6月24日) ・臓器の移植に関する法律施行 (10月) ・介護保険法制定 (12月) ・予防接種電算化

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
10		<ul style="list-style-type: none"> ・大口町健康文化センター竣工記念「ウォーキング大会」開催 (11月8日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町が医師会関係を取りまとめる (4月から) ・栄養士1名採用 (4月) ・訪問看護ステーション開設の準備、看護婦1名採用 (4月) ・介護保険モデル事業実施 ・大口町介護保険事業計画及び新高齢者保健福祉計画策定のための町民意識調査実施 ・大口町健康文化センター竣工 (9月24日) ・大口町健康文化センターの1・2階部分に保健センター移転 (11月9日) ・保健センター内に機能訓練室、栄養実習室等整備される ・がん検診に係る経費が一般財源化される ・精神保健福祉法施行
平成 11	<ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき教室時母親に対しても染め出しブラッシング指導開始 ・子育て情報コーナー設置 ・乳幼児の救急蘇生と応急処置の講習会開始 ・離乳食教室(前期)を隔月実施に増設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室を半日とし、毎週実施 ・健康情報コーナー設置 ・健康手帳発行を老人医療窓口の一部移管する ・介護保険認定調査訪問開始 (10月) ・基本健康診査の広域化(扶桑大口医療機関) ・機能訓練自主活動発足を支援 ・地域リハビリ教室実施に向けて、ボランティアの研修会を実施 ・ひまわり教室(A型機能訓練)廃止 (3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・「精神薄弱」の用語が「知的障害」に改められる (4月) ・訪問看護ステーション開設(4月) ・伝染病予防法廃止 (4月) ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行 (4月) ・西児童センター開設 (5月) ・大口町障害者福祉計画実施 ・男女共同参画社会基本法公布 (6月) ・結核非常事態宣言 (7月) ・精神保健福祉法 一部改正 ・大口町新高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定(3月) ・愛知県市町村保健行政栄養士連絡協議会設立 (3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュママの会を母親教室時に開催(4月から) ・児童センターでの赤ちゃん広場支援開始 ・乳幼児健診(4か月・9か月・1歳6か月)時の集団指導をグループ指導に変更 ・1歳6か月児健診時、歯の染め出し開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりの会(B型機能訓練)を大屋敷学共にて開始 ・ひまわり教室(A型機能訓練)自主活動開始 ・成人歯科相談の名称を大人のための歯みがき教室と改める(後半) ・介護者の健康実態調査実施 ・2か所目のB型機能訓練実施に向けボランティア研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に他課(地域振興課)入る(4月) ・介護保険スタート(4月) ・地方分権一括法(4月) ・21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」がスタートし2010年度をめどとした目標値を定めた ・県が「健康日本21あいち」を策定(3月) ・児童虐待の防止等に関する法律の施行(11月)
平成 1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・はみがき教室廃止 ・母子保健計画策定のための「子育てに関するアンケート」実施 ・貧血予防セミナー開始 ・もぐもぐ教室(後期離乳食教室)開始 ・小児肥満予防教室開催 ・歯科健診時の染め出し実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小口地区ひだまりの会開催 ・介護者の健康実態調査をまとめ、介護保険説明会時、地区にて報告また、愛知県公衆衛生研究会にて発表 ・高齢者(65歳以上)のインフルエンザワクチン接種開始 ・ステップアップ糖尿病教室のまとめを県で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に地域振興課と入れ替えに福祉課が入る(4月) ・国保人間ドック時に脳ドックを導入 ・総合健康指導事業と高齢者健康指導事業(国保補助事業)を実施し、健康に関する実態調査、健康教育を実施(13年、14年度) ・大口町在宅医療等推進支援情報提供システム等、介護保険支援訪問事業実施 ・保健師2名産休(11月～) ・保助看法の一部改正に伴い、保健師、助産師、看護師となる(3月1日) ・大口町母子保健計画(見直し)策定(3月) ・予防接種法の一部改正があり、二類疾病としてインフルエンザが追加される(11月7日) ・健康推進員OB「ほほえみ会」3部会(ウォーキング、食、劇)となる

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健推進連絡会議開催 ・貧血セミナー廃止 ・母親教室第4回にパパママ教室を組み込む(年3回→年6回) ・1歳6か月児、3歳児健診時、保育士配置 ・妊婦・乳児健康診査の県外受診も可とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検診を基本健康診査に加える ・基本健診の期間変更(8月～10月)となる ・福祉講演会・健康まつり時健康劇発表 ・ひだまりの会やろまい大祭に参加 ・(仮)健康おおぐち21策定に向けての準備 ・健診関係の電算化に向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・町制40周年 ・健康文化センターの管理が健康課担当となる ・医師会関係事務の担当が犬山市になる(4月から) ・栄養士法改正に伴い、管理栄養士・栄養士は別免許となり、管理栄養士が免許制となる(4月) ・保健師2名育休(4月～12月)(4月～3月) ・健康保険法等の一部を改正する法律施行(10月1日～)に伴い健康手帳の交付についての一部改正 ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正(4月)
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゅーりっぷの会開催(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかば健康診査開始(20歳～39歳対象) ・8020運動歯の健康コンクールに9018表彰を追加 ・住民検診時の検尿・身長体重計測等廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・結核予防法施行令の一部改正により、小中学生のツベルクリン反応・BCG接種廃止(4月) ・肝炎ウイルス検診等実施要領の一部改正により、HCV抗体検査で中力価及び低力価とされた検体に対してHCV抗原検査等実施となる ・健康増進法施行(4月30日) ・受動喫煙防止対策について通知(4月30日) ・重症急性呼吸器症候群(SARS)、高病原性鳥インフルエンザで対応マニュアル、連絡会議等実施 ・健康日本21大口町計画策定委員会設置(7月1日～3月31日) ・訪問看護ステーション看護師7月退職 ・次世代育成支援対策推進法(7月) ・大口町巡回バス試行開始 ・大口町庁内グループウェア開始 ・市町村合併について任意の三市二町合併検討協議会を設置したが解散となる(3月) ・第2次障害者福祉計画策定(3月) ・「健康おおぐち21」策定(3月) ・保健師2名産休育休(4月～3月)(11月～) ・管理栄養士産休(3月～) ・保健師1名退職(3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月) ・愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日) ・赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月~) ・母子保健システム、予防接種電算化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(Gを導入)を実施し、自己負担金を徴収する ・住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月) ・保健師2名・看護師1名採用(4月) ・保健師1名嘱託採用(4~3月)(訪問看護ステーション) ・保健師1名育休(4月~3月) ・管理栄養士1名育休(4月~3月) ・愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月) ・児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月) ・健康おおぐち21「元気体操」作成(2月) ・「健康おおぐち21」推進イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日) ・健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月) ・大口町次世代育成支援行動計画を策定(3月) ・大口町訪問看護ステーション廃止(3月) ・虐待防止連絡会担当者会議開始(3月) ・愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回) ・BCG直接接種となる(4月) ・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月) ・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月) ・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月) ・麻しん風しん混合ワクチン接種が18年4月施行となる(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査を除く各種検診を有料とする ・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月~10月) ・わかば健診時歯科健診実施 ・8020運動表彰を「健康ウォーク&元気まつり」時に実施 ・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施 ・大屋敷ひだまりの会休止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行(4月) ・発達障害支援法施行(4月) ・医療観察法施行(7月) ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施 ・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月) ・第6次大口町総合計画策定(3月) ・保健師1名退職(3月) ・大口町母子通園事業試行(4月~3月)

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業は、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛され、かつ心身ともに健やかに育つことを目指している。

しかし、近年は少子化や核家族化、地域連帯意識の稀薄化、など、母子を取り巻く環境は著しく変化しており、それに伴う育児不安や家族機能の弱体化などが大きな社会問題となっている。

平成17年度は①健診・家庭訪問を通しての子育て支援・虐待予防②健診後のフォロー体制の整備③他機関との連携の3つを重点課題に取り組んだ。

幼児期の健診では、言語・精神発達面でフォローするケースが増加している。健診後の継続的な支援ができるように、こども課等をはじめとした他課と連携を密にすることなどで体制の見直しを図りフォロー体制を整えていった。

また、子どもたちの健康を取り巻く現状には、基本的な生活習慣の未定着などいくつかの課題があがっている。そこで、健診や健康教育の時に「生活リズム」を整えることの大切さを伝えていった。また、子どもの健康を取り巻く課題は様々あり、その課題を解決するためには子どもの成長に関わる他機関との連携が不可欠である。そこで今年度から保育園・小学校・中学校・保健センターの職員で「子どもの健康に関する連絡会」を定例的にもち、「食育」をテーマに連携を深めながら活動をしていった。

今後も関係機関とより連携を深め、課題を共有しながら保健活動を展開していきたい。



母子保健 管理体系

妊娠中	母子健康手帳交付・妊婦相談	妊婦・乳児健康診査事業	医療機関・保健所・保育園・児童センター・児童相談センター・学校との連携
	母親教室（3回1コース） パパママ教室		
出生	乳幼児健康カード作成		子育て相談室（親子ふれあい広場） 生涯学習課との連携
乳児期	赤ちゃん訪問		
	フレッシュママの会		
	4か月児健康診査	離乳食教室（初期～中期） 〃（中期～後期）	
	9か月児健康診査		
幼児期	1歳6か月児健康診査		予防接種（集団・個別）
	歯科健診 （2歳・2歳6か月児）	1歳6か月児・3歳児 健康診査事後指導教室 （たんぽぽ教室）	
	3歳児健康診査	ちゅーりっぷの会	
	就園	各園庭開放 年12回 すくすくひろば	
小学校入学	就学指導委員会	※「子どもの健康」に関する連絡会 （保育園・養護教諭・健康課）	
		※必要に応じて（家庭訪問 面接相談 電話相談）を実施	
		※事故予防教育（母親教室第3回、 乳幼児健康診査、赤ちゃん広場等）	

2 母子健康手帳の交付・妊婦相談

(1) 目的

妊婦の健康を守り健全な児を生み育てることができるよう保健指導する。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

第1・3月曜日 午前10時～ ・ 随時（希望により）

(4) 内容

ア 母子健康手帳の交付及び活用方法の説明

イ 妊娠中の保健指導（栄養・日常生活の注意・母乳保育について）

ウ 保健センターの行事内容説明と案内

(5) 妊娠届出状況

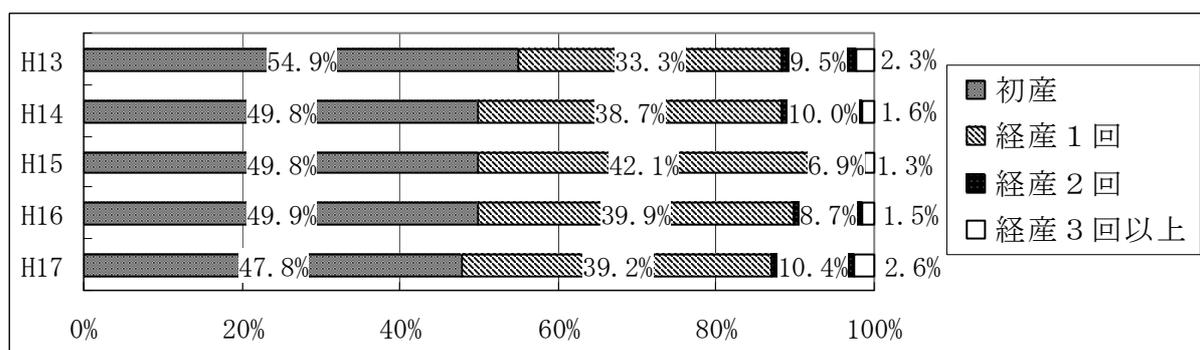
ア 届出時の妊娠週数

（単位：上段・人 下段・%）

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	年齢	
		11週以内	12～21週	22～27週	28週以降	不詳			20歳未満	40歳以上
13	264 (100.0)	115 (43.6)	149 (56.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)				
14	251 (100.0)	82 (32.7)	162 (64.5)	4 (1.6)	2 (0.8)	1 (0.4)				
15	233 (100.0)	72 (30.9)	157 (67.4)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	85 (36.5)	5 (2.1)	5 (2.1)	5 (2.1)
16	263 (100.0)	79 (30.0)	177 (67.3)	3 (1.2)	4 (1.5)	0 (0.0)	97 (36.9)	9 (3.4)	2 (0.8)	1 (0.4)
17	268 (100.0)	98 (36.6)	166 (62.0)	2 (0.7)	2 (0.7)	0 (0.0)	100 (37.3)	9 (3.4)	2 (0.7)	6 (2.2)

※母子手帳発行時のアンケートにおいて「喫煙していたがやめた」と答えた妊婦が35名いた。

イ 年次別経産・初産の割合



3 妊婦・乳児健康診査

(1) 目的

妊婦・乳児に対し異常を早期に発見し適切に対処することで妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の個々にあった発達を支援する。

(2) 対象

妊婦および乳児（平成17年4月～平成18年3月受診者）

(3) 内容

母子健康手帳発行時に、妊婦健康診査受診票2枚（第1回・第2回）、乳児健康診査受診票2枚（第1回・第2回）を発行し、医療機関委託で実施している。

平成14年度より県外受診も補助対象にした。

(4) 結果

ア 妊婦健康診査受診結果

（単位：人・％）

	受診票 交付数 1	受診 人員 1	受診率	受 診 結 果					
				異常なし	所見あり（延件数）				
					高血圧 蛋白尿	尿糖	貧血	HBs抗原 陽性	その他
第1回	272(13)	249(12)	91.5	173	4	1	70	0	1
第2回	284(17)	232(10)	81.7	139	0	0	92		1
計	556(30)	481(22)	86.5	312	4	1	162	0	2

1 ()内は県外受診の再掲

所見あり基準

高血圧：140/90mmHg	貧血：11.0g/dl未満
尿蛋白：++以上	尿糖：++以上

イ 乳児健康診査受診結果

（単位：人・％）

	受診票 交付数 1	受診人員 1	受診率	受診結果	
				異常なし	所見あり (延件数)
第1回	288(29)	222(16)	77.1	217	5*
第2回	297(0)	177(0)	59.6	169	8*
計	585(29)	399(16)	68.2	386	13

1 ()内は県外受診者の再掲

* 体重増加不良2、臍ヘルニア1、左移動精巣1、モロー反射(-)1

* 心雑音1、湿疹1、停留精巣1、臍ヘルニア1、水イボ1、頭部挙上不可1、AF2 1、下痢1

4 母親教室

(1) 目的

ア 妊婦と胎児の健康を守るための正しい知識を身につけるとともに、母性を育て育児について学ぶ機会とする。

イ 地域において、母親同士の交流がもてるよう援助する。

ウ 歯科健診・歯科相談をおこない、歯科保健への関心を高める。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

第1回 偶数月第3金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠5・6か月頃)

第2回 奇数月第2金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠6・7か月頃)

第3回 奇数月第3金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠7・8か月頃)

(4) 内容及び従事者

	内 容	従事者	実施回数	備考
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の栄養 ・ビデオ『あかちゃん このすばらしき生命』 ・グループワーク ・安産ワンポイントレッスン 	在宅栄養士 保健師	6回	—————
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ『おなかの中から始まる丈夫な歯育て』 ・歯科健診 ・食生活チェック ・ブラッシング指導 ・安産ワンポイントレッスン 	歯科医師 歯科衛生士 管理栄養士 保健師	6回	歯科健診 食生活チェック ブラッシングをロー テーションで実施
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な赤ちゃんを産むために ～お医者さんからのアドバイス～ ・ビデオ『母乳』 ・お産を楽に 妊婦体操 ・グループワーク 	産婦人科医師 保健師	6回	—————

(5) 母親教室参加状況

(単位：人・%)

年度	対象者	第1回		第2回		第3回		第4回	
		参加数	参加率	参加数	参加率	参加数	参加率	参加数	参加率
13	250 (142)	67 (56)	26.8 (39.4)	71 (57)	28.4 (40.1)	68 (55)	27.2 (38.7)	53 (43)	21.2 (30.3)
14	251 (125)	65 (53)	25.9 (42.4)	78 (54)	31.1 (43.2)	54 (45)	21.5 (36.0)	パパママ 教室へ移行	
15	233 (116)	54 (46)	23.2 (39.7)	65 (50)	27.9 (43.1)	53 (49)	22.7 (42.2)		
16	263 (131)	51 (37)	19.4 (28.2)	70 (44)	26.6 (33.6)	51 (37)	19.4 (28.2)		
17	268 (128)	37 (32)	13.8 (25.0)	47 (37)	17.5 (28.9)	44 (38)	16.4 (29.7)		

※参加数の()内は初産婦を再掲

5 パパママ教室

(1) 目的

妊娠や育児を夫婦のこととしてとらえ、それぞれの役割を考える機会とする。

(2) 対象

妊婦及びその夫

(3) 日時

偶数月第4金曜日 年6回 午後1時30分～4時00分

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ『お父さんへ ～赤ちゃんからのメッセージ～』 ・お産の経過 ・リラックス法 ・先輩ママとの交流会 ・妊婦疑似体験（妊婦シミュレーター使用） 	<p>助産師 保健師</p>

(5) 参加状況

(単位：回・人)

年度	実施回数	参加者数	初産（再掲）	父親参加者数（再掲）
16	6	65	39	22
17	6	44	28	16

(6) 参加動機

- ・夫婦で準備する上で必要だと思ったから
- ・一度は参加しようと思い

(7) 参加者の感想（父親・母親）

〈母の感想〉

- ・赤ちゃんはちゃんとパパの存在を感じているのだな
- ・もっとお父さんにおなかの赤ちゃんに声をかけてもらおう
- ・初めて赤ちゃんを抱っこして感激した。出産に対して実感が湧きとてもいい経験になりました
- ・父親の存在が大きかった（ビデオを見て）
- ・近所のママ達と知り合いになれる機会になったので良かったです
- ・少しずつ不安が解消されていくような気がします

〈父の感想〉

- ・赤ちゃんとコミュニケーションをたくさんとりたいです
- ・責任もあるけど、早くパパになりたいと思いました
- ・親子の関係、お腹の中にいる時から始まっているんだ
- ・しっかり聞こえているんだな。もっと話しかけよう
- ・先輩ママ達は、生活が赤ちゃん中心になっていた。出産前のアドバイスをしてもらえて良かった。生まれてからの生活を垣間見ることができた

6 フレッシュママの会

(1) 目的

出産をして間もない時期は、外出する機会も少なく、母親が1人で育児の悩みを抱えやすい。同じ立場の母親たちと集うことにより、母親同士が共感し前向きに育児に取り組めるよう支援する。

(2) 対象

生後1～3か月頃の乳児と母親

(3) 日時

偶数月第4金曜日 午後2時～3時30分（パパママ教室と一部同時開催）

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> ・ 座談会 ・ 予防接種の説明 ・ 赤ちゃんの計測（希望者） ・ 妊婦さんとの交流 	保健師 助産師

(5) 参加状況

年度	実施回数	参加者数（初産）
15	6	53組
16	6	78組
17	6	68組（55組）

7 低体重児の状況

（単位：人・％）

分類 年度	出生 児数	低体重児 出生数	率	1,300g 未満	1,300～ 1,499g	1,500～ 1,799g	1,800～ 1,999g	2,000～ 2,299g	2,300～ 2,499g
13	264	23	8.7				4	14	5
14	279	30	10.8		2	2	2	11	13
15	253	28	11.1	1	1	0	6	6	14
16	250	22	8.8	3	0	0	0	4	15
17	229	29	12.6	1	2	0	1	9	16
愛知県 (H16)	70,417	6,845	9.7	335	154	357	487	1,975	3,537

2,000g以上の低体重児は町の保健師が訪問している。

8 乳幼児健康診査

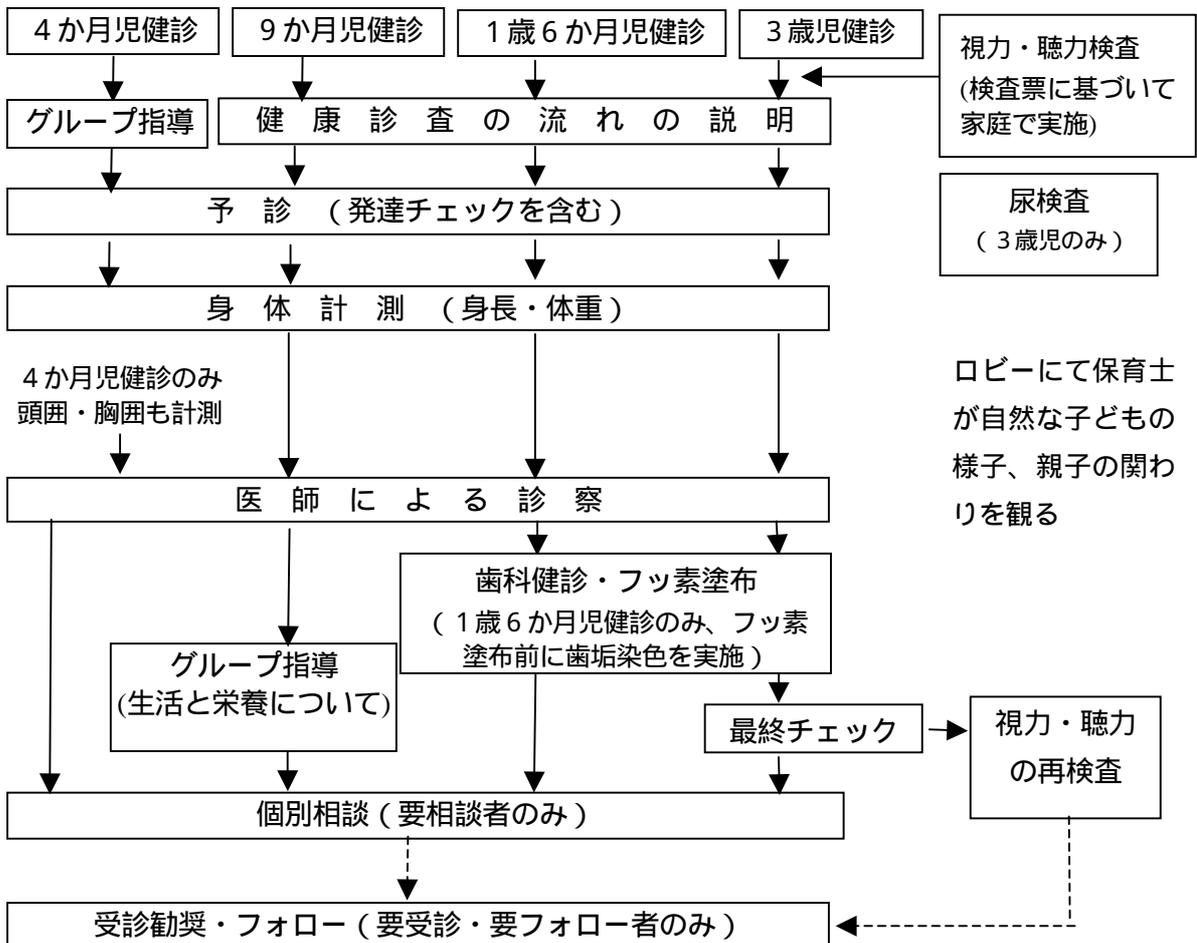
(1) 目的

乳幼児期の大切な節目である時期に、発育発達状況を確認することで、疾病や心身障害の早期発見に努める。また、個々の成長、育児に合わせた保健指導を行い、子育てを支援する。

(2) 対象・日時・従事者等

事業名	対象児	実施日	従事者	個人通知
4か月児健康診査	4か月児	毎月第4水曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・事務	有
9か月児健康診査	9か月児	毎月第2火曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・事務	無
1歳6か月児健康診査	1歳6か月児	毎月第3火曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・看護師・管理栄養士 心理判定員・保育士・事務	有
3歳児健康診査	3歳児	毎月第1水曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・助産師・管理栄養士 看護師・保育士・心理判定員 事務	有

(3) 内容



(4) 実施状況

ア 4か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
13	12	256	248	96.9	148	43	17	26			
14	13	287	274	95.5	190	44	31	15			
15	12	249	245	98.4	174	45	24	18			
16	12	245	238	97.1	177	31	22	11	3	3	0
17	12	230	227	98.7	155	13	40	11	8	11	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
聴力障害(疑)	15	10	5	0	15	0	0	0
湿疹・皮膚炎	11	9	2	9	2	0	0	0
運動・感覚器発達異常	10	4	6	1	9	0	0	0
体重増加不良	9	3	6	1	7	0	0	1

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	10	5	5	4	6	0
環境	4	3	1	0	4	0
哺乳	3	3	0	3	0	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成16年7月～平成17年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	38	29	9	1	7	16	6	9
体重増加不良	6	5	1	0	0	3	2	1
運動・感覚器発達異常	6	6	0	0	0	5	0	1
聴力障害(疑)	6	6	0	0	0	3	0	3
泌尿器・腎疾患(その他)	3	0	3	1	3	0	0	0
その他の疾患	17	12	5	0	4	5	4	4

◆保育・家庭環境分類(降順) ※平成16年7月～平成17年6月受診者

(単位：人)

保育環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	2	2	0	0	1	0	1
育児能力	2	2	0	0	1	0	1

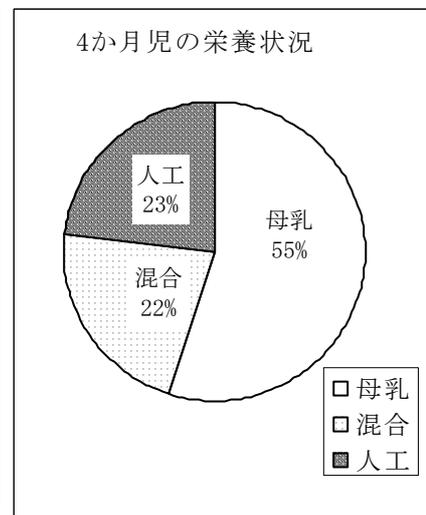
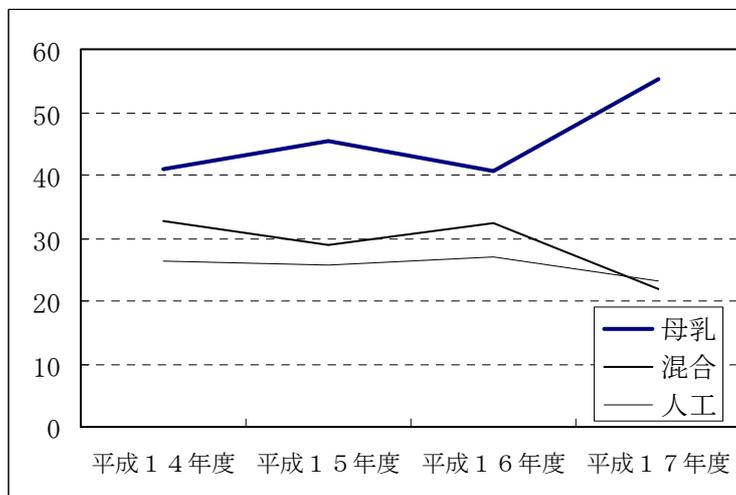
(エ) 4か月児の栄養状況

(単位：上段・人 下段・%)

年度・出生		栄養方法	合計	母乳	混合	人工
14 年 度	第1子		149 (100.0)	60 (40.3)	52 (34.9)	37 (24.8)
	第2子以降		117 (100.0)	49 (41.9)	35 (29.9)	33 (28.2)
	合計		266 (100.0)	109 (41.0)	87 (32.7)	70 (26.3)
15 年 度	第1子		117 (100.0)	46 (39.3)	40 (34.2)	31 (26.5)
	第2子以降		123 (100.0)	63 (51.2)	29 (23.6)	31 (25.2)
	合計		240 (100.0)	109 (45.4)	69 (28.8)	62 (25.8)
16 年 度	第1子		130 (100.0)	48 (36.9)	49 (37.7)	33 (25.4)
	第2子以降		107 (100.0)	48 (44.9)	28 (26.2)	31 (28.9)
	合計		237 (100.0)	96 (40.5)	77 (32.5)	64 (27.0)
17 年 度	第1子		107 (100.0)	60 (56.1)	30 (28.0)	17 (15.9)
	第2子以降		109 (100.0)	59 (54.1)	17 (15.6)	33 (30.3)
	合計		216 (100.0)	119 (55.1)	47 (21.8)	50 (23.1)

※対象者は、4月から翌年3月までの4か月児健康診査受診者

(オ) 栄養方法の年次推移



イ 9か月児健康診査

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
13	12	269	232	86.2	186	20	8	18			
14	12	255	233	91.4	178	25	24	14			
15	13	266	233	87.6	178	30	24	8			
16	12	255	223	87.5	161	17	19	11	12	9	0
17	12	232	202	87.1	156	8	11	10	22	7	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

ウ 1歳6か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
13	12	260	249	95.8	185	20	31	13			
14	12	261	253	96.9	176	20	61	17			
15	13	273	266	97.4	174	51	42	18			
16	12	246	240	97.6	146	28	52	14	6	15	0
17	12	238	231	97.1	123	17	78	15	10	14	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
言語発達	54	36	18	0	54	0	0	0
精神発達	11	7	4	0	11	0	0	0
運動・感覚器発達異常	5	2	3	0	4	1	0	0

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	7	3	4	1	6	0
食事・おやつ	6	2	4	5	1	0
偏食・小食	5	3	2	3	2	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成16年7月～平成17年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	65	53	12	1	8	10	41	6
言語発達	40	40	0	0	0	4	32	4
精神発達	5	5	0	0	0	1	3	1
運動・感覚器発達異常	5	4	1	1	0	4	1	0
心雑音	4	0	4	0	2	1	0	1
その他の疾患	11	4	7	0	6	0	5	0

◆保育・家庭環境分類（降順）※平成16年7月～平成17年6月受診者（単位：人）

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	13	13	0	0	3	7	3
育児能力	3	3	0	0	1	2	0
離乳	3	3	0	0	2	0	1
その他	7	7	0	0	0	5	2

エ 3歳児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
13	12	259	237	91.5	126	25	59	45			
14	12	268	249	92.9	146	20	68	29			
15	12	252	250	99.2	164	29	53	26			
16	12	242	231	95.5	135	16	59	62	6	8	0
17	13	247	238	96.4	141	7	77	44	7	11	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位4項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
眼科検査未実施	37	22	15	0	37	0	0	0
言語発達	20	14	6	2	18	0	0	0
視力障害・斜視(疑)	16	9	7	0	1	15	0	0
聴覚障害(疑)	12	9	3	0	0	12	0	0

◆保育・家庭環境分類(上位2項目)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
食事・おやつ	8	5	3	6	2	0
育児能力	6	4	2	0	6	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順)

※平成16年7月～平成17年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	114	61	53	31	16	53	36	9
眼科検査未実施	38	38	0	2	0	21	14	3
視力障害・斜視(疑)	19	0	19	15	2	9	7	1
聴覚障害(疑)	17	1	16	9	0	10	5	2
言語発達	8	8	0	0	1	1	5	1
精神発達	5	3	2	1	3	0	2	0
その他	27	11	16	4	10	12	3	2

◆保育・家庭環境分類（降順） ※平成16年7月～平成17年6月受診者 (単位：人)

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要借置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	3	3	0	0	0	3	0
育児能力	2	2	0	0	0	2	0
偏食・小食	1	1	0	0	0	1	0

※個人通知をする健診の受診率は95%以上となっている。その後のフォローについては電話や子育て相談、訪問等にて行っている。

また、1歳6か月児健診終了後、3歳児健診までには間隔があるため、歯科健診（2歳・2歳6か月児対象）時の母子手帳返却時に個別相談を行っている。

健診の機会には子どものみではなく、子育てに主に関わっている母親、それをとりまく背景にも目を向け、支援をしていく姿勢で取り組んでいる。

来年度から、9か月児健診を10か月児健診に改め、個別通知を行う。また、健診の事後フォロー体制を充実させる。

9 子育て相談室

母の育児を認め、個々の発育・発達を確認し、的確な指導が受けられることは、母親にとってひとつの支えとなっている。また、要観察児の経過観察の機会ともなり、母親同士の交流、子どもの遊び場としての利用もできるため、来所者は多い。

(1) 目的

- ア 親子との交流を通して、不安の軽減や仲間づくりを支援する。
- イ 児の成長発達に合わせた育児を具体的に支援する。
- ウ 妊娠中から子どもの姿を見たり、触れたりする機会を持つことで、これからの子育てに向けて心の準備ができる。

(2) 対象

乳幼児とその育児者、妊婦

(3) 日時

第2・第4木曜日 午前9時30分～11時30分

(4) 内容

身体計測（身長・体重）・個別相談

(5) 従事者

保健師・管理栄養士・助産師・看護師・事務員

(6) 実施状況

ア 来所者数

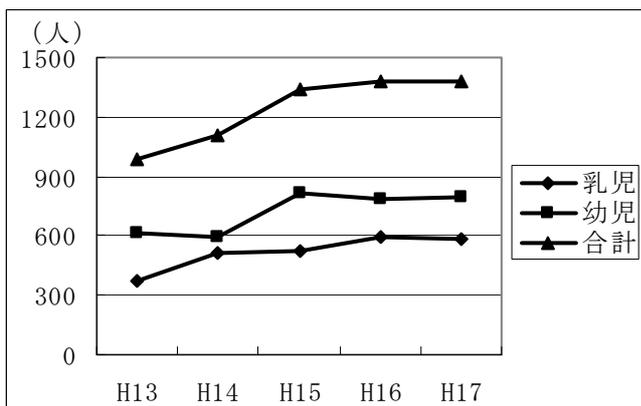
(単位：人)

延人員	実人員	乳 児			幼 児			要観察の内容 (再掲)		
		延人員	実人員	要観察児 (再掲)	延人員	実人員	要観察児 (再掲)	身体	精神	育児
1,381	290	588	139	14	793	151	24	111	85	17

*延人員には計測のみ的人数を含む。また、要観察児の再掲は実人員

*要観察の内容は延べ件数(重複あり)

イ 相談者の推移 (延べ人数)



ウ 相談内容

(単位：人)

	乳児	幼児	計
身体 (発達・発育)	60	43	103
栄養 (母乳・離乳食等)	153	92	245
育児・生活	103	128	231
予防接種	27	9	36
その他	19	5	24
計	362	277	639

※前年度、体制を整えたことで計測や相談が効率よく行なわれた。来所者の動向としては、実人員は39人減少し、延人員は1人増加した。要観察児の相談は12件増加した。

また、妊婦の相談は、母子手帳交付時や母親教室時に啓発を行っているが、年間1～2件で少なく、ニーズが少ないと考えられる。

来年度、相談体制をさらに充実化させるため、1回は今までどおり、もう1回は予約制にし、個室でゆっくりと相談できるよう体制を整えていく。



10 家庭訪問

(1) 赤ちゃん訪問

ア 目的

初めての出産・育児で不安や悩みの多い第1子と、第2子以降の希望者に対し、家庭訪問により児と母親の健康状態を確認し、個々に応じた適切な保健指導を行う。

イ 対象

第1子（全戸）及び第2子以降の希望者の母親・家族

ウ 日時

訪問希望届により随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック・育児相談・保健指導

オ 従事者

保健師・在宅助産師

カ 訪問状況

(単位：人)

	訪問件数		内訳		
	保健師	助産師	新生児	未熟児	その他
第1子	38	42	14	11	55
第2子以降	46	37	20	4	60
産婦	75	79			
計	84	79	34	15	115

*新生児・未熟児の重複2件

(2) 要観察児等訪問

ア 目的

若年、妊娠中毒症などのハイリスク妊婦、発達・発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある母子等、健診未受診者に対し、家庭にあったきめ細やかな保健指導を行い、安心して育児ができるよう支援する。

イ 対象

ハイリスク妊婦
要観察児と家族、健診未受診者

カ 訪問状況 (単位：人)

	実人員	延人員
妊婦	3	3
乳児	2	2
幼児	32	45
計	37	50

ウ 日時

随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック
育児相談・保健指導

オ 従事者

保健師

1.1 たんぽぽ教室

(1) 目的

1歳6か月・3歳児健診の事後指導の一環として、発達及び育児上問題があると思われる幼児に対し、集団の場を通じて、母親とともに子どもに応じた関わりを体験し、考えていくことにより児のより良い発達を促す。

(2) 対象

ア 健診時に育児及び発達上問題があると思われる、経過観察が必要な児とその母親
イ その他、育児環境等に問題があると思われる児とその母親

(3) 日時

毎月第1木曜日 午前9時15分～正午
午後1時～3時 (スタッフ間でカンファレンス)

(4) 内容

時 間	内 容
AM9:15～ 9:45	スタッフ間の事前カンファレンス
9:45～10:25	親子遊び(設定遊び) 手遊び 体操 親子遊びなど
10:25～10:35	トイレ おやつ 排泄、手洗い、あいさつ、後片付けの面で指導
10:35～11:35	母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの係わり合い、自由遊び)
11:35～11:45	担当者と母親との話し合い 母子分離している間の児の様子について

※ 随時個別面接(言語聴覚士、心理判定員) 17年度は10名面接

(5) 従事者

言語聴覚士・心理相談員・保健師・保育士・一宮児童相談センター心理判定員(年5回)

(6) 実施状況

(単位：人)

項目 年度	実施回数	対象児数	参加親子組数 (延べ)	1回平均 参加組数
13	12	16 (9)	93	7.8
14	12	22 (10)	144	12.0
15	12	20 (12)	122	10.2
16	12	21 (11)	139	11.6
17	12	25 (19)	90	7.5

()は新規対象児の再掲

(7) 参加者の状況

(単位：人)

精神発達の問題	精神発達・運動発達両方の問題	診断名がついている児(再掲)
21	4	3

(8) 参加者のその後の状況

(単位：人)

母子通園	就園	転出	継続
10	6	4	5

教室後のスタッフとの話し合いの他に、個別相談や訪問を行い、母子に応じた関わりへの支援や、フォロー体制の充実、母子通園への同行見学など継続フォローに努めることができた。

1 2 ちゅーりっぷの会

(1) 目的

子ども自身の問題と育児不安など育児環境面での問題等がある親子に対し、発達に応じた遊びやかかわり方を知ることで、親が自信をもって子育てができることを目的とする。

(2) 対象

2歳前後の親子で発達および育児支援が必要な児

(3) 日時

毎月第4火曜日 午前9時～午前11時45分
午前11時45分～正午（スタッフ間でカンファレンス）

(4) 内容

時 間	内 容
AM 9:30～10:00	受付 シール貼り
10:00～10:10	スタッフと親子共同遊び 体操 地球をどんでん 動物体操 名前呼び ○○さんの母が担当
10:10～10:40	設定遊び
10:40～11:20	子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの係わり 合い、自由遊び) 母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う)
11:20～11:25	手遊び さよならの歌

(5) 従事者

保健師・保育士（毎月）・心理相談員（奇数月）

(6) 実施状況

（単位：人）

項目 年度	実施回数	対象児数	参加親子組数(延べ)	1回平均参加組数
17	12	45	132	11.0

(7) 参加者のその後の状況

（単位：人）

卒業	たんぽぽ教室に移行	母子通園	転出	継続（来年度たんぽぽ教室）
11	12	3	3	16

17年度は1クール4回とし、4回目に児の成長を母親とともに確認し、今後の課題や卒業または継続するか等について話し合った。必要に応じて、一宮児童相談センターの心理判定員による面接（3名）、地域での子育て支援（園庭開放、すくすく広場、児童センター等）の紹介、家庭児童相談の勧奨等を行った。

参加人数は、昨年と比べてはるかに多かった。今後も適切な時期に必要なフォローができるよう努めていきたい。

1 3 離乳食教室

(1) らくらく離乳食教室（離乳食初期・中期）

ア 目的

離乳食の準備期から中期の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。

イ 対象

離乳食準備期から中期の乳児とその保護者

ウ 日時

奇数月 第3火曜日 午前10時～11時30分

エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食初期～中期頃についての講話
- ・離乳食のデモンストレーションとその試食
- ・個別相談（希望者）

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

実施回数	参加延べ人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児
6回	81人 (平均13.5人)	35人 (43.2%)	45人 (55.6%)	1人 (1.2%)

(イ) 参加者出生順位別人数

第1子	73人
第2子	8人

(ウ) 個別相談実施人数

44人

4か月児健康診査受診後で離乳食開始前の乳児の参加が多く、教室を受講後に離乳食を始めようと考えている親の参加が多かった。親自身の食生活の不規則や野菜不足など栄養バランスの悪さから離乳食のイメージがわからない親の参加もあり、デモンストレーションでは、家族全体の食を捉えて離乳食の初期段階でもできる取り分け方を中心に実施し、好評を得ている。また食物アレルギーを心配する親も多いことから、主に旬の野菜を用いて食品の進め方を啓発している。試食では、未開始の児も多いことから親自身に試食を呼びかけ、舌触りや素材の味を体験してもらっている。しかし、「まずい」「味がしない」などの声も聞かれるため、離乳食の意義と必要性についての啓発が必要と感じる。

個別相談の内容は、スプーンでの与え方や離乳食初期の食品の扱い方の質問が多い。また、ベビーフードを利用する保護者もあり、離乳食が進むにつれて口腔の発達に合わせた離乳食を進める必要性を正しく認識できるようすすめていきたい。

(2) もぐもぐ教室（離乳食中期以降）

ア 目的

生活を営むうえで基本となる食事も、離乳食の量・回数がともに増え、ますます親の食事が基本となるこの時期に、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。また、咀嚼の促しや歯の萌出に合わせた離乳食の形態について具体的に指導する。

イ 対象

離乳食中期以降の乳児とその保護者

ウ 日時

平成 17 年 6 月・10 月 平成 18 年 1 月・3 月の 4 回 各回午前 10 時～12 時
(17 年 12 月の計画分を雪による荒天のため、18 年 1 月に変更した)

エ 場所

保健センター 1 階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食初中期以降の進め方についての講話
- ・実習（親の食事からの取り分け食）とその試食
- ・個別相談（希望者）

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

実施回数	参加延べ人数	7か月未満児	7・8か月児	9か月以上児
4回	55人 (平均 13.8人)	1人 (1.8%)	25人 (45.5%)	29人 (52.7%)

(イ) 参加者出生順位別人数

第1子	47人
第2子	7人

(ウ) 個別相談実施人数

35人

※ 参加者からは実習・試食をして普段の食事の味つけや形態のまずさ等、保護者自身が気付くことができた。また、離乳食が進まない児では、生活リズムがととのっていないなかったり、まだ授乳時間が一定でなかったりする児が目立ち、親自身の生活リズムが不規則であり、食生活の乱れが根底にあるように感じた。

個別相談では、実際に試食する児の様子を観察しながら、咀嚼の促しや離乳食の形態を指導していった。

年間の参加者数は横ばいで推移しているが、開催日が不定期のため、低月齢での参加や、20組を超える参加の日もあり、教室の目的に合った運営をすることに苦慮した。そのため、18年度からはより効率的な教室となるよう定期的な開催としていく。

14 子育て支援

(1) 育児サークル支援

平成8年度から、子育て相談室と同時開催で始まった「親子ふれあい広場」に在所しているお母さんの中から、地域で子どもを遊ばせる場がほしいという声があり、子育てネットワーカーや保健師のアドバイスにより子育てサークルが誕生した。

サークル運営等の相談に応じたり、掲示板で活動の紹介、子育てサークルからの要請により支援を行なっている。

ア 「リトルベアーズ西・南」への支援状況（平成10年より定期的に支援）

	月 日		参加者 (親子)		内 容 (約1時間)	スタッフ	
	西	南	西	南		西	南
1	5月25日		25組		・トイレトレーニング・日焼け予防・夏の病気 ・食欲不振・虫歯・生活リズムについて	保健師 1	保健師 1
2	11月30日	11月16日	20組	30組	・インフルエンザ・やけどの対処 ・爪について・エプロンシアター・風邪の予防	保健師 1	保健師 1
3		2月15日		25組	・指しゃぶり・任意の予防接種・食事とおやつ ・風邪の時の対処法・虫歯について		保健師 1 栄養士 1

イ まとめ

子育てサークル支援はサークルからの依頼により実施しており、内容についてはサークルからの希望を聞き行っている。また、子育て中の母親の健康にも意識を高めたり、日常生活を振り返る機会となるような働きかけができた。

(2) 児童センター支援

年3回、西児童センター主催の「赤ちゃん広場」にて、子どもの事故予防について健康教育を行っている。

ア 西児童センター赤ちゃん広場時健康教育

月 日	参加者	内 容	スタッフ
5月10日	6組	子どもの事故予防について	保健師 1
12月 6日	11組	生活リズム・災害時の備えについて	保健師 1
2月14日	12組	その他 Q&A	保健師 1

*対象は7か月～1歳前の親子。

誤飲・窒息・水の事故・やけど等、季節に合わせて起こりやすい事故について啓発を行った。また、今年度は、平成16年度に行なった「大口町の子どもたちの生活リズムの実態」をもとに生活リズムづくりの啓発、災害の備えについて新たに啓発を行った。

15 「子どもの健康」に関する連絡会

(1) 目的

この会は、保育園・小学校・中学校・保健センターが一緒になり、大口町の子どもたちの健康を考え、役立てることを目的とする。

(2) 事業の概要

平成17年4月の予防接種打ち合わせ会の折、学校養護教諭より、大口町の子どもを取り巻く健康についての問題提起がなされた。その後、妊娠期から乳幼児期、学童期に関わりのある保健センター、保育園、小中学校による連絡会を毎月1回を目途に開催した。所管の情報交換から問題点を出し合い、共通項目として今年度は基本的生活習慣の中の「食育」を中心に活動していくことにした。

(3) 構成員

町内4保育園(保育士) 町内3小学校(養護教諭)

町内2中学校(養護教諭) 保健センター(保健師・管理栄養士) その他関係する人

(4) 開催回数

延べ14回 (定例会は毎月1回)

(5) 主な活動

<p>「健康ウォーク&元気まつり」への参加 (平成17年11月26日)</p>	<p>展示内容 「子どもの健康」に関する連絡会の活動紹介 朝食バランスについての啓発 朝食に関するアンケート結果 朝食の重要性についての啓発資料</p>
<p>保育園・小中学校『統一給食の日』の実施(平成18年2月7日)</p>	<p>子どもたちの反応は、「食べる楽しみ」「連帯感」「家庭での話題」「好き嫌いの改善」、家庭への波及効果も得られ、初めての試みとしての目的はほぼ達成できた。</p>

・その他の活動(連携の中から)

大口中学校の学校保健委員会に参加

大口南小学校で「健康おおぐち21元気体操」普及

大口北部中学校「食育授業」における連携

大口北部中学校の学校保健委員会に参加



(6) 平成17年度のまとめ

暗中模索の中、お互いの立場や状況、頑張りを少しずつ共有し、形にする努力をしてきた。健康イベントへの参加、「統一給食の日」の設定など、保健師や保育士、養護教諭のみでなく、保健センター、保育園、学校の栄養士が給食について話し合えたことも収穫のひとつであり、また何よりも住民の方と一緒に行動できたことは地域への繋がりとなる礎になったと思う。

今年度は、周囲の方々の理解と協力のもと、第一歩を踏み出し「食育」をテーマに活動でき、初年度としてある程度の成果を得ることができた。

今後は、この会を軌道に乗せ発展させていくために、より多くの方々の力を得ながらさらなる努力をしていきたい。

1 成人保健の取り組み

大口町は、平成5年12月に「健康の町宣言」をし、平成16年3月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきている。

健康おおぐち21の大目標に掲げた「健康で 笑顔のおおぐち 今日も元気 明日も元気」に向かって計画推進2年目の17年度は、「健康おおぐち21」推進 介護予防の取り組み 生活習慣病・がん予防の3つの活動目標をかかげ、事業を展開してきた。

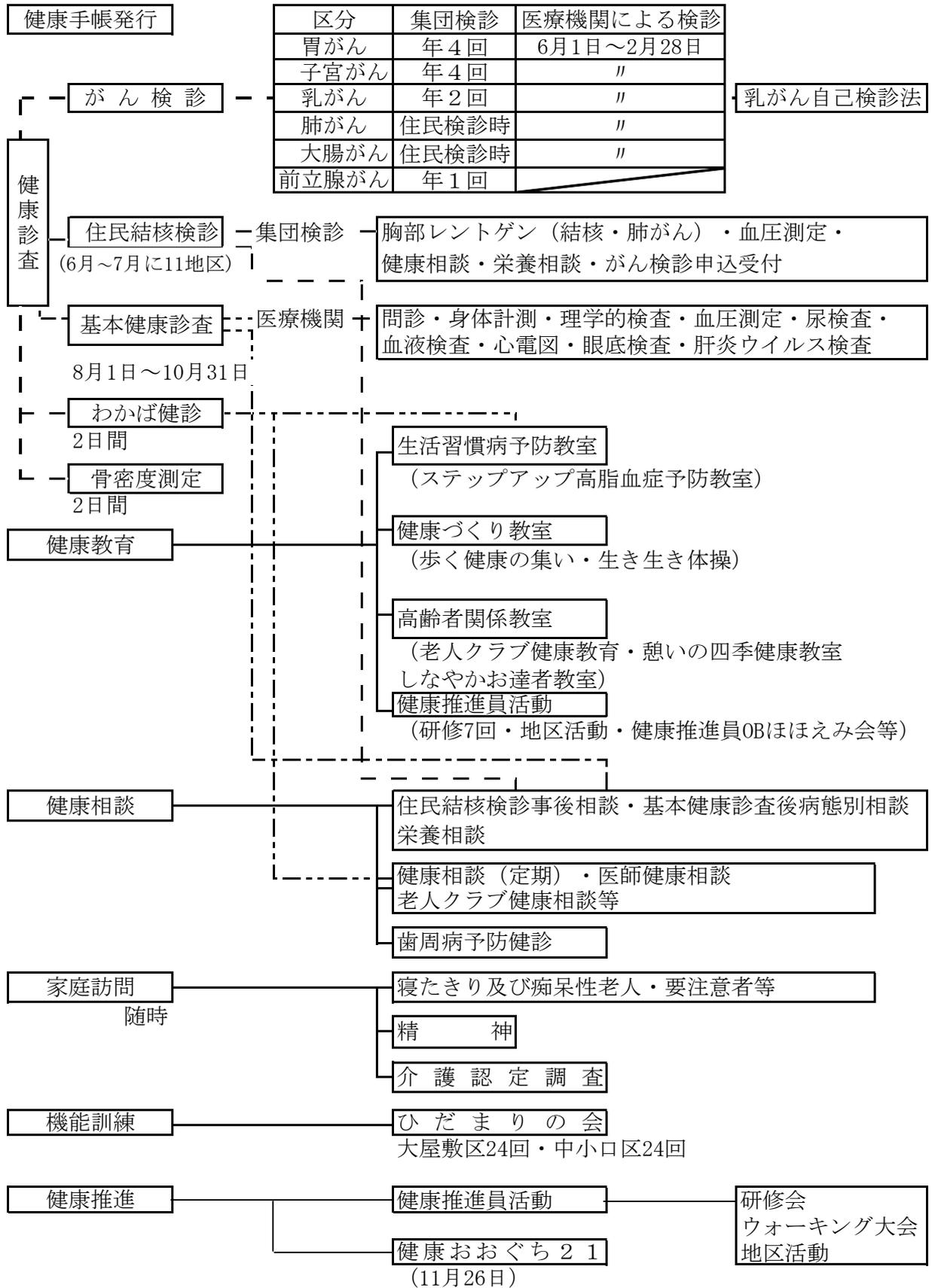
重点事業としては、わかば健診で若い年代に向けた生活習慣病予防また乳がん自己検診法の啓発を行なった。また電算システムを活用したがん検診の受診勧奨を行なった。生活習慣病予防は高脂血症に重点をおき啓発及び行動変容に向けた教室を実施した。

18年度介護保険法の改正により、重点的に取り組む介護予防事業の足がかりとするために、モデル事業として高齢者の筋力アップ教室「しなやかお達者教室」を余野地区で実施した。また生活習慣病予防としてステップ・アップ高脂血症予防教室を実施し、ハイリスク者の行動変容に高い効果が見られた。今後も個別性を重視しながら、集団と個別の教育効果を生かした活動を展開していきたい。

大口町の死亡原因1位のがんについては増加が著しい女性のがん対策や、電算システムを活用して、がん発見率の高いがん検診の未受診者に対し受診勧奨を行い初診者の受診を促すことができた。今後は大口町のがんにおける重点課題を決め、住民の健康に対する危機意識やコスト面等も考慮した効果的な啓発を進めることで、がん死亡の減少に努めていきたい。



成人保健 管理体系



推進2年目・健康おおぐち21推進イベント「健康ウォーク&元気まつりII」

2 健康手帳の交付

(1) 目的

老人保健法に基づいて発行。基本健康診査・がん検診・健康教育時などに健診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の高揚を図る。

(2) 対象

ア 医療受給資格者（75歳以上の高齢者・65～69歳で法第25条該当者）

イ 医療受給資格者以外の者

（70歳以上の国民健康保険加入者、40歳以上69歳までで希望する者）

(3) 日時

ア 毎月 月末の1週間（医療受給資格者） 役場保険年金課で交付

イ 住民検診・がん検診・健康相談等の時

ウ その他随時

(4) 交付状況

（単位：人）

ア	老人保健法第25条第1項の規定により、医療を受けることのできる者	172
	65～69歳の医療受給資格者	14
イ	40歳以上でア以外の者	131
ウ	40歳未満の希望者	7
合 計		324

3 基本健康診査

(1) 目的

老人保健法第16条に基づく健康診査の一環として、疾病の早期発見に努めるとともに、早期治療のみだけでなく受診者自身が自分の健康状態を知り、疾病の予防と健康の保持増進に努める。また、C型肝炎等緊急総合対策の一環として、H15年度から5年間に限って肝炎ウイルス検診を実施し、肝炎による健康障害を回避し症状を軽減し進行を遅延させる。

(2) 対象

町内に在住する40歳以上の者

(3) 場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 実施期間

8月1日～10月31日 各医療機関の診療時間内

(5) 内容

問診 身体計測 理学的検査 血圧測定 尿検査 血液検査 心電図 眼底検査

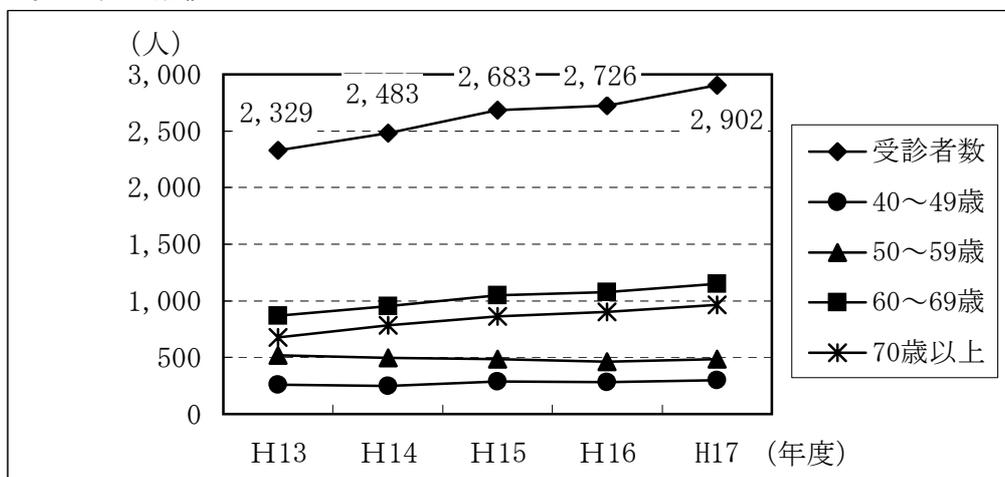
(6) 受診状況

ア 結果一覧表

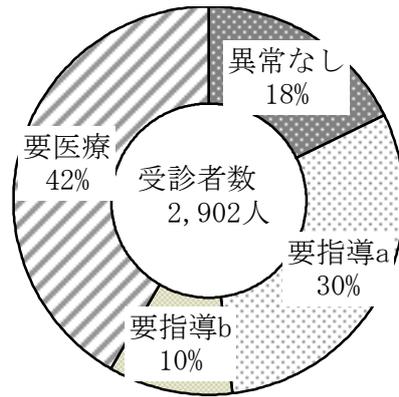
(単位：人)

区分	受診者数	基本健康診査				
		異常認めず	要指導 ^a	要指導 ^b	要医療	
男	40歳～49歳	55	6	23	5	21
	50歳～59歳	88	11	33	8	36
	60歳～69歳	458	76	126	49	207
	70歳～74歳	183	19	55	24	85
	75歳以上	201	27	66	19	89
	小計	985	139	303	105	438
女	40歳～49歳	244	101	82	16	45
	50歳～59歳	398	88	131	37	142
	60歳～69歳	694	119	204	71	300
	70歳～74歳	244	35	69	21	119
	75歳以上	337	36	86	49	166
	小計	1,917	379	572	194	772
合計	40歳～49歳	299	107	105	21	66
	50歳～59歳	486	99	164	45	178
	60歳～69歳	1,152	195	330	120	507
	70歳～74歳	427	54	124	45	204
	75歳以上	538	63	152	68	255
	計	2,902	518	875	299	1,210

イ 受診者の推移



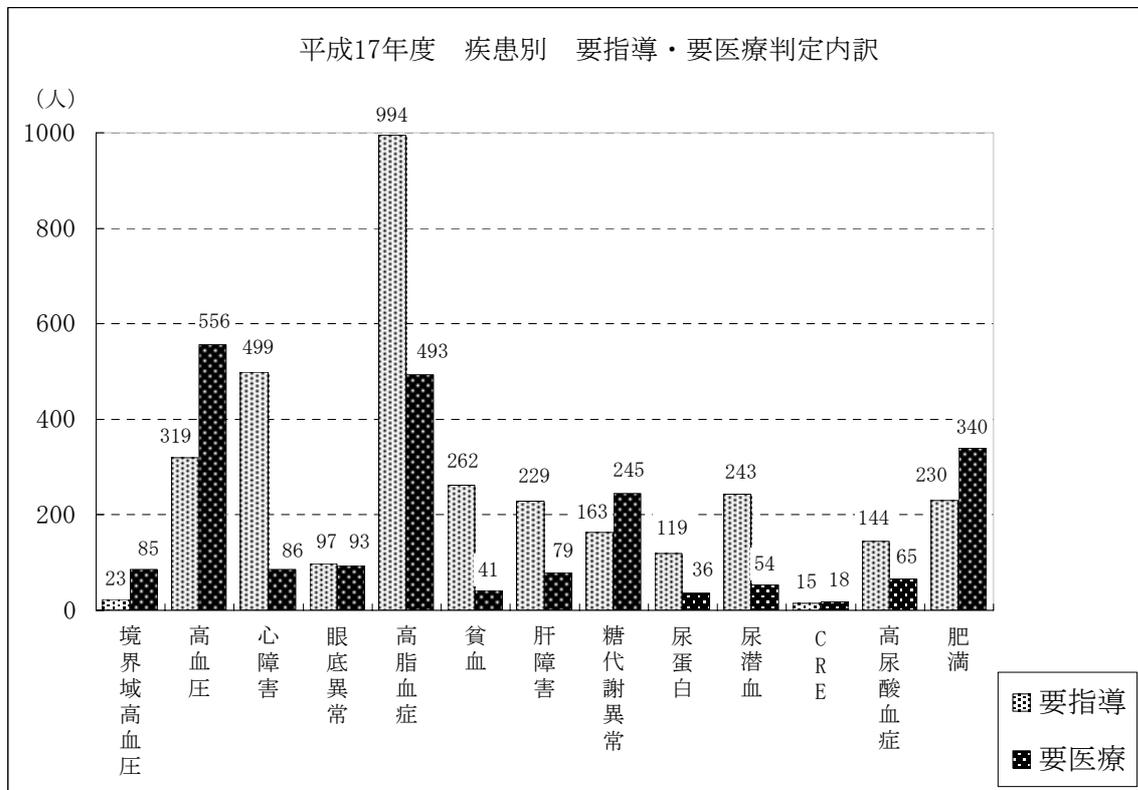
ウ 判定区分内訳



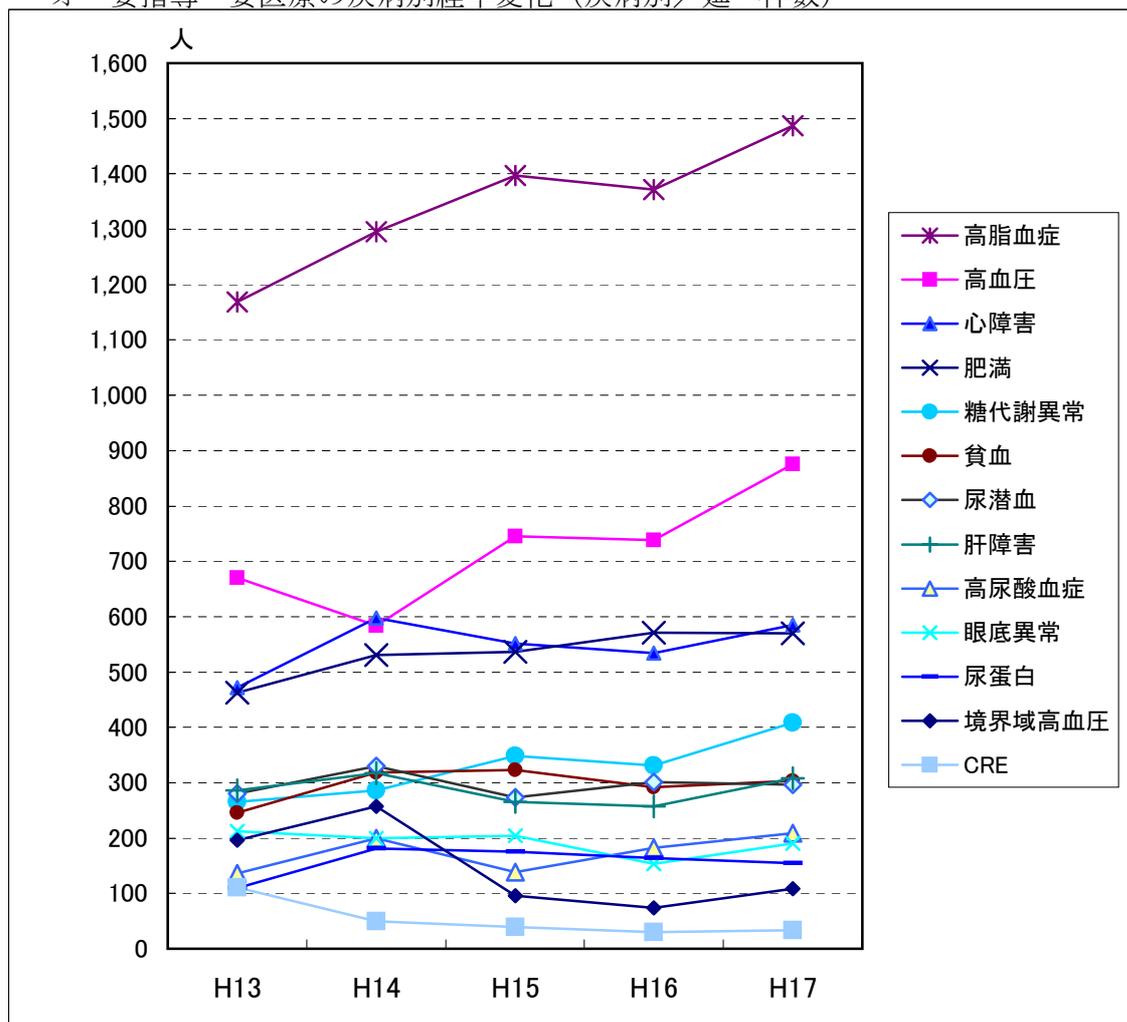
エ 要指導・要医療の疾病分類内訳 (延べ件数)

(単位: 人)

年度	区分	境界域 高血圧	高血 圧	心障 害	眼底 異常	高脂血症	貧血	肝障害	糖代 謝異 常	腎 障 害			高尿 酸血 症	肥満	計
										尿蛋 白	尿潜 血	CRE			
平成13年度		196	670	472	212	1,168	246	286	265	110	280	111	136	463	4,615
平成14年度		257	584	598	200	1,296	318	317	286	181	330	50	199	531	5,147
平成15年度		96	745	551	204	1,397	323	265	348	175	273	39	139	536	5,091
平成16年度		74	738	534	154	1,372	292	257	331	164	301	30	182	571	5,000
平成17年度		108	875	585	190	1,487	303	308	408	155	297	33	209	570	5,528



オ 要指導・要医療の疾病別経年変化（疾病別／延べ件数）



※ 結果を必ず聞きに行くことを周知徹底した。

カ 肝炎ウイルス検診

基本健康診査の対象者で、節目(40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳)の方、広範囲な外科的手術を受けた方、分娩時多量の出血をされた方、基本健康診査でGPT値で要指導とされた方などに対して肝炎ウイルス検査を実施した。

(単位：人)

区分 項目	実施数	B型ウイルス		C型ウイルス	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
節目の方	324	319	5	322	2
申請者 その他	15	15	0	14	1
計	339	334	5	336	3

4 各種がん検診

(1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図る。

(2) 実施状況

区分 項目	集 団 検 診	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年4回(検診車) 保健センター < 子宮 > 年4回(検診車) 保健センター < 乳 > 年2回(検診車) 保健センター < 大腸 > 住民検診時、検体採取容器を配布 < 肺 > 胸部X線(住検時) 喀痰(住民検診時、検体採取容器を 配布) < 前立腺 > 年1回 保健センター	平成17年6月1日から、 平成18年2月28日までの町内委託 医療機関の診療時間内
申込方法	・保健センターへ電話により申込み ・住民検診時に申込み	各医療機関の窓口にて
検診料	大腸がん：300円、胃がん：1000円 肺がん：X線のみ無料、X線+喀痰300円 乳がん検診：1,000円、子宮がん：500円 前立腺がん検診：300円	大腸がん：500円、胃がん：2000円 肺がん：X線のみ500円 X線+喀痰 1500円 子宮がん：1000円、乳がん：500円
対象者	町内在住で、勤務先等で検診を受ける機会のない方	

(3) 検診内容

種 類	内 容
胃	胃部X線撮影
子宮	視診・細胞診
乳(個別)	視診・触診
(集団)	視診・触診・MMG(X線検査)・健康教育(自己検診法について)
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法
肺	胸部X線撮影・喀痰検査
前立腺(集団のみ)	血液検査

今年度より、がん予防効果を高めるために、要精検者のうち受診結果が返送されない方を未受診者として把握し、受診2か月後に精検受診勧奨の通知に啓発のレジユメを同封し、郵送した。

(4) 胃がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

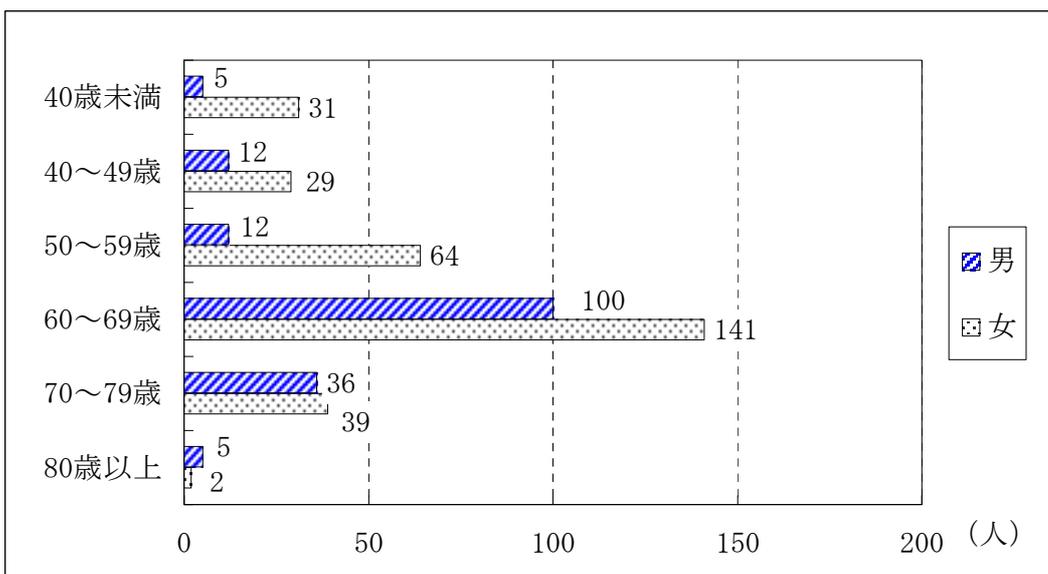
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
40歳以上	13	3,100	557	151	406	18.0	412	41	104	21	2	63	18
	14	3,700	539	173	366	14.6	383	22	134	27	2	66	39
	15	3,800	582	146	436	15.3	361	40	181	33	2	106	40
	16	3,880	522	145	377	13.5	387	47	88	22	0	41	25
	17	3,980	440	169	271	11.1	320	54	66	19	1	30	16

40歳未満	13	—	27	19	8	—	24	1	2	1	0	1	0
	14	—	46	28	18	—	39	1	6	1	0	5	0
	15	—	55	27	28	—	43	2	10	5	0	4	1
	16	—	56	35	21	—	48	4	4	2	0	1	1
	17	—	36	25	11	—	30	4	2	0	0	0	2

計	13	—	584	170	414	—	436	42	106	22	2	64	18
	14	—	585	201	384	—	422	23	140	28	2	71	39
	15	—	637	173	464	—	404	42	191	38	2	110	41
	16	—	578	180	398	—	435	51	92	24	0	42	26
	17	—	476	194	282	—	350	58	68	19	1	30	18

※がん発見者数は一人で、初回受診者であった。要精検率は14.3%。精検受診率73.5%。実施機関により精検受診率に大きな開きがある。

イ 年齢別受診状況(平成17年度)



(5) 子宮がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

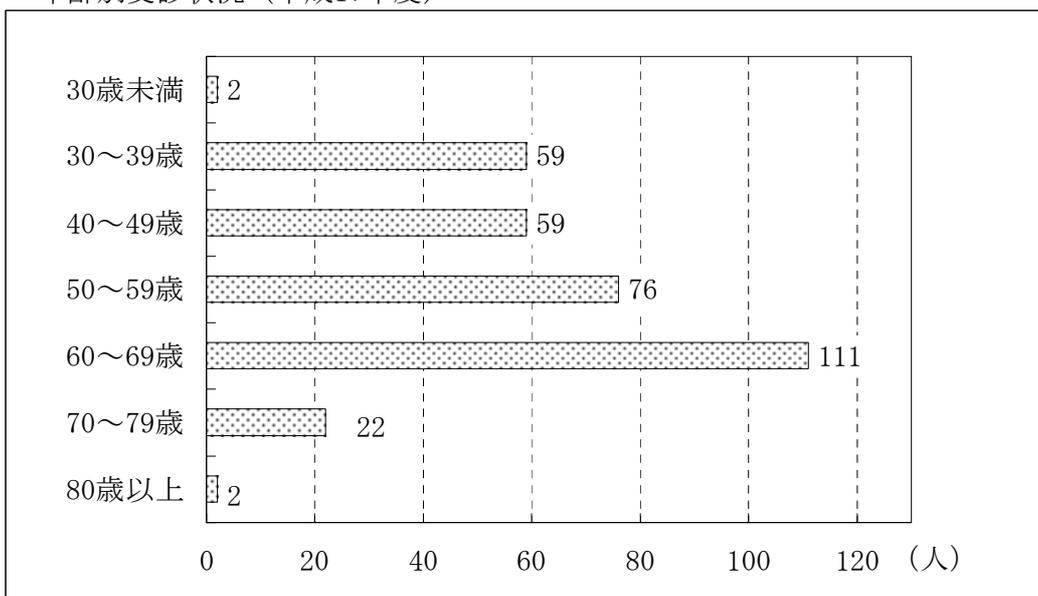
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	その他の疾患	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	13	2,100	300	174	126	14.3	289	11	0	0	0	0	0
	14	2,700	360	241	119	13.3	336	19	5	2	1	1	1
	15	2,770	379	245	134	13.7	335	42	2	0	0	1	1
	16	2,842	374	253	121	13.2	342	31	1	0	0	1	0
	17	2,870	329	255	74	11.5	288	39	2	1	0	1	0

30歳未満	13	—	6	6	0	—	6	0	0	0	0	0	0
	14	—	7	6	1	—	7	0	0	0	0	0	0
	15	—	10	8	2	—	8	2	0	0	0	0	0
	16	—	10	8	2	—	9	1	0	0	0	0	0
	17	—	2	2	0	—	2	0	0	0	0	0	0

計	13	—	306	180	126	—	295	11	0	0	0	0	0
	14	—	367	247	120	—	343	19	5	2	1	1	1
	15	—	389	253	136	—	343	44	2	0	0	1	1
	16	—	384	261	123	—	351	32	1	0	0	1	0
	17	—	331	257	74	—	290	39	2	1	0	1	0

※要精検率は0.6%。精検受診率は100%。30歳未満の受診者は2人。若い世代から発症率の高いがんのため、若い世代への受診勧奨が必要。

イ 年齢別受診状況(平成17年度)



(6) 乳がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

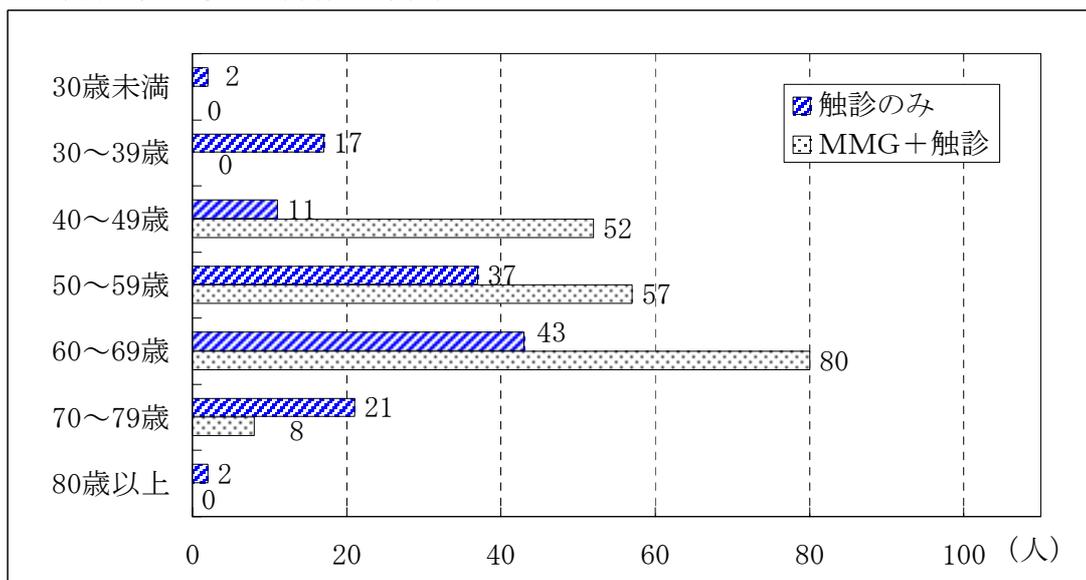
	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率	結 果			精検結果 (再掲)			
			集 団 + 触 診 (M M G)	(医 療 機 関 の み)	(触 診 の み)		異 常 な し	要 観 察	要 精 検	異 常 な し	が ん 疾 患	が ん 以 外 の 疾 患	未 把 握
30歳 以上	13	2,100	406	133	273	19.3	361	42	3	1	1	1	0
	14	2,700	368	98	270	13.6	348	2	18	5	1	10	2
	15	2,770	410	99	311	14.8	393	7	10	3	0	3	4
	16	2,842	356	80	276	12.5	338	1	17	8	0	7	2
40歳以上	17	2,670	311	197	114	11.6	291	2	18	10	1	5	2

30歳 未 満	13	—	6	5	1	—	6	0	0	0	0	0	0
	14	—	8	6	2	—	7	1	0	0	0	0	0
	15	—	6	0	6	—	6	0	0	0	0	0	0
	16	—	1	0	1	—	1	0	0	0	0	0	0
40歳未 満	17	—	19	0	19	—	15	0	4	1	0	2	1

計	13	—	412	138	274	—	367	42	3	1	1	1	0
	14	—	376	104	272	—	355	3	18	5	1	10	2
	15	—	416	99	317	—	399	7	10	3	0	3	4
	16	—	357	80	277	—	339	1	17	8	0	7	2
	17	—	330	197	133	—	306	2	22	11	1	7	3

※ 医療機関の視触診によりがん一人発見。乳がんは全国的に急増しており、40・50歳代から発症死亡が高いので受診勧奨・自己検診法の教育に力を入れる。

イ 年齢別受診状況 (平成17年度)



(7) 大腸がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

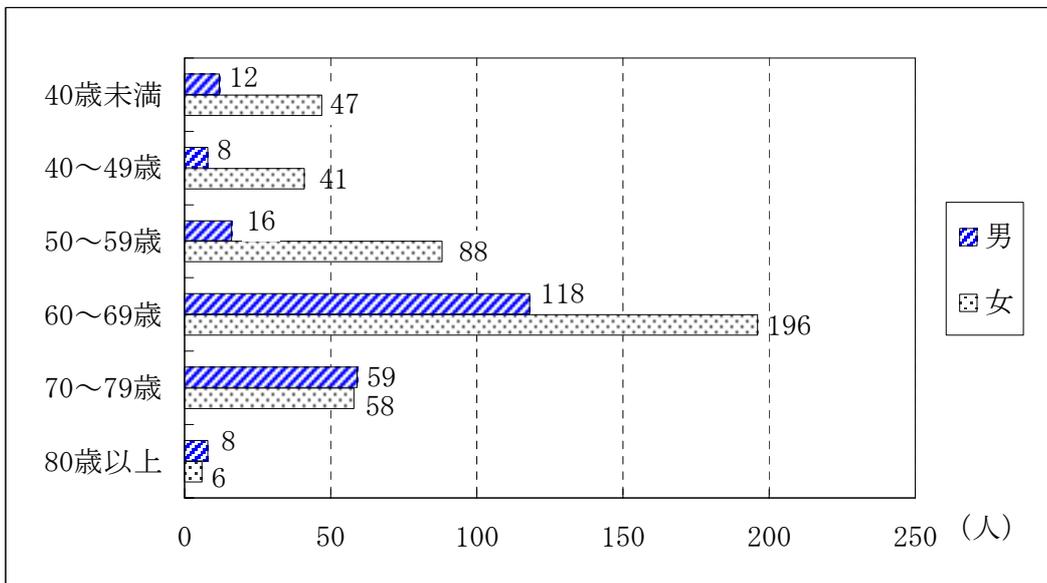
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	疑いがん	未把握
40歳以上	13	3,100	712	222	490	23.0	678	3	31	8	1	13	0	9
	14	3,700	736	286	450	19.9	685	1	50	19	1	22	0	8
	15	3,800	768	270	498	20.2	728		40	13	0	19	0	8
	16	3,880	734	249	485	18.9	698		36	9	1	14	0	12
	17	3,980	598	280	318	15.0	566		32	10	1	14	0	7

40歳未満	13	—	54	45	9	—	53	0	1	1	0	0	0	0
	14	—	69	47	22	—	65	0	4	3	0	0	0	1
	15	—	82	48	34	—	80		2	1	0	0	0	1
	16	—	94	69	25	—	89		5	1	0	3	0	1
	17	—	59	39	20	—	51		8	7	0	0	0	1

計	13	—	766	267	499	—	731	3	32	9	1	13	0	9
	14	—	805	333	472	—	750	1	54	22	1	22	0	9
	15	—	850	318	532	—	808		42	14	0	19	0	9
	16	—	828	318	510	—	787		41	10	1	17	0	13
	17	—	657	319	338	—	617		40	17	1	14	0	8

※集団がん検診において早期直腸がん1人発見。大口町は大腸がんで亡くなる女性の割合が高い。70歳代の受診者数が急激に減少していくため、高齢者への啓発が必要である。がん化しやすいポリープも4人見つかри、治療につながっている。

イ 年齢別受診状況(平成17年度)



(8) 肺がん検診

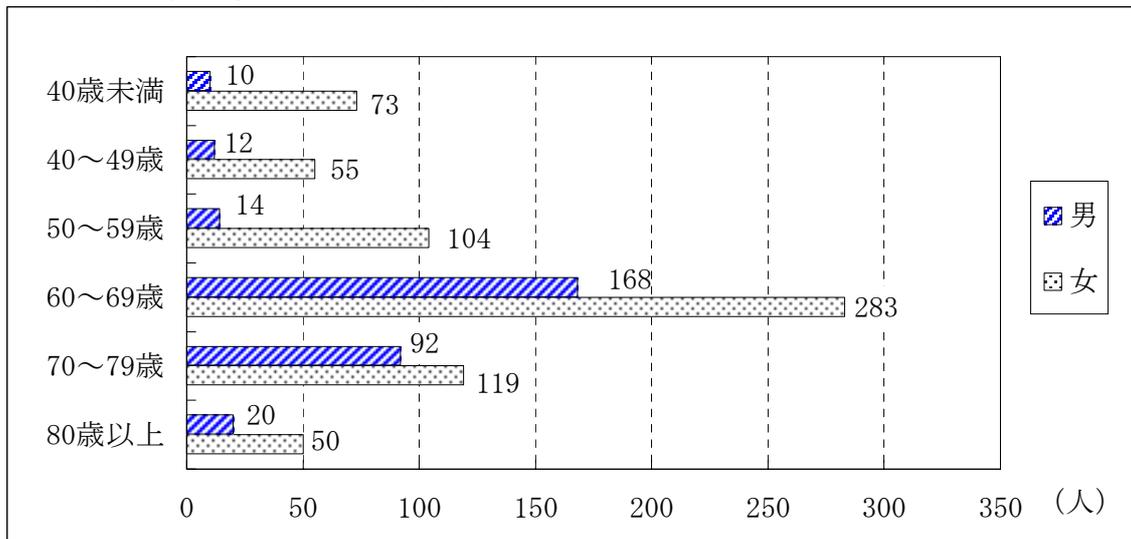
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数					受 診 率	結 果			精検結果 (再掲)				
			集 団		医 療 機 関				精 検 不 要	要 精 検		異 常 な し	が ん	が ん の 疑 い の あ る 者	が ん 以 外 の 疾 患	未 受 診 ・ 未 把 握
			X 線 及 び 喀 痰	X 線 の み	X 線 及 び 喀 痰	X 線 の み	肺 が ん 以 外 の 疾 患			肺 が ん の 疑 い						
40歳以上	13	3,100	996	38	477	147	334	32.1	983	10	3	3	0	0	5	5
	14	3,700	1,061	64	543	126	328	28.7	999	48	14	15	0	0	11	36
	15	3,800	1,148	35	562	143	408	30.2	1,079	50	19	13	0	0	16	40
	16	3,880	1,046	19	515	107	405	27.0	989	32	25	21	2	2	22	10
	17	3,980	917	37	531	61	288	23.0	866	34	17	20	0	2	15	14
40歳未満	13	—	95	6	83	1	5	—	95	0	0	0	0	0	0	0
	14	—	107	7	83	8	9	—	106	1	0	0	0	0	0	1
	15	—	111	3	82	7	19	—	111	0	0	0	0	0	0	0
	16	—	125	4	97	3	21	—	123	1	1	0	0	0	0	1
	17	—	83	6	67	2	8	—	82	0	1	1	0	0	0	0
計	13	—	1,091	44	560	148	339	—	1,078	10	3	3	0	0	5	5
	14	—	1,168	71	626	134	337	—	1,105	49	14	15	0	0	11	37
	15	—	1,259	38	644	150	427	—	1,190	50	19	13	0	0	16	40
	16	—	1,171	23	612	110	426	—	1,112	33	26	21	2	1	22	11
	17	—	1,000	43	598	63	296	—	948	34	18	21	0	2	15	14

※大口町は男性のがん死亡の割合が多いが受診者数は女性の約半分であり、男性への啓発が必要である。精密検査受診率の低さが目立った。

イ 年齢別受診状況 (平成17年度)



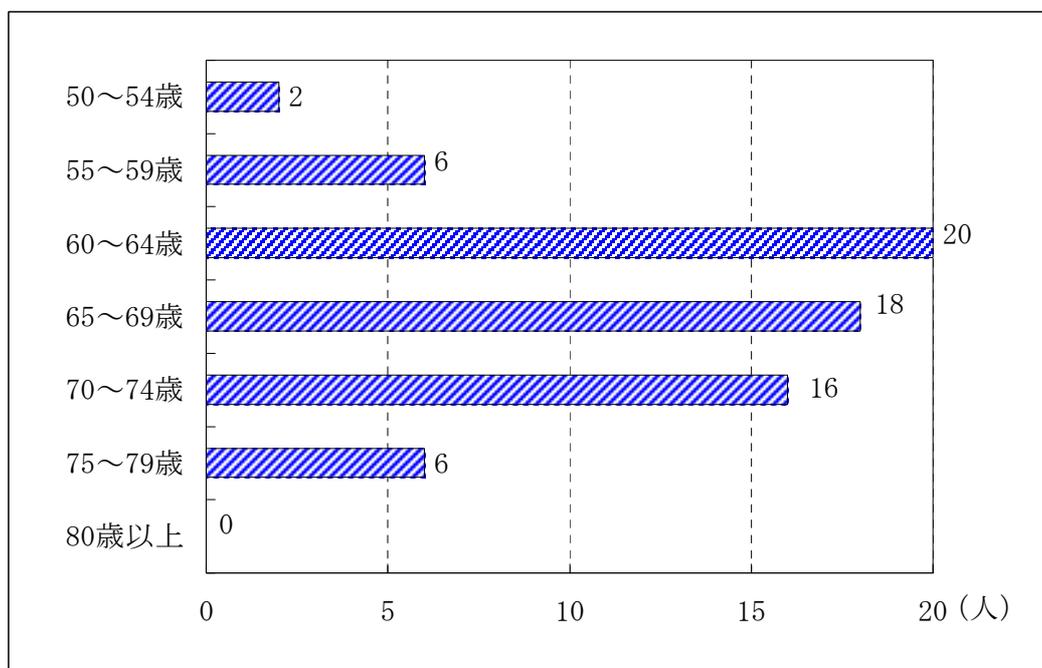
(9) 前立腺がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

年度	対象者	受診者 (集団)	受診率	結果			精検結果(再掲)					
				異常なし	要再検	要精検	異常なし	が ん	が ん の 疑 い	前 立 腺 肥 大	そ の 他	未 把 握
16	1,268	50	3.9	47	0	3	1	0	1	1	0	0
17	1,567	68	4.3	62	0	6	2	1	0	3	0	0

※前立腺がん1人発見。発生頻度の高い高齢期の方が多く前立腺がん、発見率が高い。

イ 年齢別受診状況(平成17年度)



5 わかば健診

(1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会の無い方を対象とし、生活習慣病の早期発見および、生活習慣の改善に向けた指導を行い、予防意識の向上をはかる。

(2) 対象

町内在住の20歳代・30歳代の住民で、健診を受ける機会の無い方。

(3) 日時

平成17年8月31日（水） 午後1時～午後4時

平成17年9月27日（火） 午後1時～午後4時

(4) 場所

保健センター2階

(5) 検診方法及び内容

健康教育（健康おおぐち21より）、尿検査、身長・体重、血圧測定
診察、血液検査、歯周病予防教育（歯の健康得点・ブラッシング指導・歯科健診）

(6) 従事者

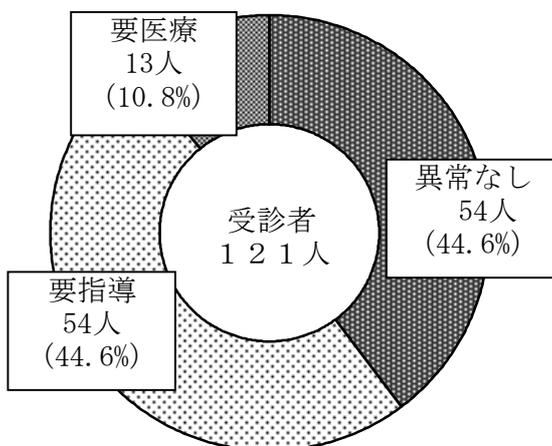
保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関

(7) 実施結果

ア 年齢別受診者数 (定員150人)

	男			女			合計
	20歳代	30歳代	小計	20歳代	30歳代	小計	
H15	3	9	12	27	100	127	139
H16	1	4	5	21	108	129	134
H17	2	4	6	25	90	115	121

イ 受診結果



平成17年度合計内訳	
初診	再診
70	51

歯科健診受診者数			
	20歳代	30歳代	計
男性	1	3	4
女性	4	50	54
計	5	53	58

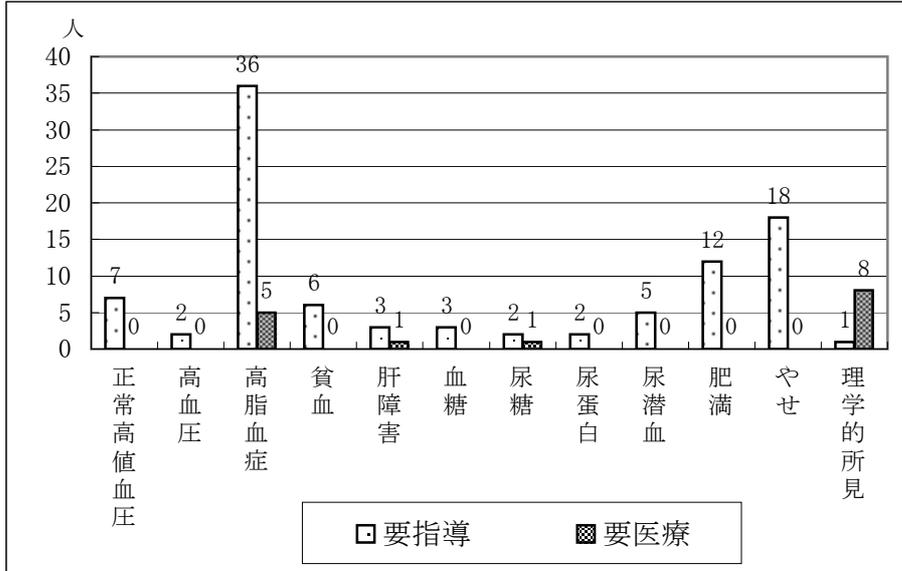
※歯科健診結果は、歯科健診の項目で記載。

ウ 要指導・要医療の疾病分類(延べ数)

	正常高値血圧	高血圧	高脂血症	貧血	肝障害	血糖	尿糖	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ	理学的所見
H15	0	0	38	7	7	0	0	5	4	11	35	0
H16	0	0	29	11	2	0	0	4	3	10	25	0
H17	7	2	41	6	4	3	3	2	5	12	18	9

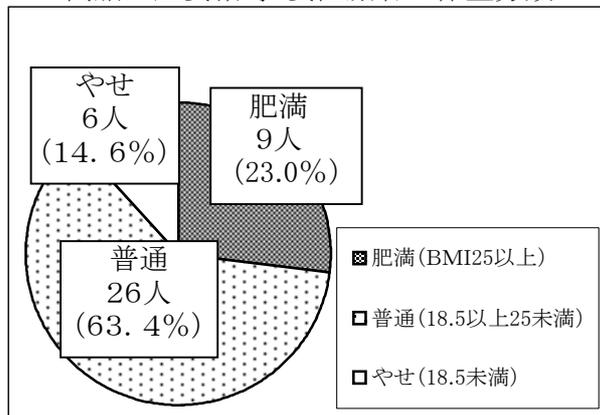
理学的所見内訳：胸部絞やく性胸痛疑い3人、上腹部痛1人、下肢鬱血1人、甲状腺腫脹3人、頻脈1人

エ 疾患別 要指導・要医療判定分類(延べ人数)



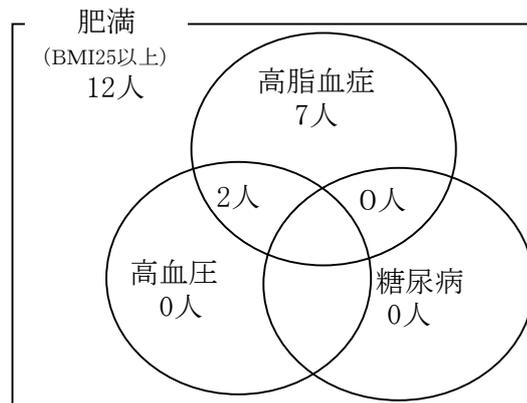
※高血圧は軽症高血圧値を含む。

オ 高脂血症要指導・要医療者の体型分類



カ メタボリック症候群予備軍

(肥満かつ、各疾患要指導 a・b有り)



H16年度の要指導者43人に、ステップ・アップ高脂血症予防教室の受診勧奨を行ったが、参加は得られなかった。しかし医師の個別相談において4人が面接を希望し、詳しく生活指導を受けることができた。わかば健診においても高脂血症は年々増加。しかし体型は高脂血症でも約8割が普通、やせの為問題意識を持ちにくい。H18年度は自分の体内で起きていることを意識し、行動変容へつなげるきっかけとして、体内から美しくという、美容をイメージする角度から、20・30歳代の生活習慣病予備軍に個別対応で働きかけていきたい。

6 骨密度測定

(1) 目的

自分の骨密度を知ることにより、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防・早期発見に努める。また、骨粗鬆症についての正しい知識の普及と健康の保持・増進の啓発に努める。

(2) 対象

町内在住の節目年齢の女性及び一般住民

「節目年齢」とは、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳を意味し、以下「節目者」とする。

(3) 周知方法

節目者は、基本健康診査の健診票郵送時にチラシを同封 643名

基本健康診査対象外の節目者に個別通知 274名

広報おおぐち及び広報無線による啓発

(4) 日時

平成17年9月2日(金) 午前10時～午後4時

平成17年11月26日(土) 午前10時～午後4時 「健康ウォーク&元気まつり」開催時

(5) 場所及び定員

場所は、9/2は保健センター2階プレイルーム、11/26は保健センター1階多目的室

定員は、各日100名(合計200名)

(6) 方法及び内容

超音波法によるかかと部の骨密度測定 健康相談 栄養相談

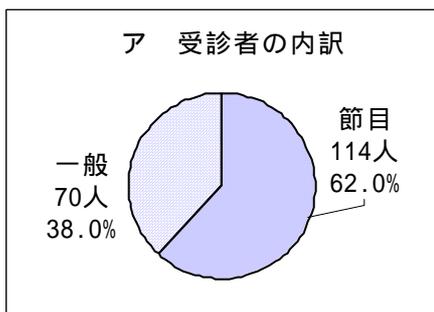
(7) 従事者

保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関(医師・ハﾟレーター・事務)

(8) 実施結果

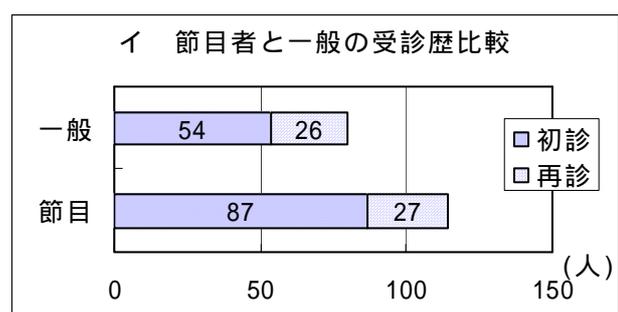
ア 受診者の内訳(人)

性別	節目	一般	合計
女	114	70	184
男	0	10	10
合計	114	80	194



イ 受診歴(人)

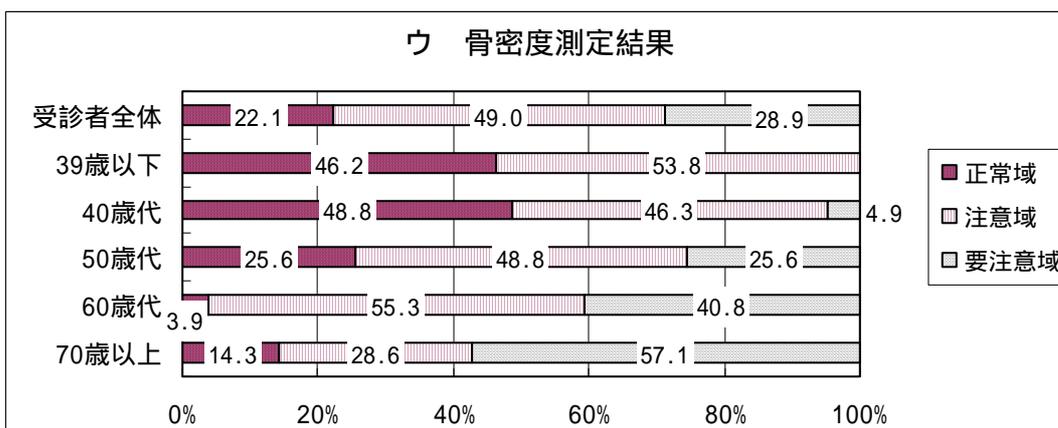
受診歴	節目	一般	合計
初診	87	54	141 (72.7%)
再診	27	26	53 (27.3%)
合計	114	80	194 (100.0%)



ウ 骨密度測定結果

()は、節目者再掲(単位:人)

	受診者合計		正常域		注意域		要注意域	
39歳以下	13		6		7		0	
40歳代	41	(32)	20	(16)	19	(15)	2	(1)
50歳代	43	(30)	11	(9)	21	(15)	11	(6)
60歳代	76	(40)	3	(2)	42	(22)	31	(16)
70歳以上	21	(12)	3	(2)	6	(5)	12	(5)
合計	194	(114)	43	(29)	95	(57)	56	(28)



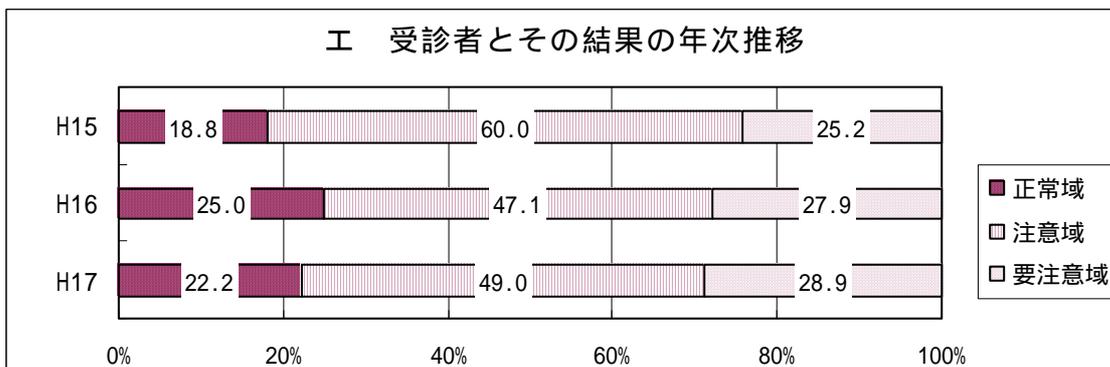
節目者に積極的に勧奨したことで、全体の62.0%が節目者であり、その中でも初めて受診する人の割合が多く、勧奨の効果があった。

測定結果では、年齢とともに注意域・要注意域を占める割合が増すため、若い世代からの食習慣や運動習慣等の啓発と壮年期以降の転倒予防などの啓発が必要である。

エ 受診者とその結果の年次推移

(単位:人数)

	受診者数	正常域	注意域	要注意域
H15	202	38	113	51
H16	204	51	96	57
H17	194	43	95	56



7 健康教育

健康教育は、住民の健康意識の高揚、より良い生活習慣の定着を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

健康おおぐち 21 計画推進 2 年目になり、さらに計画の周知をすすめて健康づくりをしやすいまちづくりを目指すとともに 5 分野の目標に沿った具体的な取り組みを推進した。

重点事業としては、基本健診で最も多く様々な生活習慣病の温床となる高脂血症の方を対象に「ステップ・アップ高脂血症予防教室」を行い行動変容を支援した。

介護予防事業の各地区への広がりを目指し、その足がかりとして高齢者の筋力トレーニングと集いの場として、「しなやかお達者教室」を実施した。

(1) 生き生き体操教室

ア 目的

体を動かす楽しさを体験する場を提供することで、運動習慣をつけるきっかけづくりとする。国保連合会の補助事業として実施。

イ 対象 住民

ウ 日時及び場所

平成 17 年 5 月 11 日（火）～8 月 2 日（火）（全 12 コース）

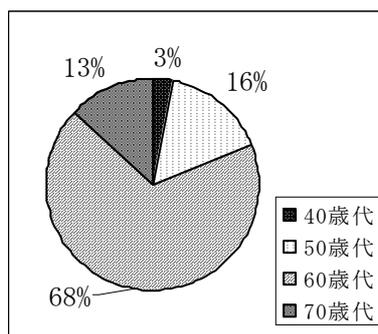
保健センター1 階 多目的室

エ 従事者

保健師 健康運動指導士（2 名）

オ 参加状況及び結果

(ア) 参加者の年齢



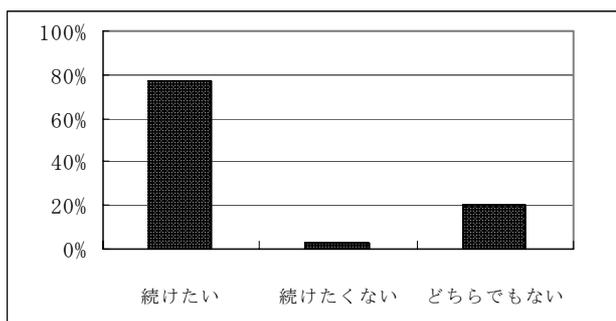
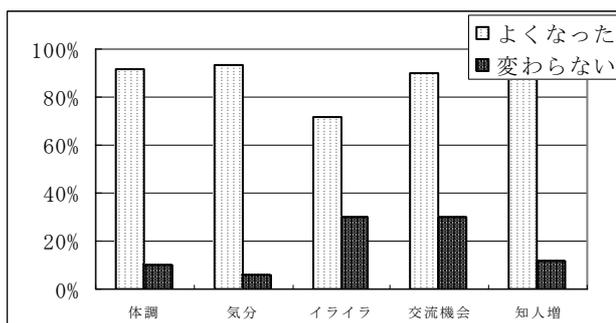
(ウ) 運動継続の意思 (右図)

(エ) 参加者の感想

参加してよかった

100%

(イ) 参加後の体調変化



(2)ステップアップ高脂血症予防教室

平成9年度より個々にあった健康的な生活習慣を身につけるための実践教室として、集団と個別の指導内容を組み込んだ『ステップアップ健康教室』を行ってきた。今年度は、基本健康診査や国民健康保険の人間ドック及びわかば健康診査において、最も異常者の多い高脂血症に焦点を絞り行なった。対象者が多いため、基本コースと実践コースに分けて行うことで、より多くの人に知識を普及するとともに、実践コースの人には個別性を重要視した。

ア 目的

基本コース：自分の体を知り、高脂血症を正しく理解し、自分の生活を見直す

実践コース：高脂血症についての知識を理解した上で、自分の生活を見直し、仲間とともに個々に合った健康的な生活を身につける

イ 対象者

- ・基本健康診査及び国保の人間ドックにおいて、血清脂質検査の結果が要指導で生活習慣改善の必要性がありの者（原則40歳～64歳）
- ・広報誌、広報無線による一般公募の者（原則40歳～64歳）
- ・わかば健康診査受診者のうち血清脂質検査結果が要指導の人（基本コースのみ）

ウ 日時

基本コース：平成17年6月17日、7月5日、7月20日（全3回）

実践コース：平成17年6月～11月（全8回）

エ スタッフ

保健師 管理栄養士 運動指導員 医師（あいち健康プラザ） 歯科衛生士（江南保健所）

オ 参加者の状況

（基本コース）

参加者数 （実数）	19人	平均年齢	60.3歳
40歳代	0人	実施数	3回
50歳代	11人	平均参加者数	17人
60歳代	8人	出席率	89.5%
70歳代	0人	参加者数（延）	51人

男性 0人・女性19人

（実践コース）

参加者数 （実数）	17人	平均年齢	60.4歳
40歳代	2人	実施数	8回
50歳代	4人	平均参加者数	15.3人
60歳代	10人	出席率	89.7%
70歳代	1人	参加者数（延）	122人

男性3人・女性14人

後日、個別にて対応した人も参加者に含む。

40代女性1名、体調不良（肝炎治療中）のため、第2回までの参加。

カ 教室の内容

回数	内 容	参加人数
第1回 (6/ 8)	『さあはじめよう！まずは自分を知ることから』 ・リエンション ・健康チェック ・個別目標設定	16人 (後日1名面接)
第2回 (6/17)	『高脂血症について知ろう！』 ・医師による講話	基本コース18人 実践コース16人 (後日1名面接)
第3回 (7/ 5)	『脂肪を燃やす運動をしよう！』 ・自分にあった運動プログラムをつくります	基本コース17人 実践コース15人
第4回 (7/20)	『体のためになる、かしこい食事』 ・個別栄養相談	基本コース16人 実践コース14人 (後日2名面接)
第5回 (7/2~7/29)	『自分に合った食生活プログラムづくり』 ・運動プログラムの確認	16人
第6回 (8/10)	『無理なく運動ができていますか？』 ・運動プログラムの修正 『予防の一步！お口の中にも目を向けよう！』 ・歯周病予防の話	12人
第7回 (9/ 1)	『続けよう！私にあった生活プログラム』 ・運動と食生活プログラムを続けていくためには	15人
第8回 (11/29)	『ヘルシーパーティー』 ・調理実習 ・まとめと今後に向けて	14人 (後日1名面接)

第7回と第8回の間の実践期間に、個別相談を一回実施。(13名)
基本健康診査を受けた人は結果を持参してもらおう。体重・体脂肪を測定。

キ 個別目標の内容

- ・コレステロール値を下げる。スリムになり、体の動きを楽しみたい
- ・体重減少、体脂肪減少
- ・血液がサラサラになっていたい
- ・食生活を見直す
- ・腰の調子が良くなる。背中が曲がらないように
- ・おなかまわりの脂肪をとりたい
- ・老年期に入り、夫婦共に健康に気をつけたい
- ・体調不良がなくなるように。
- ・高脂血症について詳しく知りたい



ク 目標達成自己評価

(ア) 目標達成度とその理由「自分でたてた目標を達成できましたか？」

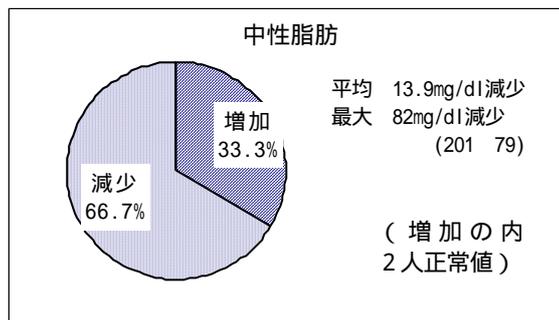
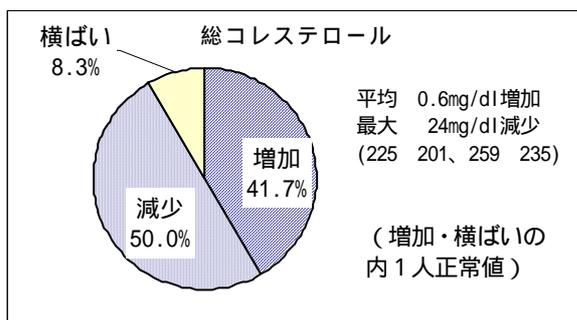
目標達成度	人数	理由
達成できた	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・目分量はかり、スプーン等で量が分かるようになった ・基本健診の結果が分かるようになった ・私なりにがんばった ・運動を積極的にできた。間食をやめた ・体重減少、中性脂肪も減少した ・食生活を見直すことができ、体調も良くなった
達成できなかったが、生活に変化があった	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜不足 ・食生活に気を付けるようになった ・毎日の生活の中でカロリーとか運動に気を付けるようになりがんばったがつい気を許すときがあり全部は達成できなかった ・毎日の生活の中でカロリーとか運動量に気を使うようになりがんばったがつい自分に気を許す時があり、全部は達成できなかった
できなかった	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場は汗をかいてスッキリしたが、汗をかかない分元に戻った気がする ・どうしても好きなものを食べてしまう ・運動不足 ・不規則な食事、自己管理不足 ・なまけていた、ウォーキング・体操をしているが変化がない ・意志が弱い

(イ) これからどうしていきたいと思うか

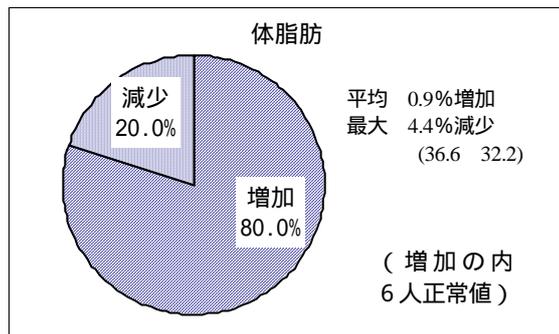
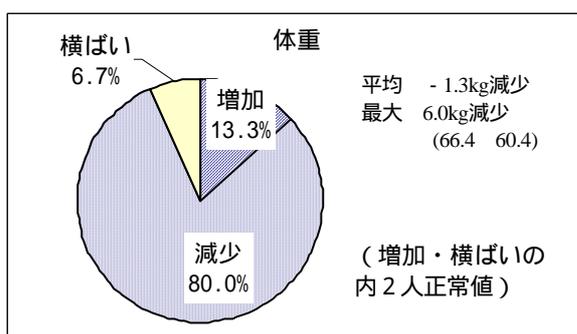
目標達成度	人数	これからどうしていきたいと思うか
達成できた	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活のことが大体できたと思います ・食事に気をつけて運動をする ・これからもがんばるつもりです ・このまま1年、2年と続けることができたらいい。自分自身が健康で続けられたらと思う ・標準体重にはまだまだなので、食事・運動に気をつけたい。間食をやめ、ちゃんと3食食べるように。プールも続けたい ・教室で学んだことを続けること。筋トレを無理しない程度に続ける。食事には気を配り、主食・主菜・副菜を毎日バランスよく食べる。長く続けられる趣味を持ち、元気で若々しくパワフルでいたい
達成できなかったが、生活に変化があった	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングを週に3~4回にして続けるようにしたい。食事をする時のカロリーをもう少し下げたい。起床時と寝る前の筋トレにはげみたい ・メニューを考え野菜をたくさんとるように努力する。家事の手伝いを増やす ・ゴルフにはまっているので成績をよくしたい ・食べることの楽しさ、怖さ等、健康を重点に気をつけます
できなかった	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく体を動かすように注意したい ・もっと多種類の食物を食べるようにしたい ・毎日ではできなくても、週に2~3回は筋トレを続けたい ・食事管理して健康に留意したい ・体重をおとし、脂肪を大きくおとしたい ・嫌なこと、やりたくないことを先にやる事が自分には必要だと思う。ウォーキングに行きたい。健康になって行動的な自分になりたい。体重が減ったらいいと思う

ケ 結果

(ア) 基本健康診査結果の変化



(イ) 体重・体脂肪の変化



総コレステロールより中性脂肪が減少している人の方が多く、総コレステロールが減少している人は、中性脂肪も減少している。体重減少している人は80%と多かったが、体脂肪は逆に80%の人が増加していた。体重・血清脂質検査の値は減少しているため、内臓脂肪は減少している可能性がある。また、食生活の改善はできているが、筋力トレーニングが定着していない人が多いため、筋肉量が増えていない可能性もある。寒くなり、水分摂取が減ったことも影響していると思われる。

コ まとめ

運動に関しては、筋力トレーニングの必要性の根拠や日常生活の中でできる内容のおさえ、水分摂取のための工夫等が課題であるため、今後の教室に活かしていきたい。食生活に関しては、摂取量が全体的に多い人が多く、「手ばかり栄養法」や「間食の上手なとり方」など教室の中で身につけられた人は結果にも出てきている。今回の参加者は、運動習慣より食生活の改善ができた人の方が多く、食生活と運動の両方を実施できた人はより良い効果がみられた。

今年度の初めての試みとして、基本コースと実践コースを分けて実施、実践コースの個別健康相談を2回実施、教室終了時に希望者のみ、1年後の自分への応援メッセージ「1年後の私へ」記入してもらった。

によって、まずは知識を得たい人にも提供ができた。や実践コースのセルフケアの5段階(無関心期・関心期・準備期・行動期・維持期)の振り分けを随時行なったことで参加者を把握、対応する上で効果的であった。の「1年後の私へ」は教室終了後のフォローとして考え、返却方法は参加者と話し合い、1年後の同窓会開催を決定した。また、1年未満にフォローが必要と思われる人においては、個別にて対応することとした。

(3) 高齢者の筋力アップ教室 「しなやかお達者教室」

要介護の発生を予防または、要介護状態になるのを遅らせるために効果のある教室を実施し、今後の事業展開の一考とする。

ア 目的

教室に参加することにより、筋力低下や転倒を防ぎ、身体機能全般の維持・向上を図る。また、仲間同士の交流等により心身の活性化を図る。

イ 対象者の選定・教室勧奨方法

余野・さつきが丘・垣田地区の75歳以上の方で（要介護認定をうけている方を除く）民生委員が「やや虚弱」と思われる対象者を選定。80歳以上は、保健師が訪問にて現状を把握し教室を勧奨、75～79歳は民生委員に教室の紹介をしてもらい、参加見込みのある方に保健師が訪問（その他、広報にて教室開催の周知し募集もおこなう）。

*訪問件数：53件（79歳以下：20名 80歳以上：33名）

ウ 実施日時

平成17年9月26日～12月26日 全14回 *毎週月曜日 午前10時～11時30分

エ 会場 余野学共施設

オ 参加者 申し込みは16名

(内、6回目からの参加者が2名 1回～2回のみ参加者が2名) 1回平均11.4人

参加者平均年齢：78.2歳 最高齢者：86歳

カ スタッフ

保健師3名 運動指導員 民生委員 あいち健康プラザスタッフ

キ 実施内容

- ①保健師による体調チェック（血圧・自覚症状・1週間の様子等）
- ②しなやかお達者教室の歌・今月の歌
- ③21元気体操
- ④上腕・握力体操（にぎにぎ・ボールを使って）
- ⑤椅子に座っての筋力トレーニング（7種目）
- ⑥レクリエーション（ボールを用いて2人ペアでのボールの受け渡し等）
- ⑦さよならの歌
- ⑧終了時の体力チェック（希望者は血圧測定）

※スタッフカンファレンス

効果測定のため、あいち健康プラザでの健康度評価（2回目と13回目）と日常生活体力測定（3回目と12回目）を実施

*配慮したこと等

- ・メニューの実施方法の理解を支援する、個々への配慮
- ・自宅での実施を促すための、筋トレ記録表を配布
- ・欠席者への、フォロー（電話・訪問）
- ・効果的な教室運営を目指し、参加者の状況・変化の把握（訪問）

ク 評価方法

(ア) 身体状況・臨床検査結果（健康状態の把握を目的に実施）

あいち健康プラザで、健康度評価Aコースを実施。血液検査・心電図等の結果から、参加者の健康状態及び臨床検査値の変化を把握。

(イ) 体力測定

- ・10m全力歩行・最大一步幅
- ・20 cm・40 cm踏台昇降（健脚度）
- ・開眼片足立ち（バランス能力）・長座体前屈（柔軟性）
- ・握力（上腕筋力）
- ・全身反応時間（敏捷性）
- ・足指間圧力（下肢筋力）

(ウ) 日常生活状況（アンケート・聞き取り）

ケ 結果

(ア) 身体状況・臨床検査（あいち健康プラザにて実施：健康度評価）

教室前後両方で実施できたのは4名であり、そのうち身長が伸びた方が3名であった。血液検査値の変化はほとんどみられなかったが、悪化した項目がないことから実施したプログラムの安全性が確認された。

(イ) 体力測定（余野学共にて）

実施者数 教室 3回目（10月）：12名 12回目（12月）：10名

*両方を実施した8名についての比較 ・Wilcoxonの符号付順位検定 *P<0.05

項目 実施日	10m歩行	最大一步幅		踏台昇降		握力		開眼片足立ち		足指間圧力		長座体前屈
	時間(秒)	右脚(cm)	左脚(cm)	20cm	40cm	右(kg)	左(kg)	右足支持(秒)	左足支持(秒)	右(kg)	左(kg)	(cm)
3回目(10/14)	6.09	84.6	85.6	8人	4人	21.6	20.9	5.1	17.3	2.49	2.76	9.8
12回目(12/12)	6	89.5	88.9	8人	5人	23.3	22.4	12.4	18.5	2.55	2.74	9.5
変化	0.09 ↑	4.9 ↑	3.3 ↑		↑	1.7 ↑	1.5 ↑	7.3 ↑	1.2 ↑	0.06 ↑	0.02 ↓	0.3 ↓
P値	0.463	0.041*	0.161			0.141	0.172	0.063	0.612	0.671	0.917	0.865

- ・最大一步幅（右）は有意差が認められた。
- ・他の種目について有意差は認められなかったが、平均でみると、12項目（7種目）中9項目において「向上」という結果だった。
- ・個別の効果判定では、すべての項目について半数以上が「向上」「変化なし」だった。

(ウ) 日常生活状況 (アンケートにて)

*教室最終回にアンケートを配布 後日訪問にて回収：13名分

	楽になった 変わった	変わらない	前から楽	わからない
歩くことが楽になった	5	5	2	1
歩く距離が増えた	5	7	1	0
階段の昇り降りが楽になった(※1)	4	7	0	1
立ち座りが楽になった	4	7	1	
外出回数が増えた(※2)	4	8		0
普段の生活が変わった	5	8		
生活が明るく前向きになった	8	2		3
交友の輪が広がった	1 1	1		1
他の参加者と話をするようになった	1 2	1		0

※1：階段は昇らない 1名 ※2：減った 1名

「普段の生活が変わった」と答えた人の、具体的変化の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ お風呂の中で筋力トレーニングを毎日おこなっている ・ 背筋を伸ばして姿勢を良くするようになった ・ 楽しい気持ちになり、体も軽くなった ・ 立ち上がりの動作が軽く、思ったことをすぐやろうと身体が動く
--

- ・歩行や階段昇降など身体面での自覚的变化を感じている人が4~5人、その他の多くは「変わらない」と現状維持を保っている。
- ・「生活が明るく前向きになった」人が半数近くあり、教室の雰囲気は回を重ねるごとにこなごかになり、参加者同士の会話も増えた。反面、身体に痛み(膝関節痛等)を伴う人にとっては負担感があった。
- ・家でのトレーニングの習慣については、ほぼ毎日実施した人は5名、時々実施した人は6名。生活の中に習慣づいた人もいたが、家での実施ができなかったことに負い目を感じている人もおり、トレーニングの勧め方等にも検討が必要と感じた。

コ しなやかお達者教室自主活動

「教室終了後平成17年度中の実施状況」

期間・回数：平成18年1月~3月まで、月2回実施(6回)

スタッフ：保健師1名と運動指導員(ボランティアにて)

平均参加者：10~11名(民生委員も引き続き2~3名ずつ参加あり)

- ※自主にむけての活動になってから、準備や片付け等参加者が自ら行なうようになり、仲間意識がより強くなった。欠席の連絡も他の参加者に伝えられていたり、参加者同士が相手を気遣い、心配りをされる姿も見られるようになった。

4月からの自主活動に向け、参加者が順番にかけ声を出すよう促し、自発的にやりたいことを出してもらおうよう働きかけた。

4月以降は「しなやかお達者の会」として月2回ずつ、継続の予定。

サ まとめ

今回の事業については前述した体力測定やアンケートの結果より成果があったと思われる。体力測定により成果を確認できたことで、参加者も効果を実感し、自信をつける機会となった。あいち健康プラザへバスで出かけたことは、不安を感じる人もいたが閉じこもりがちだった人が外出に自信をもてるきっかけにもなり、また参加者同士の交流が深まる機会となった。

参加者の選定から教室終了まで民生委員の協力をいただき、毎回2~3名の参加があった。参加者にとっても心強く、また民生委員にとっても地域の高齢者が元気になっていく様子を確認でき、教室の意義を感じていただけた。

今回の参加者は女性のみだったが、今後男性も参加しやすい教室や内容の検討しながら、民生委員等と連携を図り、またボランティアの育成・支援をしながら地域に根付いた活動へ発展できるような取り組んでいきたい。

(4) 健康おおぐち21「元気体操ひろめ隊」養成講座

ア 目的

体を動かすきっかけづくりとして作成した「元気体操」を覚え、広めていく人材を養成する。

イ 対象 住民

ウ 日時及び場所

平成17年6月20日(月) 平成17年6月24日(金)

保健センター1階 多目的室

エ 従事者

保健師 健康運動指導士(1名)

オ 参加状況

33名 30名 (2日間の実人員数35名。)

修了者には健康おおぐち21「元気体操ひろめ隊」の会員証交付。

何らかの所属団体から参加した方も多く、修了後は自分の所属団体での準備体操等に取り入れられている。

養成講座参加者以外にも健康クラブ「笑顔21」9人、第四期健康推進員61人、健康推進員OB「ほほえみ会」54人にも、会員証を交付した。



(5) 介護予防事業 「介護予防のための地域ボランティアスキルアップ講座」

ア 目的

介護予防を地域づくりの視点で捉え、地域のつながりを育む意識を高め、今後の活動につなげるための人材を育成する。

イ 対象

一般住民（民生委員・福祉協力員・健康推進員・推進員 0B・ハートフルサント
ひだまりの会ボランティア等にチラシ配布 尾北ホームニュース・町のホームページ
に掲載し募集）

ウ 実施日時・内容・参加者数

回	日 時	内 容	参加者数
1	2月27日 午後1時30分～ 3時30分	講演「みんなで進めよう！ 介護予防のための地域づくり」 愛知県立看護大学 松岡広子先生 地域での活動紹介 (ひだまりの会・しなやかお達者教室)	28名
2	3月1日 午前10時～12時	運動実技「活動的な85歳にむけて 丈夫な足腰づくり」 ～やってみよう貯筋運動～ 愛知県健康づくり振興事業団 運動指導員 石川 裕哲先生	20名
3	3月9日 午後1時30分～ 3時30分	実技「みんなで楽しく レクリエーション体験」 愛知県レクリエーション協会 六鹿 恵子先生	17名
4	3月10日・24日 13日・27日 午前10時～11時30分	「地域の活動に参加してみよう！」 *いずれかの日に参加 (中小口 ひだまりの会) (余野 しなやかお達者)	12名

エ まとめ

参加後のアンケートより、「今後の活動に参加したい」「自分たちでもやってみたい」という声もあり、少数ではあるが地域づくりの意識が芽生えた。
参加者の経験を活かし、今後の活動につなげたい。

(6) 歩く健康のつどい

ア 目的

手軽にできる運動として『歩くこと』を通して、健康の保持増進・生活習慣病予防に努める。

イ 対象

一般住民

ウ 日時

月2回(第2・4火曜日) 午前9時30分～11時

エ 従事者

保健師(健康チェック・準備体操時のみ)

オ 実施内容

時 間	内 容
AM 9:30～9:45	健康チェック(血圧測定・検尿)
9:45～10:00	健康おおぐち21元気体操
10:00～11:00	1時間ウォーキング(主に五条川沿い)

検尿は、第2火曜日のみ

カ 参加状況

(単位:回・人)

年度	実施回数	実人数	参加延人数	1回平均参加者数
14	23	52	344	15.0
15	21	31	269	12.8
16	21	26	227	10.8
17	23	22	235	10.2

キ 健康チェック結果

(ア) 血圧測定者結果(延べ人数) (単位:人)

血圧測定者 延べ数	正常域	境界域	高血圧域
213	154	53	6

(イ) 尿検査者結果(延べ人数)

測定者	蛋白			糖			潜血		
	+	±	-	+	±	-	+	±	-
95人	6	5	84	12	3	80	2	17	76

ク まとめ

平成12年度から、定例以外に自主的に毎週火曜日にウォーキングを行なっている。今年度から「健康おおぐち21元気体操」を準備体操に行い、推進イベント時の協力など健康おおぐち21推進活動にも参画している。

(7) 生活習慣病予防教室OB会（ステップアップ若歩会）

平成 11 年度のステップアップ健康教室参加者で、教室終了後も健康づくりへの意識を持ち、参加者同士が互いに刺激し合うために「ステップアップ若歩会」を発足させ、自主グループとして活動している。

ア 目的

教室参加中に培った生活習慣の維持と更なる健康意識の高揚のために、「歩くこと」を中心に健康づくりを継続する。

イ 実施日時および回数

毎月第 4 火曜日（年間 12 回） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分まで
（内容により、この限りではない）

ウ 会員数

9 名

エ 従事者

管理栄養士 保健師

オ 実施内容および参加状況（スタッフが係わった回のみ）

実施月	実施内容	参加人数
4 月・5 月	平成 17 年度の活動について	延べ 16 人
6 月・7 月 10 月 11 月・3 月	町内ウォーキング（五条川を中心に）	延べ 33 人
8 月・1 月・2 月	健康おおぐち 21 元気体操と 室内体操（太極拳・ヨガ・ビデオ体操）	延べ 17 人
9 月	お楽しみウォーキング（町外へハイキング）	6 人
11 月 26 日	健康おおぐち 21 推進イベント 「健康ウォーク&元気まつりⅡ」に参画	9 人

※12 月は、雪による荒天のため休会とした。

カ 実施場所

保健センター

キ まとめ

実施内容の企画や連絡・調整は参加者が輪番制をとり、年間計画に基づいて活動している。この活動をはじめて 6 年が経過し、月 1 回集まることで健康情報の交換や、互いの生活習慣について刺激しあいながら全員無理せず楽しく参加している。今年度は本来の「歩くこと」を中心にしつつ、筋力アップにも目を向け、意識的に室内体操を行っている。

また昨年度に引き続いて、健康おおぐち 21 推進イベント「健康ウォーク&元気まつりⅡ」に参画し「癒しのお茶コーナー」にて、日頃家庭で使っている薬草茶やハーブティーを来場者に試飲してもらうことで、日頃の活動を外へ発信する機会となった。

今後も活動を継続していく中で活動内容を会員以外の人にも生活改善の効果や方法等を啓発していけるよう支援していきたい。

(8) 広報『おおぐち』及び広報無線による啓発活動

ア 目的

疾病や生活習慣などに関する情報を広く住民に啓発し、広報「おおぐち」・広報無線を通じて健康意識の向上に努める。

イ 広報『おおぐち』掲載月および内容

掲 載 月	掲 載 内 容
平成 17 年 5 月号	「世界禁煙デー」
平成 17 年 8 月号	食品衛生月間「食中毒に注意しましょう」 ・食中毒の予防法（食品の保存、調理のポイントなど）
平成 17 年 9 月号	「がん征圧月間」 ・乳がん自己検診法、がんを防ぐための 12 か条
	「9月9日は、救急の日」・救急箱に入れておきたいもの 「結核予防週間」 ・ストップ ザ 結核！ 4つのポイント
平成 17 年 10 月号	「食生活改善普及月間」 ・食生活改善チェックと栄養相談の紹介
平成 17 年 12 月号	「歯の健康」・歯の健康づくり得点 <small>はちまるにいまる</small> 「8020運動コンクール表彰者発表」・表彰者の8020の秘訣

*毎月、「みんなですすめる 健康おおぐち21」と題し、健康おおぐち21計画推進状況や5分野のはじめの一步を掲載した。

ウ 広報無線

「健康おおぐち21」の周知と内容の啓発として、随時、各分野のワンポイントアドバイスを流した（運動2回、食生活5回、こころ1回、たばこ3回、アルコール1回、歯4回）。同時に、「健康おおぐち21」計画を推進するにあたり、スタッフ募集やシンボルマークの愛称募集も行なった。

平成17年12月から平成18年2月には「インフルエンザの予防」について、2月には「生活習慣病予防週間」について周知した。

(9) 要請による健康教育

事業名 (依頼団体)	実施月日	実施内容	参加人数 (スタッフ)
さわやか会 (秋田老人クラブ)	4月27日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操 健康相談(血圧測定)	42人 (保健師)
大屋敷区高齢者 ふれあい会 (大屋敷区)	5月8日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操	71人 (保健師)
外坪老人クラブ	5月18日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操	51人 (保健師)
ちとせ会 (大口町老人クラブ連合会)	6月3日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操	40人 (保健師)
上小口 寿楽会	6月15日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操	40人 (保健師)
さつきヶ丘 老人クラブ	7月12日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操 健康相談(血圧測定)	27人 (保健師)
豊田地区老人クラブ	7月25日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操 健康相談(血圧測定)	29人 (保健師)
高齢者教室 「さくら大学」 (憩いの四季)	10月7日	健康おおぐち21元気体操 講話「食欲の秋 栄養士の話」	97人 (保健師・ 管理栄養士)
	11月4日	健康おおぐち21「歯の健康」について 講演「歯は命 いつまで経っても自分の歯」 健口体操(顔の筋肉を動かす運動)	70人 (保健師・ 歯科医師)
介護者教室	10月28日	調理実習「食がすすまないとき、こんなはどう ですか？」	27人 (管理栄養 士・福祉課)
余野老人クラブ	12月14日	フットケアから転倒予防「足もとから健康に」 健康おおぐち21元気体操 健康相談(血圧測定)	38人 (保健師)

(10) 健康教育実績

(単位：回・人)

区分 事業	事業名	対象	回数	参加延人員
年間計画による事業	ステップアップ高脂血症予防教室	一般住民	9	167
	しなやかお達者教室	高齢者	20	217
	生き生き体操	一般住民	12	340
	歩く健康のつどい	一般住民	23	235
	乳がん検診時健康教育	成人女性	2	197
	わかば健診時健康教育	20歳から39歳	2	121
	健康推進員研修会	健康推進員	7	244
	健康ウォーク&元気まつりⅡ (内 ウォーキング大会)	一般住民	1	700 (460)
	住民検診時体力測定	一般住民	11	320
	介護予防のための地域ボランティア スキルアップ講座	一般住民	3	65
	元気体操広め隊	一般住民	2	59
要請による事業	秋田老人クラブ	老人クラブ員	1	42
	上小口老人クラブ	老人クラブ員	1	40
	大屋敷区高齢者ふれあい会	大屋敷区高齢者	1	71
	ちとせ会(大口町老人クラブ連合会)	老人クラブ員	1	40
	さつきヶ丘老人クラブ	老人クラブ員	1	27
	豊田地区老人クラブ	老人クラブ員	1	29
	外坪老人クラブ	老人クラブ員	1	51
	高齢者教室「さくら大学」	高齢者	2	167
	介護者教室	介護者	2	83
	余野老人クラブ	老人クラブ員	1	38
	民生委員健康教育	民生委員	1	30
	元気体操普及時健康教育	一般住民	28	1,614
	自主グループ健康教育	若歩会 ※2	5	45
	健康推進員地区活動 ※1	地区住民	19	713
	ほほえみ会健康教育	ほほえみ会員 ※3	10	111
	合計	—	167	5,766

※1 保健師・管理栄養士が携わった活動のみ

※2 「若歩会」は、平成11年度ステップアップ健康教室のOB会

※3 「ほほえみ会」は、第1・2・3期健康推進員のOB会

(11) 生活習慣病予防教室のあゆみ

年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
動機	<ul style="list-style-type: none"> ・12年度に引き続き、糖尿病予防のための生活改善を重点に置き、内容をさらに充実させた。 ・高齢者と成人において、筋力トレーニングを取り入れた実践教室を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H9年度から取り入れている集団・個別方式による「ステップアップ教室」のテーマを基本健診で最も異常の多い高脂血症にし、生活習慣改善を運動実践に重点を置いて実施した。 ・高齢者は筋力トレーニングを取り入れ生きがい活動につながるようなグループ学習を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今や国民病とも言われている糖尿病予防のための生活習慣改善に再び重点をおき、対象者の幅を広げ実施した。 ・年代別での健康問題やニーズに合わせて生活習慣病予防教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、糖尿病に重点を置いて教室を実施。教室の名称に「予防」を加え、要医療・要指導以外の関心のある方にも対象を広げた。 ・高齢者対象に筋力維持に向けた筋力トレーニングと、高齢期の心身ともに健康的なライフスタイルのヒントになるよう講義を実施。 ・生活能力チェックで運動の動機付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健診で最も多く、他の生活習慣病とも相関のある高脂血症を取り上げた。基本コース(全3回)、実践コース(全8回)で、本人の行動ステージに合わせて申し込めるようにした。前者では、啓発を後者では行動変容・継続までを目標に実施した。 ・楽しく体を動かすきっかけづくりとして教室実施。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ糖尿病教室」 ・8回1コースで実施 「はつらつ教室」 ・6回1コースで、65歳からの健康づくりとして、家庭でもできる筋力トレーニングを実施。 「心と体が思わず笑い出す元氣アップ教室」 ・6回1コースで、病態の啓発と筋力トレーニングを毎回組み合わせて実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「元氣アップ教室～高脂血症編～」 ・6回コースで高脂血症予防の栄養の基本と運動実技を実施 「元氣はつらつ教室」 ・65歳からの健康づくりとして6回1コースで、筋力トレーニングと「健康」をテーマとしたグループ学習を取り入れた教室を実施。 「魅力アップ講座」 ・20歳代・30歳代健康づくりとして3回1コースで、運動、栄養、休養について講義と実技を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ糖尿病教室」 ・8回コースで糖尿病予防の生活習慣の見直しと、栄養・運動の実践へよう集団・個別方式で実施。 「元氣はつらつ教室」 ・65歳からの健康づくりとして、6回コースで筋力トレーニングと、高齢期のライフスタイルについての講義、歯・食生活の講義と実習を取り入れた教室を実施。 「元氣はつらつでましよう会」 ・生活能力チェック・歯の健康教育を3地区で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ糖尿病予防教室」 ・8回コースで糖尿病予防の生活習慣の見直しと、栄養・運動の実践へとつながるよう集団・個別方式で実施。 「元氣・はつらつ教室」 ・65歳からの健康づくりとして、6回コースで筋力トレーニングと、高齢期のライフスタイルについての講義、歯・食生活の講義と実習を取り入れた教室を実施。 「元氣はつらつでましよう会」 ・生活能力チェック・歯の健康教育を3地区で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ高脂血症予防教室」 基本コース:全3回(実践コースの2・3・4と合同で実施。医師・運動指導士・管理栄養士の講演から学ぶ。) 実践コース:全8回(集団個別方式で、学びを生活レベルに掘り下げて行動変容につなげていった。参加者の10年後の目指す姿に寄り添い実施。終了後、継続支援実施。) 「生き生き体操教室」 国保の補助事業として実施。速めのテンポで楽しい会話を交えた体操を実施。はじめには元氣体操。最後にはリラクゼーションを実施。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に糖尿病教室後の参加者の変化を掲載。 ・はつらつ教室、元氣アップ教室の各OB会発足。 ・健康推進員第3期発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に生活習慣病予防チェックや食習慣チェックを掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に、好評であった元氣はつらつ教室の様子を紹介 ・健康おおぐち21検討部に、元氣アップOB会の代表者2名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で健康おおぐち21推進に関する健康教育を掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の「みんなが進める健康おおぐち21」のページに健康教育掲載。 ・広報無線にてワンポイントアドバイスを実施。

8 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して、生活習慣改善を中心に実施している。定例の健康相談（毎週金曜日）に加えて、随時電話相談や健康相談を行い、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

(1) 健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

毎週金曜日 午前9時30分から11時30分 保健センター 相談室
随時

エ 内容

血圧測定 尿検査 日常生活相談 栄養相談（希望者のみ）等

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

	実施回数	延べ相談者数	栄養相談（再掲）
毎週金曜日	49回	32人	2人
随時	65回	65人	0人

<相談者内訳>

相談者内訳		血圧域区分			
39歳以下	40歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
1人	96人	47人	24人	20人	6人

(2) 電話相談・面接

ア 目的

電話相談・面接を通して日常生活の不安を取り除き、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師 管理栄養士

エ 実施状況

(ア) 電話相談 382件

<内訳>

内 容	件 数
予 防 接 種	158件
幼 児	127件
乳 児	49件
生活習慣病関係	14件
精 神	7件
思 春 期	5件
妊 婦	4件
産 婦	3件
心身障害	1件
そ の 他	14件

栄養電話相談（再掲） 8件

(イ) 面接相談 73件

<内訳>

内 容	件 数
生活習慣病関係	29件
幼 児	12件
精 神	10件
乳 児	8件
予 防 接 種	4件
妊 婦	3件
心身障害	1件
そ の 他	6件

栄養面接相談（再掲） 17件

(3) 住民検診時健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

住民検診受診者

ウ 日時及び場所

6月28日から7月1日までの住民検診実施期間 10地区会場と保健センター

エ 内容

検診結果（胸部レントゲンを除く）説明 健康手帳の発行
健康管理台帳を参考にした保健指導および日常生活相談 栄養相談
（必要に応じて医療機関の受診勧奨または事後相談を勧める）

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

実施回数	相談者数（栄養相談再掲）
11回	421人（9件）

※1会場を1回とする。

<内訳>

内訳		血圧域区分			
39歳以下	40歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
30人	391人	250人	123人	48人	0人

<栄養相談内容（重複あり）>

- ・高脂血症 4人 ・高血圧 4人 ・肥満 3人
- ・糖尿病 2人 ・痛風 2人 ・夏バテ 1人

(4) 住民検診後の健康相談

ア 目的

健康状態を把握し、必要に応じて医療機関の受診を勧奨する。

イ 対象

住民検診の結果、血圧や尿検査の再検査が必要と認めた者

ウ 日時及び場所

住民検診後のがん検診時 がん検診会場（保健センター）

エ 内容

血圧測定 日常生活に関する相談

オ 従事者

保健師

カ 実施状況

実施回数	相談者数	血 圧 域 区 分			
		正常域	境界域	高血圧域	未実施
7回	218人	151人	46人	21人	0人

※半日のがん検診を1回とする。

(5) 医師による健康相談

ア 目的

健康状態をより具体的に正しく把握し、必要な場合医療機関の受診を勧奨する。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

平成17年11月7日（月） 午後2時～3時

保健センター 相談室

エ 内容

血圧測定 日常生活や治療に関する相談

オ 従事者

医師 保健師

カ 相談内容

相談者	内容
36歳（女）	尿潜血、高脂血症について
29歳（女）	尿潜血、高脂血症について
36歳（女）	高脂血症について
39歳（女）	高脂血症について

※わかば健診受診者が受診結果について相談。

(6) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
歩く健康の集い	23回	235人
ステップアップ高脂血症予防教室	7回	140人
ステップアップ高脂血症予防教室(栄養相談)	6回	16人
ステップアップ高脂血症予防教室(個別相談)	5回	11人
生き生き体操	12回	340人
しなやかお達者教室	19回	185人
秋田老人クラブ	1回	24人
さつきヶ丘老人クラブ	1回	23人
豊田地区老人クラブ	1回	23人
余野老人クラブ	1回	25人
秋田区健康推進員活動	1回	24人
健康推進員研修会	2回	56人
ほほえみ会	3回	27人
憩いの四季健康づくり教室	1回	30人
元気体操ひろめ隊	2回	59人
合計	85回	1,218人

(7) 骨密度測定時の事後健康相談

内容	回数	延べ人数
健康相談	4回	194人
栄養相談	4回	30人

※半日を1回とする。



9 機能訓練（B型機能訓練：ひだまりの会）

（1）目的

- ・虚弱老人が閉じこもり症候群から寝たきり状態に陥ることを防止し、いきいきした生活を確保し、地域との連携の中で、社会参加を促し、ADLの維持・改善を図る。
- ・ボランティア等の地域住民と共に、安心して老いることができる、お年寄りにやさしい地域をつくる。

（2）対象

町内に在住する閉じこもりがちな人

（3）日時及び場所

毎月 第1・3火曜日 午前9時30分～12時 大屋敷学習等共同利用施設
 毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター

（4）内容

時 間	内 容
9:00～9:30	会場準備
9:30～9:45	事前打ち合わせ
9:45～10:15	健康チェック（血圧測定）
10:15～10:40	歌（ひだまりの会の歌・今月の歌）・みんなの体操・鳴子体操
10:40～11:20	生きがい活動（遊بریテーション・作業療法等）
11:20～11:30	お茶タイム 後教室終了
11:30～12:00	カンファレンス（反省と次回予定）

（5）従事者

大屋敷：作業療法士・運動指導員（各6回／年）・保健師・ボランティア
 中小口：作業療法士・運動指導員（各6回／年）・保健師・ボランティア

（6）参加状況

<大屋敷>

実施回数	24回	
参加実人員	対象者	5人
	ボランティア	8人
参加延人員	対象者	49人
	ボランティア	127人
平均参加者数	対象者	2.0人
	ボランティア	5.3人

<中小口>

実施回数	24回	
参加実人員	対象者	7人
	ボランティア	8人
参加延人員	対象者	111人
	ボランティア	119人
平均参加者数	対象者	4.6人
	ボランティア	5.0人

（7）年齢別区分

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
大屋敷	-	-	-	1人	4人	5人
中小口	-	-	5人	1人	1人	7人

(8) まとめ

大屋敷は参加者の殆どが90歳代であったため急な体調変化により参加できなくなり、休止の運びとなった。しかしボランティアはスキルアップの為、定期的に集まっている。中小口は自主活動化に向け運営の主体を徐々にボランティアへ移行していった。教室運営はボランティア、保健師、作業療法士で行うことで、ボランティアが地域での介護予防活動の大きな力となっている。

「ひだまりの会」に参加している人は確実に寝たきり状態になることが予防され参加することを楽しみにし、意欲が見られる。またボランティア活動を通して高齢者を支える地域づくり・人づくりの役割を果たしている。今後は介護予防事業を展開していくうえで、「ひだまりの会」のような活動が多くので地区で行なわれることが望まれる。

(9) 大口町機能訓練事業の変遷

時代の変化とともに、高齢者の状況やそれを取り巻く、社会背景も変化している。

年 度	事業名	根拠となる法律
H2～H11	ひまわり教室 (A型機能訓練:基本型)・・・	・ ・ 老人保健法
H12	ひだまりの会 (B型機能訓練:地域参加型) (大屋敷) 開始	老人保健法/介護保険法 介護予防:地域支え合い事業 IADL事業 転倒骨折予防教室
H13	(中小口) 開始	
H17	しなやかお達者教室 (余野)	
	ひだまりの会 (大屋敷) 休止	



10 保健師活動報告

常勤・課長職

所 属 機 関				<input type="checkbox"/> 地域保健部門 <input type="checkbox"/> 地域福祉部門等										
保 健 師 数		実 人 員 7 人		報 告 期 間										
時 間 外 勤 務 (再 掲)		実 働 7 人		<自> 17 年 4 月 <至> 18 年 3 月										
別 掲	常 勤 以 外	0 単 位		II 家 庭 訪 問										
	課 長 職	0 単 位		III 面 接										
I 業 務 内 容		種 別		IV 電 話										
		実 延 (市町村支援)		被 指 導 人 員 率 (市町村支援)										
		単 位 数 率		実 延 被 指 導 人 員										
管 理 地 区	調 査 研 究	29	(0) 0.9%	* 感 染 症	0	0	0	0.0%		0	0			
	地 区 管 理	867	(0) 27.1%	結 核	0	0	0	0.0%		0	0			
保 健 福 祉 事 業	家 庭 訪 問	151	(0) 4.7%	結 核 要 観 察	0	0	0	0.0%		0	0			
	健 康 相 談	204	(0) 6.4%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	保 健 指 導	50	(0) 1.6%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	デ イ ケ ア	0	(0) 0.0%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	健 康 診 査	446	(0) 13.9%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	健 康 教 育	581	(0) 18.1%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	地 区 組 織 活 動	70	(0)	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	機 能 訓 練	91	(0) 2.8%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	予 防 接 種	68	(0) 2.1%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
	そ の 他	47	(0) 1.5%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
コ ー デ ィ ン グ	会 議	217	(0) 6.8%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
コ ー デ ィ ン グ	会 議 以 外	55	(0) 1.7%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
研 修 教 育	研 修 企 画	5	(0) 0.2%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
研 修 教 育	実 習 指 導	40	(0) 1.2%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
医 療	監 視 等	0	(0) 0.0%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
業 務 管 理		89	(0) 2.8%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
業 務 連 絡 ・ 事 務		99	(0) 3.1%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
研 修 参 加		140	(0) 4.4%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
そ の 他		24	(0) 0.7%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
計		3,203	(0) 100.0%	精 神 障 害	0	0	0	0.0%		0	0			
V コ ー デ ィ ン グ		会 議 会 議 以 外		精 神 障 害		精 神 障 害		精 神 障 害		精 神 障 害				
		個 別 地 域		個 別 地 域		個 別 地 域		個 別 地 域		個 別 地 域				
延 課 題 件 数	結 核	0	0	0	0	計		287	313	(0)	100.0%	0.0%	71	384
	精 神	0	0	1	0	(家 庭 訪 問 再 掲)						注		
	老 人	0	0	0	9	実 延						★ 会 議 は 地 域 保 健 部 門 以 外 の 者 が 計 上 する		
	母 子	0	0	35	21	* エ イ ズ		0		0				
	難 病	0	0	0	0	* (再 掲 待) 児 童		1		1				
	障 害 児 (者)	0	0	0	1	* 高 齢 者		0		0				
	そ の 他	0	0	0	10	* * 虚 待 予 防		5		13				
計	0	0	36	41	不 在 件 数		6		件					
延 関 係 機 関 (者) 数	医 師 会 等	0	0	0	5	不 明 件 数		0		件				
	医 療 機 関	0	0	2	11									
	福 祉 機 関	0	0	32	25									
	保 健 機 関	0	0	1	10									
	教 育 機 関	0	0	0	22									
そ の 他	0	0	0	3										
計	0	0	35	82										

11 栄養士活動報告

区 分		業 務 内 容	件数	人員	時間	%	
栄 養 指 導 業 務	母 子	健康相談	個別指導、電話相談など	62	197	115	6.5
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	各種健診・栄養教室など集団指導	39	597	73	4.2
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、乳幼児健診等の受付・計測・カンファレンス、通知作成、事務連絡等			176	10.0
		小 計	母子保健関係小計	101	794	364	20.7
	成 人 ・ 老 人	健康相談	個別指導、電話相談など	30	50	63	3.6
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	各種栄養教室の集団指導、各種健康教室など	6	184	24	1.4
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、事務連絡等			255	14.5
		小 計	成人保健関係小計	36	234	342	19.5
	地 区 組 織 ・ 依 頼 等	養 成	栄養教室など	10	217	47	2.7
		育 成	健康推進員活動・各自主活動等の事前うち合わせ	18	62	22	1.2
		業務推進	地区組織等による活動に関する準備・片付け・評価、献立作成、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ等			102	5.8
		小 計	地区組織・依頼等小計	28	279	171	9.7
	小 計	健康相談		92	247	178	10.1
家庭訪問			0	0	0	0.0	
健康教育		地区組織等の養成・育成を含む	73	1,060	166	9.4	
業務推進					533	30.3	
調 査・研 究	健康おおぐち21推進及び関係会議、事業の統計、保健活動のまとめ等			428	24.4		
会 議	会議全般（子どもの健康に関する連絡会・企業との連携・課内業務検討等）			69	3.9		
研 修	研修全般（市町村保健行政栄養士連絡会等の研修会・職員研修等）			53	3.0		
栄養業務関係事務	栄養業務に関する事務、業務報告、報告書など			186	10.6		
集団給食管理	集団給食に関する事務整理			1	0.1		
栄養指導業務等小計	栄養指導業務及び関係事務等			1,614	91.9		
そ の 他	栄養業務以外〔主に、文書管理・各検(健)診事務等〕			143	8.1		
合 計	総活動時間数			1,757	100.0		

12 家庭訪問

(1) 介護保険認定調査訪問

平成12年度4月介護保険導入後、福祉課とともに介護保険の申請をした人に対して認定調査を行っている。

ア 対象 40歳以上の介護保険対象者で、常時介護や支援が必要と思われ、介護保険の認定を申請した人

イ 申請窓口 福祉課

ウ 申請人数 延人数539人（新規 119人、更新 374人、変更 46人）
実人数421人

エ 健康課の訪問 延人数 442人（在宅 327人、施設 58人、入院 57人）

オ 介護認定調査者の状況(実人員) 平成18年3月31日現在

(ア) 地区別 (単位：人)

秋田	50
豊田	61
大屋敷	63
外坪	14
河北	25
余野	50
上小口	29
中小口	27
下小口	83
垣田	20
さつきヶ丘	15
町外	5
計	442

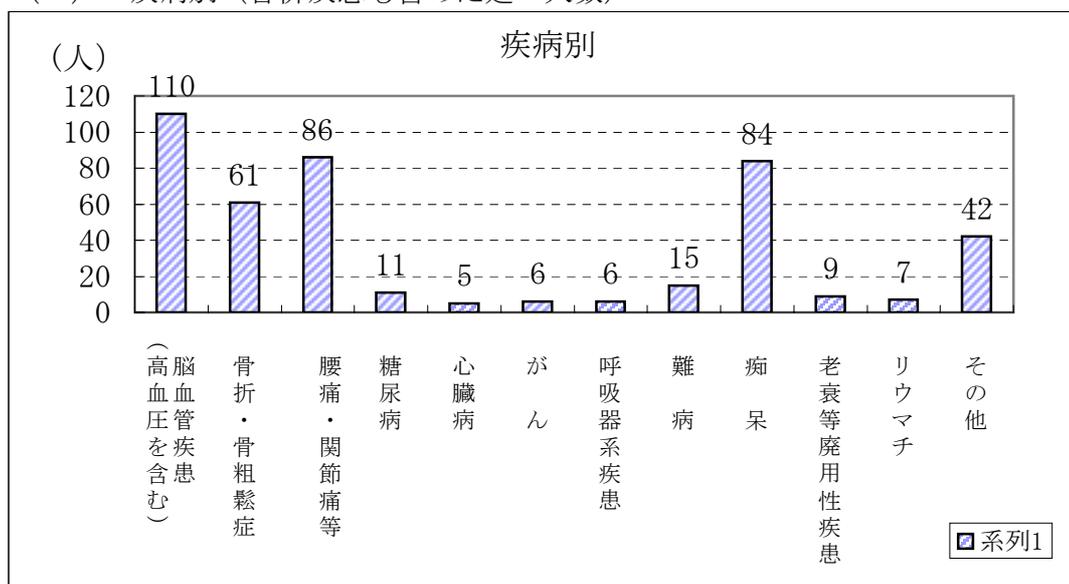
(イ) 性別 (単位：人・%)

男	139	(31.4)
女	303	(68.6)
計	442	(100.0)

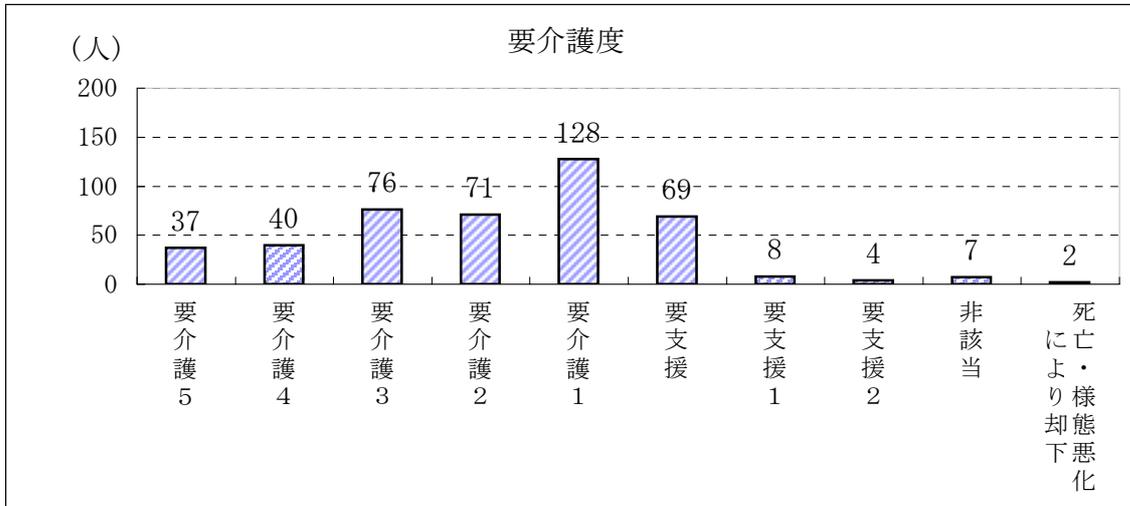
(ウ) 年齢別 (単位：人・%)

40～49歳	5	(1.1)
50～59歳	8	(1.9)
60～64歳	13	(2.9)
65～69歳	28	(6.3)
70～79歳	111	(25.1)
80～89歳	199	(45.0)
90歳以上	78	(17.7)
計	442	(100.0)

(エ) 疾病別 (合併疾患も含めた延べ人数)



(オ) 要介護度別



(カ) 治療中の疾患 (単位：人)

高血圧	160	精神疾患	18
脳血管疾患	97	パーキンソン病	18
腰痛・関節痛等	75	リウマチ	13
心臓病	72	泌尿器	10
糖尿病	66	白内障・緑内障	9
認知症・アルツハイマー	44	癌	5
骨粗鬆症	36	服薬なし	42
呼吸器疾患	20	その他	64

(キ) 介護者別 (単位：人)

嫁	123
配偶者	110
息子又は娘	127
孫又は孫娘	3
その他	79
計	442

(ク) 療養場所別 (単位：人)

自宅	327
施設	58
入院	57
計	442

(2) その他の訪問

(単位：人)

区分	実人員	延べ人数
健康診査の要指導者	7	34
閉じこもり予防	47	57
介護家族者	9	9
寝たきり者	17	17
認知症老人	4	4
その他 (精神障害等)	10	10
計	94	131

健康診査の要指導者への訪問は、がん検診の要精検者に対し訪問をおこなった。精神障害者（疑いを含む）への訪問は、福祉課の精神保健福祉士と連携を図り訪問を実施。医療機関へつなげるケースもあり。

1 歯科保健事業の取り組み

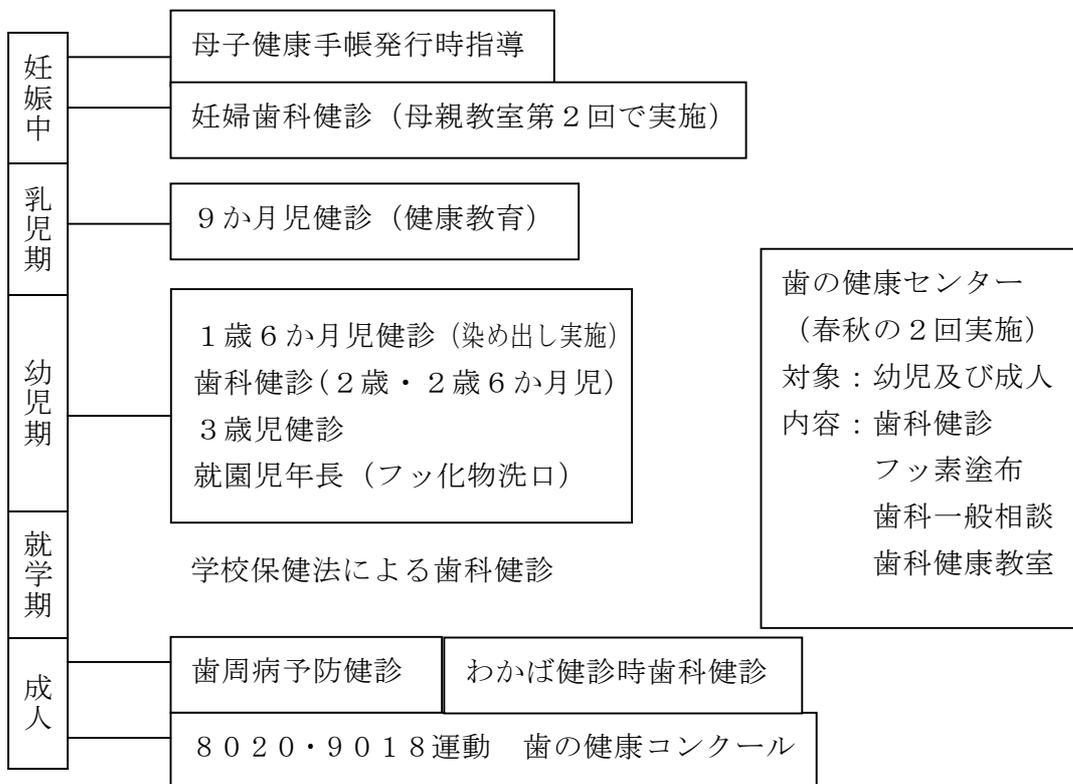
食事を十分にそしゃくし、健康で豊かな生活を維持するには、妊娠期からの歯科保健への取り組みが重要である。

妊婦歯科健診は、20・30歳代の歯周疾患の早期発見につながっていると同時に、胎児期の歯牙形成と食事の大切さを学び、子育てが始まる前の虫歯予防について学ぶ機会となっている。

また、歯は生えてから3年が虫歯になりやすく、食生活・生活リズム・正しい歯みがきが虫歯予防のポイントであるため、1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診で歯科衛生士の健康教育と個別指導に力を入れフッ素塗布も実施し予防効果をあげている。

平成17年度から節目年齢の方へ歯周病予防健診を町内歯科医院委託で実施し、わかば健診時にも歯科健診と歯周疾患の予防を中心に歯科指導を行った。春秋に実施される歯の健康センターでの成人の参加者も増え、8020運動の歯の健康コンクールも定着し、表彰式を「健康ウォーク&元気まつりⅡ」時に行い啓発効果をねらった。今後も健康おおぐち21の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続していきたい。

歯科保健管理体系



2 幼児期歯科健康診査

(1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、歯科健診・フッ素塗布を行ない、虫歯予防に努める。

(2) 対象

1歳6か月児・2歳・2歳6か月児・3歳児

(4か月児・9か月児…生活リズムや飲み物の注意、歯の手入れについて指導)

(3) 日時

1歳6か月児健診時歯科健診 毎月第3火曜日 午後1時40分～

歯科健診(2歳・2歳6か月児対象) 毎月第3水曜日 午後1時00分～

3歳児健診時歯科健診 毎月第1水曜日 午後1時40分～

(4) 内容

健康教育(ブラッシング法)・健診・染め出し(3歳児健診を除く)・フッ素塗布・ジアミン銀塗布・個別指導

(5) 従事者

歯科医師・歯科衛生士・保健師

(6) 結果

ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	塗銀		その他の要指導		
			O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
									総 数	一人 あたり						
13	260	249	52	190	7	0	0	7(2.8)	13	0.05	245	5	11	2	23	48
14	261	252	71	176	5	0	0	5(2.0)	11	0.04	248	1	4	6	30	46
15	273	265	46	215	4	0	0	4(1.5)	14	0.05	261	4	14	1	27	53
16	246	239	34	202	3	0	0	3(1.3)	10	0.04	237	1	4	5	29	38
17	238	231	54	175	2	0	0	2(0.9)	3	0.01	230	1	2	2	27	60

イ 歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	塗銀		その他の要指導				
		O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他	
								総 数	一人 あたり								
13	300	90	188	21	1	0	22(7.3)	46	0.2	17	300	16	44	91	46	40	
14	320	66	220	24	9	1	34(10.6)	101	0.3	12	319	29	61	77	36	20	
15	376	120	229	24	3	0	27(7.2)	56	0.1	17	373	6	11	41	82	53	
16	374	143	198	26	3	4	33(8.8)	91	0.2	17	367	11	20	17	68	83	
17	320	101	211	6	1	1	8(2.5)	26	0.1	2	320	1	1	10	58	57	
内 訳	2歳	166	53	108	4	1	0	5(3.0)	13	0.1	2	166	1	1	3	29	37
	2・6歳	154	48	103	2	0	1	3(1.9)	13	0.1	0	154	0	0	7	29	20

ウ 3歳児健診時歯科健診

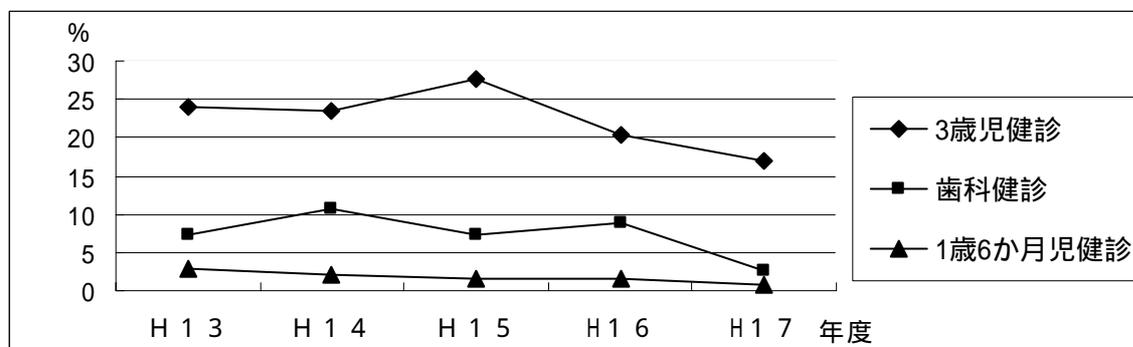
(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者 受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況					フッ素 塗布者 数		塗銀		その他の要指導		
		O	A	B	C1	C2	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数		処置 歯数	フッ素 塗布者 数	塗銀		指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他		
								総数	一人あ たり			人	本					
13	259	234	178	33	18	1	4	56(23.9)	190	0.8	23	220	25	67	31	60	33	
14	268	248	187	36	22	0	3	58(23.4)	245	1.0	29	244	20	53	32	60	34	
15	252	250	181	42	20	1	6	69(27.6)	285	1.1	28	237	14	58	20	48	32	
16	242	230	183	32	13	1	1	47(20.4)	143	0.6	14	226	6	19	24	53	38	
17	249	236	192	31	9	1	3	40(16.9)	137	0.6	20	236	5	6	8	30	48	

エ 年度別幼児期歯科健診実施状況(1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診を合計)(単位：人・%・本)

種別 年度	受診 児数	虫歯の型別分類				虫歯罹患状況					フッ素 塗布者 数		塗銀		その他の要指導		
		O (1,2)	A	B	C (1,2)	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数		処置 歯数	フッ素 塗布者 数	塗銀		指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他		
							総数	一人あ たり			人	本					
13	783	698	61	19	5	81(10.3)	111	0.1	40	765	46	122	124	129	121		
14	820	720	65	31	4	100(12.2)	357	0.4	41	811	50	89	115	126	100		
15	891	791	70	23	7	100(11.2)	355	0.4	45	871	24	83	62	157	138		
16	843	760	61	16	6	83(9.8)	244	0.3	31	830	18	43	46	150	159		
17	787	733	39	10	5	50(6.4)	166	0.2	24	786	7	9	20	115	165		

オ 健診別虫歯保有率の推移



染め出しを取り入れるなどの取り組みにより、虫歯保有率は低下している。

1歳6か月児健診、歯科健診(2歳児・2歳6か月児)3歳児健診全てにおいて虫歯保有率が前年度より著しく減少している。しかし、月齢があがるにつれ虫歯の本数は増加している。育児環境の個別指導の強化が必要だと考えられる。歯科健診受診児の減少が気になる。周知方法が今後の課題となる。

<う蝕罹患型>

- 1：う歯がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- 2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部にう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部にう蝕のあるもの
- C：下顎前歯部にう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部のみう蝕のあるもの

3 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などで虫歯になりやすく歯肉炎や口内炎もおきやすいため、妊婦の歯肉炎や虫歯の予防と早期発見に努める。

乳歯の質を決めるこの時期に歯科健診を受け、歯科保健について学習する機会をもうけ、生まれてくる子どもの虫歯予防の啓発とする。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

奇数月の第2金曜日 午後1時30分～3時30分（年6回）母親教室第2回に実施

(4) 内容

- ・ビデオ「おなかの中から始まる丈夫な歯育て」
- ・健診 ・ブラッシング指導（染め出しによる） ・食生活チェック
- ・講話 母と子の虫歯予防について

(5) 従事者

歯科医師 歯科衛生士 管理栄養士 保健師

(6) 参加者の状況

ア 参加者数 (単位：人)

年 度	13	14	15	16	17
初産婦	57	54	50	45	32
経産婦	13	24	15	25	11
計	70	78	65	70	43

イ 健診結果 (単位：人・本)

区分 年度	受診者数	1人平均健全歯数	1人平均未処置歯数(D)	1人平均喪失歯数(M)	1人平均処置歯数(F)	1人平均DMF歯数	平均歯の健康づくり得点	歯周疾患	
								あり	なし
15	65	17.1	1.1	0.3	10.0	11.4		53	12
16	70	18.4	0.7	0.2	9.5	10.4		49	21
17	43	18.1	0.9	0.8	9.8	11.5	13.1	25	18

※歯の健康づくり得点はH17年7月から実施

ウ 判定結果（延数） (単位：人)

所見なし	要指導	要受診		
		要除石	う蝕治療	歯周疾患治療
6	21	22	22	2

4 わかば健診時歯科健診

(1) 目的

20・30歳の若い年代から歯周疾患の早期発見と予防に努める。歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身に付ける。

(2) 対象

町内住民20歳～39歳までの方

(3) 日時

平成17年8月31日(水)

平成17年9月27日(火) 　　いずれも午後1時～3時

(4) 実施内容

歯科健診・ブラッシング指導

(5) 従事者

保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関 歯科医師 歯科衛生士

(6) 歯科健診受診者状況 (単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	受診者数			年齢別	
		総数	男	女	20歳代	30歳代
17	2	58	4	54	6	52

(7) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	平均健全歯 数
58	22	57	11.3	0.18	15.6

* 欠損補綴歯...失われた歯を人工歯で補ったもの

イ 総合判定

(単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検
58	13	7	38

ウ 自覚症状（複数回答）
（アンケートより 複数回答）

項目	回答者数
歯の間に物が詰まる	28
歯ぐきから出血する	18
歯がしみる・痛む	17
口臭が気になる	7
歯ぐきが腫れる・痛む	6
歯が痛むことがある	4
義歯が合わない	0
特に問題なし	11
その他	5

エ 普段気をつけていること
（アンケートより 複数回答）

項目	回答者数
かかりつけ歯科医がいる	27
1日1回時間をかけて磨く	23
フッ素入り歯磨材使用	22
早めに受診している	22
デンタルフロス, 歯間ブラシ使用	12
定期健診を受けている	10
定期的に除石している	9
その他	4

オ 残存歯数(人・本)

	人数	合計本数	平均本数
20歳	6	173	28.8
30歳	52	1,481	28.5

カ 歯の健康得点(平均点)

年齢	得点
20歳	12.4
30歳	15.7

キ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度(人・%)

	知っている	知らない
8020運動	50(86.2)	8(13.8)
喫煙と歯周病の関係	18(31.0)	40(69.0)

歯の健康得点が節目、8020コンクール対象者の方と比較して低い。得点の低い人の傾向として間食を摂る、趣味が無い、歯ぐきが腫れた事がある、歯がしみる、歯の治療を受けるのが遅いといった共通の項目があがってきた。わかば年代の歯に対する健康意識向上が今後の課題となる。

5 歯周病予防健診

(1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。
歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身につける。

(2) 対象

平成17年10月31日までに満40・50・60・70歳の節目になる者

(3) 日時・場所

平成17年8月1日～10月31日 町内歯科医療機関

(4) 実施内容

口腔内及びその周辺診査・保健指導

(5) 相談者状況

(単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	相談者数			年 齢 別					
		総数	男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
13	2	13	2	11	2	0	1	1	6	3
14	2	4	1	3	0	0	1	1	2	0
15	2	9	1	8	3	1	1	1	3	0
16	2	15	1	14	0	1	5	4	5	0
17	期間中	総数	男	女	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳
		14	4	10	0	0	2	3	5	4

(6) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

相談者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	平均健全歯 数
14	5	12	13.6	4	8.4

* 欠損補綴歯...失われた歯を人工歯で補ったもの

イ 総合判定

(単位：人)

相談者数	異常なし	要指導	要精検
14	1	4	9

ウ 自覚症状 (単位:人)
(アンケートより 複数回答)

項目	回答者数
歯の間に物が詰まる	10
歯ぐきから出血する	1
歯がしみる・痛む	5
口臭が気になる	2
歯ぐきが腫れる・痛む	0
歯が痛むことがある	1
義歯が合わない	1
特に問題なし	2

エ 普段気をつけていること(単位:人)
(アンケートより 複数回答)

項目	回答者数
1日1回時間をかけて磨く	10
かかりつけ歯科医がいる	7
早めに受診している	7
フッ素入り歯磨材使用	3
定期的に除石している	2
デンタルフロス, 歯間ブラシ使用	1
定期健診を受けている	1
その他	0

オ 残存歯数(人・本)

	人数	合計本数	平均本数
40歳	2	58	29.0
50歳	3	84	28.0
60歳	5	141	28.2
70歳	4	96	24.0
計	14	379	27.1

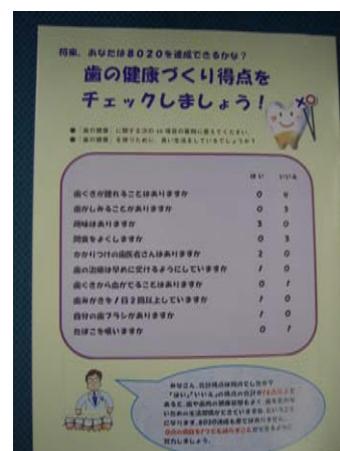
カ 歯の健康得点(平均点)

年齢	得点
40歳	14.0
50歳	15.0
60歳	15.8
70歳	17.0

6人未提出

キ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度(人・%)

	知っている	知らない
8020運動	13(92.9)	1(7.1)
喫煙と歯周病の関係	3(21.4)	11(78.6)



6 歯の健康センター

- (1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のう蝕の予防、ならびに成人のう蝕・歯槽膿漏による歯の喪失の予防に努める。
- (2) 対象 幼児・成人
- (3) 日時 平成17年 6月 5日(日) 午前9時～11時30分
平成17年10月30日(日) 午前9時～11時30分
- (4) 従事者 歯科医師 歯科衛生士 歯科助手 保健師
- (5) 内容 歯科健診 フッ素塗布 一般歯科相談 歯科健康教育
- (6) 受診状況 (単位：人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
平成13年度	2	681	606	75
平成14年度	2	667	581	86
平成15年度	2	642	551	91
平成16年度	2	537	463	74
平成17年度	2	390	315	75

7 はちまるにいまる きゅうまるいちはち 8020・9018運動 歯の健康コンクール

- (1) 目的
生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上の歯がある方・90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。
- (2) 対象 町内在住の80歳以上の方、90歳以上の方
- (3) 審査方法 歯科医院において審査・歯周病予防健診時
- (4) 表彰日時 平成17年11月26日(土)「健康ウォーク&元気まつり」にて
- (5) 表彰者 6名(男性3名 女性3名)
9018の該当者なし。
今年度も老人クラブにも呼びかけることにより、対象者に周知した。
表彰者の紹介を広報おおぐちに掲載した。
応募者7名(表彰者6名、表彰辞退者1名)

平均年齢 (歳)	平均保有歯数 (本)	平均健全歯数 (本)	平均歯周コード (値)	平均健康づくり得点 (点)
81.0	25.4	8.4	1	18.5点

地区	余野	中小口	余野	余野	下小口	豊田
性別	男	男	女	男	女	女
年齢(歳)	80	80	81	80	85	81
保有歯数(本)	28	27	25	25	25	22

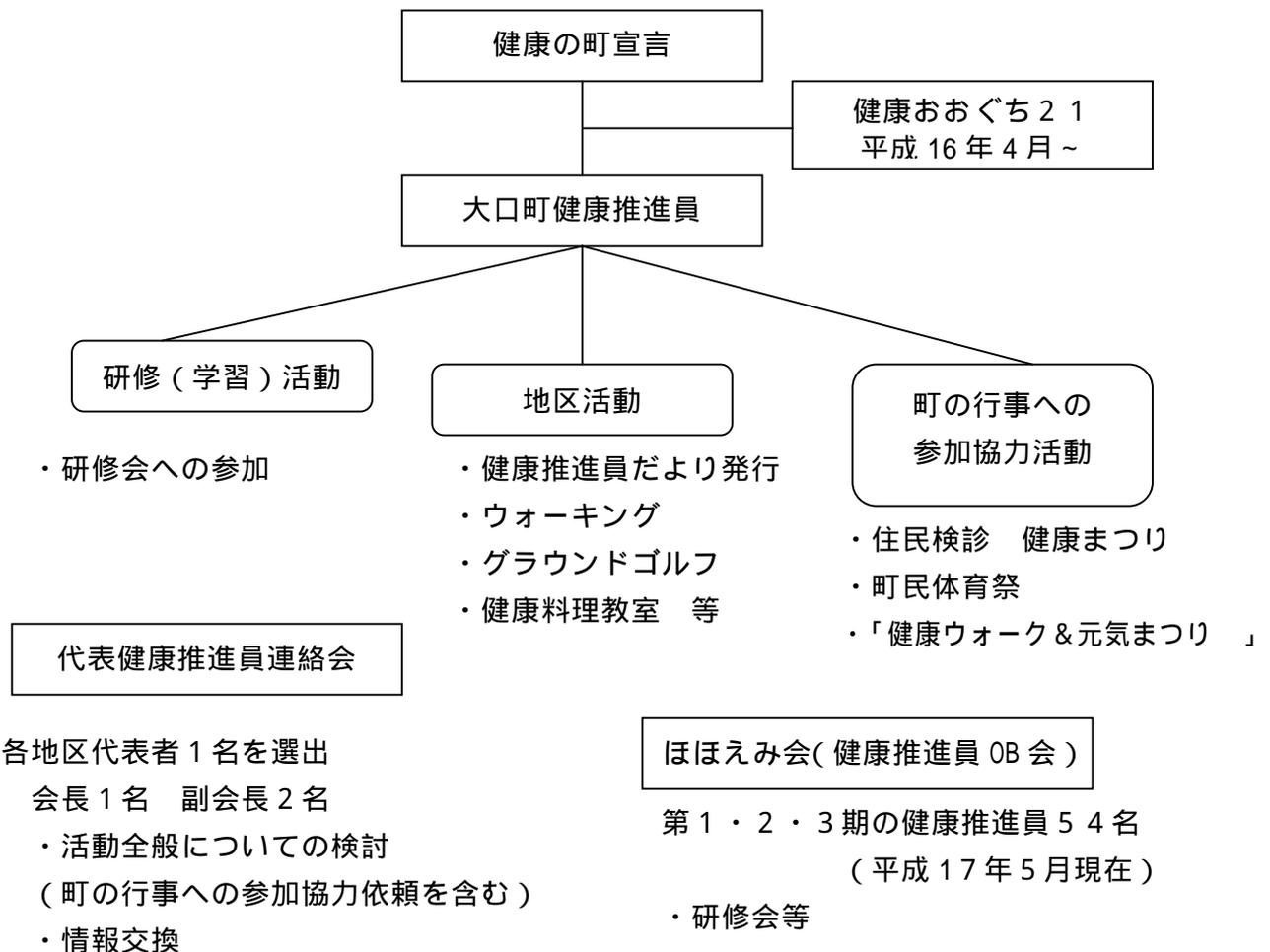
1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

当初健康推進員数は概ね100世帯に1名とし、55名の推進員が町内各地区から推薦されたが、世帯数の増加等地区の状況も考慮して平成16年度からの第4期健康推進員は61名でスタートした。

今年度は、第4期2年目であり「自分の健康から家族・地域の健康に目を向けてみよう！」を目標に昨年に引き続き「健康おおぐち21」の理解と実践・介護予防・がん予防にも目を向け研修会で学習したことを基に、地域活動では健康おおぐち21「元気体操」の普及や食生活の推進を中心に積極的に健康づくりの活動を展開してきた。

また、今年度は健康おおぐち21推進イベントとしてウォーキング大会と健康まつりを1本化し「健康ウォーク&元気まつり」を実施した。その中でウォーキング大会の部分を担当し、各地区から会場までのコースを地区ごとに決め、参加者がウォーキングを楽しめるように努めた。今後も健康おおぐち21を基盤とし、地区に根ざした大口町の健康づくりの中心的役割を担う活動がますます期待される。



(1) 健康推進員研修会実施状況

(単位 : 人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
平成 17 年 5 月 16 日 (月) 5 月 17 日 (火)	健康づくり実技 (運動) 「元気体操をおぼえよう！」 17 年度の保健センターの事業計画	健康運動指導士	18 28
7 月 11 日 (月)	地域活動に生かしてみませんか？ 介護予防のための「生活能力チェックに挑戦！」	健康運動指導士	41
9 月 17 日 (土)	健康推進員視察研修会 あいち県民健康祭に参加 あいち健康プラザ 健康講座「介護予防～生活機能の向上を目指して～」	国立長寿センター研究所 大川 弥生	40
平成 18 年 1 月 26 日 (木)	講演 「がんを予防するための食生活と禁煙」 ～最近のがんからの動向～ グループワーク	さくら病院院長 小林 勝正	39
3 月 18 日 (土)	「笑顔いっぱい、活動発表、交流会」		48

平成 17 年 8 月 4 日 (木)	西尾市健康推進員との交流会 西尾市 38 人		20
平成 18 年 2 月 23 日 (木)	春日町健康づくり推進員との交流会 春日町 16 人 (代表者のみ参加)		10

(2) 代表健康推進員連絡会実施状況

実施月日	主 な 内 容
平成 17 年 4 月 6 日 (水)	17 年度代表健康推進員連絡会役員選出 17 年度計画について
6 月 8 日 (火)	住民検診について 健康おおぐち 21 推進について 地区活動の情報交換
8 月 4 日 (木)	ウォーキング大会について 町民体育祭について 視察研修会について
8 月 19 日 (金)	ウォーキング大会について (昼食について)
9 月 14 日 (水)	「健康ウォーク & 元気まつり 」について
10 月 27 日 (木)	「健康ウォーク & 元気まつり 」について
11 月 16 日 (水)	「健康ウォーク & 元気まつり 」について

実施月日	主な内容
12月9日(金)	「健康ウォーク&元気まつり」について反省
平成18年 2月7日(火)	健康推進員交流会について 春日町との交流会について
2月23日(木)	健康推進員交流会について
3月8日(水)	健康推進員交流会について 17年度実績報告について

(3) 地区自主活動の状況

地区	活動状況
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ練習 毎回 20～25 人 (毎週月曜日に実施・夏冬の4か月は休み) (延約 550 人) ・「元気体操」普及と生活能力チェック 50 人 ・地区盆踊り大会時綿菓子作り(8月) 健康推進員参加 ・秋田区秋季グラウンドゴルフ大会(9月) 65 人 ・健康料理教室(11月) 21 人 ・大口町「健康ウォーク&元気まつり」(11月) 49 人 ・グラウンドゴルフ大会(3月) 27 人
豊田	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康・緑と土のリラックス講座」 17 人 ・盆踊りの練習(3回) 50 余人 ・地区盆踊り練習(4回) 100 余人 ・地区盆踊り(金魚すくい・輪投げ) ・五条川沿いウォーキング 27 人 ・「健康ウォーク&元気まつり」(11月) 18 人 ・足つぼマッサージ講習会 19 人 ・骨粗鬆症予防の栄養実習(2月) 20 人 ・桜並木ナイトウォーキング 30 人

大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）(毎月1回) ・活動内容の検討と反省（不定期） ・健康推進員だより発行（年6回） ・ステップアップダンス（毎月2回、第1・3土曜日） ・ウォーキング大会（4月）(二子山) ・ゴキブリ団子作り（5月） ・高齢者を讃える会（踊り披露）(5月) ・料理教室（ゴーヤを使って）(6月) ・地区盆踊りの練習（7月から盆まで7回） ・盆踊り大会打ち合わせ（区会） ・地区盆踊り大会 ポップコーン作り（8月） ・盆踊り大会反省会（区会） ・ウォーキング大会（9月）(昼神温泉) ・ふれあい祭り（元気体操参加）(11月) ・健康ウォーク&元気まつり（11月） ・歯科指導（2月） 	<p>推進員 5人</p> <p>"</p> <p>10～15人</p> <p>56人</p> <p>20人</p> <p>6人</p> <p>25人</p> <p>25～35人</p> <p>1人</p> <p>5人</p> <p>47人</p> <p>推進員 5人</p> <p>30人</p> <p>30人</p>
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）(毎月1回) ・グラウンドゴルフ練習（毎月2回） ・親善グラウンドゴルフ大会（4月） ・外坪老人クラブ元気体操 ・上高地ウォーキング（7月） ・盆踊りの練習（4回） ・地区盆踊り大会協賛（8月） ・健康ウォーク&元気まつり（11月） ・ミニグラウンドゴルフ大会（3月） 	<p>毎回約 32～36人</p> <p>43人</p> <p>30人</p> <p>43人</p> <p>60人</p> <p>約 300人</p> <p>35人</p> <p>45人</p>
河 北	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）(毎月1回) ・健康教育「60才からの健康づくりのために」(7月) （生活体力チェック） ・グラウンドゴルフ大会（9月） ・健康ウォーク&元気まつり（11月） ・河北区ウォーキング（3月）尾張広域緑道を歩き「犬山城」 	<p>17人</p> <p>52人</p> <p>16人</p> <p>26人</p>
余 野	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）(毎月1回) ・健康推進員行事計画（年1回） ・健康体操（月2回） ・グラウンドゴルフ大会（5月） ・近隣ウォーキング実施（6月・9月） ・余野夏まつり協賛（8月） ・余野推進ウォーキング大会（11月）(養老公園) ・健康ウォーク&元気まつり 参加(余野地区ウォーキング) ・健康料理教室（血液サラサラ簡単料理）(3月) 	<p>11人</p> <p>18人</p> <p>60人</p> <p>27人</p> <p>600人</p> <p>47人</p> <p>68人</p> <p>28人</p>

上小口	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会下見（４月） 5人 ・グラウンドゴルフ大会・元気体操（４月） 44人 ・犬山城下町ウォーキング大会（５月） 23人 ・元気体操（６月） 30人 ・老人会と元気体操（６月） 35人 ・推進役員会（７月） 推進員 6人 ・盆踊り練習（４回）（７月） 推進員 6人 ・盆踊り（８月） ・ウォーキング大会コース下見（８月） 推進員 5人 ・区文化祭及びウォーキング大会（１１月） 推進員 5人 ・健康ウォーク&元気まつり（１１月） 56人 ・グラウンドゴルフ大会下見（犬山桃太郎公園へ）（１１月） 4人 ・グラウンドゴルフ大会（犬山桃太郎公園）（１２月） 34人 ・区忘年会参加（１２月） 人 ・料理講習会（温かヘルシー料理）高血圧予防（１月） 20人 ・地域安全パトロール（夜） ・グラウンドゴルフ
中小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ 毎週月曜日（１・８・１２月は休み） 毎回約 20人 ・エアロビクス 火曜日 毎回約 15人 ・ナイトウォーキング 水曜日（１・２月休み） 毎回約 7～10人 ・健康の集い（歯の健康・元気体操指導）（５月） 34人 ・グラウンドゴルフ大会 35人 （中小口・垣田）（７月） ・地区盆踊り大会協賛（８月） 延 600人 ・「健康ウォーク」大口町ウォーキング（１１月） 54人 ・グラウンドゴルフ大会（３月） 23人 ・健康推進員打ち合わせ会（年６回）
下小口	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月１回） 10人 ・ダンベル体操（月４回） 10～20人 ・「サワヤカシスターズ」鳴子踊り ・グラウンドゴルフ（毎週 ２回） 30～40人 ・料理教室「夏野菜を使った血液サラサラ料理」（７月） 25人 ・下小口グランドゴルフ大会（１１月） 56人 ・下小口ウォーキング大会「堀尾跡公園まで往復」（３月） 111人 ・健康ウォーク&元気まつり（１１月） 72人
垣田	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省） 4人 ・ナイトウォーキング（４～３月）（火・木・土） 4～5人 ・グラウンドゴルフ練習（４～３月）（月・水） 10～13人 ・グラウンドゴルフ大会（中小口と合同）（７月） 13人 ・料理教室（血液さらさらヘルシー料理）（５月） 15人 ・健康づくり教室（１１月） 24人 （足裏体操・元気体操・野菜について） ・健康ウォーク&元気まつり（１１月） 34人 ・CRKグラウンドゴルフの手伝い（１１月） 4人 ・区ウォーキング大会（大口町内の史跡めぐり）（３月） 24人

さつきヶ丘	・ナイトウォーキング(4～12月)(毎週木曜日)	平均12～15人
	・花フェスタ2005ぎふウォーキング(5月)	24人
	・健康ウォーク&元気まつり(11月)	24人
	・料理教室(高脂血症予防)(3月)	19人

(4) 健康推進員OB会「ほほえみ会」の活動

平成10年5月に発足された第1期健康推進員OB会は49名でスタートし、健康に関する研修会を1～2回とウォーキングを実施し、仲間との友好を深めていた。平成16年4月には、第2期・第3期健康推進員OBも加わり、会員54名となっている。

現役時代につちかった健康に対する目で地区を越えた幅広い視点での健康を考えていけるよう、「食」「運動」の2部構成での活動を展開している。今年度は、健康おおぐち21「元気体操」を会員が定期的実施したり、「健康ウォーク&元気まつり」の実行委員として参加する中で意欲的にイベント全体に取り組み「ほほえみ会」としても、癒しのお茶コーナーを提供する等の活動を通して、少しずつではあるが、自分たちの活動を町全体へ発信していけるよう努力を重ねている。

<活動状況>

運 動

実施月日	内 容	参加人数
毎月1回	健康おおぐち21「元気体操」 かんたんエアロビクス	71人
11月10日(木)	東山1万歩ウォーキング	30人

全 体

実施月日	内 容	参加人数
平成17年 5月18日(水)	正副役員会(年間計画について) ほほえみ会の方向性について	13人
11月26日(土)	「健康ウォーク&元気まつり」 癒しの抹茶席コーナー	17人

健康おおぐち21推進イベント実行委員会 6回 代表3人出席

2 「健康おおぐち21」計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した。

推進2年目の今年も、住民と行政が協働してすすめていけるよう「健康おおぐち21推進作業部会」の「健康クラブ『笑顔21』」とともに、あらゆる機会を通して「健康おおぐち21」の周知をはじめ、体力測定や、オリジナル体操の普及、シンボルマーク愛称の募集や旬の野菜レシピの作成など、協働で推進した。そして、11月26日には推進事業の一環として元気な町づくり事業（協働事業）とし、「健康ウォーク&元気まつりⅡ」を実行委員会制で行った。

(1) 「健康おおぐち21」計画推進の経過

実施年月日	内容
平成17年4月11日	健康クラブ笑顔21① ・「健康おおぐち21」計画推進について 2年目の方向性
5月9日	健康クラブ笑顔21② ・「健康おおぐち21」推進活動について (5分野と周知・イベントについて検討)
5月26日	健康おおぐち21推進連絡会① ・16年度の取り組み状況報告 ・17年度の活動についてグループで話し合い (食生活・運動・周知方法)
6月13日	健康クラブ笑顔21③ ・健康おおぐち21推進連絡会の報告 ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会について
6月27日	健康づくり推進協議会①
7月6日	健康クラブ笑顔21④ ・推進イベントとウォーキング大会について
7月11日	健康クラブ笑顔21⑤ ・今後の具体的な動きについて
7月25日	健康クラブ笑顔21⑥
8月8日	健康クラブ笑顔21⑦
8月25日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会① ・17年度「健康おおぐち21」推進についての説明 ・「健康おおぐち21」推進イベントについて

実施年月日	内 容
9月 5日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会② ・「健康ウォーク&元気まつりⅡ」について
9月12日	健康クラブ笑顔21⑧ ・推進イベント実行委員会からの報告 ・3部会からの報告
9月20日	健康クラブ笑顔21⑨ ・3部会からの報告 ・「健康ウォーク&元気まつりⅡ」について
9月26日	健康クラブ笑顔21⑩ ・協働事業申請について
9月28日	健康おおぐち21推進連絡会② ・17年度進捗状況 ・イベントの内容について（3部会（食生活・運動・周知）に分かれて検討）
10月7日	健康クラブ笑顔21⑪ ・イベント内容の検討 ・協働事業申請に向けて
10月13日	元気なまちづくり事業（協働事業）プレゼンテーション
10月14日	健康クラブ笑顔21⑫ ・イベントについて
10月20日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会③ ・元気なまちづくり事業（協働事業）の報告 ・シンボルマーク愛称の審査について
10月27日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会④ ・シンボルマーク愛称の一次選考 ・イベントの役割分担確認
11月 4日	健康づくり推進協議会② ・17年度健康おおぐち21推進状況について ・「健康ウォーク&元気まつりⅡ」について ・シンボルマーク愛称決定
11月 7日	健康クラブ笑顔21⑬ ・「健康ウォーク&元気まつりⅡ」について 3部会からの報告と全体に確認すること
11月 8日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会⑤ ・健康づくり推進協議会②報告
11月14日	健康クラブ笑顔21⑭
12月12日	健康クラブ笑顔21⑮ ・イベントの評価及び反省

実施年月日	内容
12月13日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会⑥ ・イベントの評価及び反省
平成18年1月16日	健康クラブ笑顔21⑩ ・17年度健康おおぐち21推進について
1月30日	健康クラブ笑顔21⑩ ・各部会からの報告及び検討
2月13日	健康クラブ笑顔21⑩ ・ハッピー・スマッピーの周知、ウォーキングマップ、健康川柳・俳句、私の健康について
3月13日	健康クラブ笑顔21⑩ ・ウォーキングマップ、周知について ・18年度計画について

<計画推進に向けての会議等実施状況>

- * 大口町健康づくり推進協議会 計 2回
- * 健康おおぐち21推進連絡会 計 2回
- * 健康クラブ笑顔21 計 19回
- * 健康おおぐち21推進イベント実行委員会 計 6回
- * 運動部会 // 計 8回
- * 食生活部会 // 計 14回
- * 周知・啓発部会 // 計 12回
- * シンボルマーク愛称：応募数 258点
- * 笑顔の写真展：応募数 114点



(2) 平成 1 7 年度「健康おおぐち 2 1」推進実施状況 (* は住民と協働)

分野	計 画 推 進 内 容
周知・啓発	<p>* 健康のイベント (健康まつり・健康おおぐち 2 1 推進・ウォーキング大会を一本化したもの) 「健康ウォーク&元気まつり」を実施</p> <p>* シンボルマークの活用・愛称募集し決定 (旗・シール・アイロンプリント・マグネット・ポロシャツ・Tシャツ・マスコット・着ぐるみの作成)</p> <p>* 着ぐるみで「元気まつり」「桜並木ジョギング大会」に参加</p> <p>* 私・我が家の健康宣言を掲載 (18 年 4 月号広報やホームページに掲載)</p> <p>* 広報無線によるワンポイントアドバイス (H17 年 5 月 ~ 9 月、H18 年 3 月 ~)</p> <p>* 広報誌への掲載 (「みんなですすめる健康おおぐち 2 1」コーナー)</p>
運動	<p>* ウォーキングマップの作成 (尾北自然歩道を利用し、橋から橋までの距離等を標示・おすすめコース (3 コース) の紹介)</p> <p>* 健康おおぐち 2 1 「元気体操」の周知 (ビデオ・カセット・CD の作成、ホームページへのアップ、「元気体操ひろめ隊」の要請、町民体育祭・やろまい大祭・保育園・小中学校・老人ホーム・老人クラブ・健康推進員活動などで実施)</p> <p>* 「元気まつり」時講演会実施 「そう快! ウォーキング」 ~ ウォーキングは目的に合った方法で ~ 中京大学教授 湯浅景元先生 ・老人クラブ健康教育 テーマを「健康は足元から」とし、8 地区で実施</p>
食生活	<p>* 大口町の旬の野菜の効用とレシピを作り、広める (健康ウォーク&元気まつり・広報・広報無線・若いお母さん方へ (健診時・保育園))</p> <p>* 「子どもの健康」に関する連絡会にて、食育をテーマに取り上げる (健康ウォーク&元気まつり に参加・統一給食の日実施)</p> <p>* 町民ギャラリーにて「お弁当コンクール」「食育」について掲示</p>
こころ	<p>・企業との連携 (職場の健康づくり活動について、江南保健所の取り組みとあわせ、東海理化の現状把握、意見交換を実施)</p> <p>* 「元気まつり」時ストレスレール・リラクゼーション実施</p>
たばこ・酒	<p>* たばこの研修会に参加 (子どもをたばこの害から守ること・禁煙・分煙への取り組みを町ぐるみで行っている活動について)</p> <p>* 「元気まつり」時断酒会の参加 (アルコールパッチテスト実施)</p>
歯の健康	<p>・健康推進員の地区活動にて (中小口・大屋敷)</p> <p>・わかば健診時歯科健診を実施・歯周病予防健診を医療機関委託で実施</p> <p>・さくら大学で歯科医師による講演会実施</p> <p>* 8020 表彰を「元気まつり」のオープニングで実施</p>

(3) 評価

ア 運動分野の指標・目標値

目標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成17年度 (21アンケート結果より)
●自分の健康維持・増進に必要な運動量を知ろう	●体力テストを受け、自分の体力を確認している人の割合の増加	未把握	全体 100%	全体 25.7%
●自分にあった運動習慣を身につけよう	●運動不足だと思う人の割合の減少	20~64歳 74.5% 65歳以上 未把握 40~49歳(男)80.7% 30~39歳(女)91.0% 20~29歳(女)91.6%	20~64歳 60%以下 65歳以上 60%以下 60~64歳 50%以下 40~49歳(男) 70%以下 30~39歳(女)80%以下 20~29歳(女)80%以下	20~64歳 73.9% 65歳以上 48.1%
●日常生活の中で意識して動こう	●屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き一日平均一万歩以上(90分以上)歩く人の割合の増加(歩行に困難がない人の場合)	20~64歳 25.6% 65歳以上 未把握 60~64歳 31.5% 40~49歳(男) 20.3% 30~39歳(女) 20.9% 20~29歳(女) 18.4%	20~64歳 30%以上 65歳以上 35%以上 60~64歳 35%以上 40~49歳(男)25%以上 30~39歳(女)25%以上 20~29歳(女)25%以上	20~64歳 11.0% 65歳以上 9.6%
	●屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き平均3000歩以下(30分以下)しか歩かない人の割合の減少(歩行に困難がない人の場合)	20~64歳 24.0% 65歳以上 未把握 60~64歳 18.4% 40~49歳(男) 31.2% 30~39歳(女) 25.1% 20~29歳(女) 34.1%	20~64歳 20%以下 65歳以上 15%以下 60~64歳 15%以下 40~49歳(男)20%以下 30~39歳(女)20%以下 20~29歳(女)25%以下	20~64歳 42.7% 65歳以上 34.4%

イ 食生活分野の指標・目標値

目標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成17年度 (21アンケート結果より)
●毎日野菜をたくさん食べよう	●漬物以外の野菜を毎食(1日3食)意識して食べる人の増加	20~29歳 29.0% 30~39歳 36.8% 40~49歳 46.7% 50~59歳 51.5% 60~64歳 58.4% (全体 48.0%)	→ 全体 55%以上	全体 65.6%
●塩分を減らそう	●煮物などの味付けを「甘からいほう」と自覚する人の減少	20~64歳 43.4% (男45.5% 女42.0%) 65歳以上 63.6% (男64.1% 女63.1%)	→ 20~64歳 40%以下 65歳以上 55%以下	20~64歳 44.7% 65歳以上 53.3%
●腹八分目で自分の適量を知ろう	●適正体重を維持するための食事内容・量を知っている人の増加	20~29歳 21.3% 30~39歳 29.5% 40~49歳 34.9% 50~59歳 45.3% 60~64歳 48.4% (全体 39.6%)	→ 全体 50%以上	
	●BMI 25以上の人の割合の減少 (30~59歳の男性と40~64歳の女性)	30~39歳 18.0% 40~49歳 20.7% 50~59歳 21.6%	→ 男性 20%以下	基本健康診査受診者 男性 25.3%
		40~49歳 18.0% 50~59歳 20.7% 60~64歳 21.6%	→ 女性 17%以下	基本健康診査受診者 女性 22.4%
	●BMI 18.5未満の女性の割合の減少 (20~49歳の女性)	20~29歳 27.4% 30~39歳 19.9% 40~49歳 12.4%	→ 女性 10%以下	基本健康診査受診者 8.8% わかば健診受診者 16.2%

ウ こころ分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成17年度 (21アンケート結果より)
●あいさつ ができる ようにな ろう	●誰かとあい さつしてい る人の割合 の増加	未把握	100%	95.6%
●家族や地 域の中で 交流をも とう	●地域の人と つき合いが ない人の割 合の減少	H13 20~64歳 あまりない人 24.0% ほとんどない人 15.7%	あまりない人 14%以下 ほとんどない人 7%以下	
	●最低一日1 回きちんと した食事を 家族等2人 以上でとる 人の割合の 増加	全体：75.7% 20~29歳 64% 30~39歳 59.5%	全体：85%以上 20~29歳 70%以上 30~39歳 65%以上	
●自分なり の規則正 しい生活 を身に付 けよう	●目が覚めた 時に、疲労 感が残るこ とがある人 (週3回以上) の割合の減 少	31.7%	0%	33.5%
●ストレス とうまく つきあお う	●ストレスが 大きくて、 逃げ出した いと思っ ている人の割 合の減少	よくある 6.5% ときどきある 31.1%	よくある 3.2%以下 ときどきある 15%以下	
●生きがい や楽しみ をもとう	●趣味をもっ ている人の 割合の増加	20~64歳 61.0% 65歳以上 78.6%	20~64歳 80%以上 65歳以上 90%以上	

エ たばこ・アルコール分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	➡	目標値	平成17年度 (21アンケート結果より)
●喫煙は決められた場所で	●禁煙・完全分煙を実施している施設やイベントの増加	未把握	➡	100%	
●たばこの害を知ろう	●喫煙による健康被害を知っている人の増加	肺がん 94.5% ぜんそく 53.0% 気管支炎 61.1% 心臓病 28.0% 脳卒中 17.6% 胃潰瘍 16.5% 妊娠に関する異常 72.7% 歯周病 14.5%	➡	100%	
●喫煙者を減らそう	●喫煙者を減らす	たばこを吸っている人 男 51.2% 女 10.5%	➡	たばこを吸っている人 男 10%以下 女 2%以下	男 26.3% 女 5.2%
	●妊婦の喫煙率を減らす	H14 3.5% (母子健康手帳発行時 9/257人)	➡	母子健康手帳発行時 0人	3.4%
●楽しく健康的に飲めるお酒の適量を知ろう	●節度ある飲酒量を知っている人の割合の増加	64.1%	➡	100%	60.2%

オ 歯分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	➡	目標値	平成17年度 (21アンケート結果より)
●いつまでも自分の歯で食べよう	●自分の歯が60歳で24本以上ある人の増加	H14・15調査 60歳～64歳 39.6%	➡	60歳～64歳 50%以上	60～64歳 42.0%
	●8020運動を知っている人の増加	H13調査 20歳～64歳 49.7%	➡	100%	82.4%
	●自分の歯が80歳で20本以上ある人の増加	未把握	➡	30%以上	
●いつまでも明るく、歯を出して笑おう	●歯の健康得点が16点以上の人の割合の増加	未把握	➡	56%以上	47.9%

※健康おおくち21アンケートを、住民検診・がん検診・「健康ウォーク&元気まつりⅡ」時に実施。回答数 847名

(4) 健康おおぐち21推進イベント

ア 目的

健康おおぐち21の推進として、より多くの人へ計画の周知と健康づくりのきっかけとなるよう、「大口町元気な町づくり事業」として実施。

イ 日時

平成17年11月26日(土) 午前10時~午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階・中央公民館集会室

エ スタッフ

実行委員	24人	太極拳18人	(内2人は、実行委員)
健康クラブ笑顔21	10人	(内5人は、実行委員)	朝市会8人 (内2人は、実行委員)
健康推進員	51人	(内5人は、実行委員)	若歩会9人 (内1人は、実行委員)
ほほえみ会	10人	(内3人は、実行委員)	
ひだまりの会	14人	(大屋敷5人、中小口9人)	
老人クラブ	6人	(内2人は、実行委員)	
さくらメイト	5人	(内1人は、実行委員)	
子どもの健康を考える会	(保育士12人、養護教諭5人、中学生3人、教諭1人)		
元気アップB会	6人	(内2人は、実行委員)	合計 182人

オ 内容及び参加者数

全体の参加者 約700人

	内 容	参加者数
全 体	記念式典 ・みんなで「元気体操」 ・シンボルマーク愛称発表・8020表彰	200人
	スペシャル講演会 「そう快!ウォーキング」 ~ウォーキングは目的にあった方法で~ 中京大学体育学部教授 湯浅景元 先生	200人
運 動	ウォーキング大会	460人
	体力測定	68人
	みんなで一緒に楽しもう!(ステージ)(6団体参加)	100人
	歩行能力測定	56人
食生活	古代米おにぎり販売	316食
	豚汁販売	300食
	野菜料理紹介コーナー	250人
	カロリー当てクイズ	194人
	野菜をどれだけ食べてるかな?(手ばかりコーナー)	172人
	大口町の子どもの食育コーナー	67人

こころ	薬草茶・ハーブティー 抹茶 ジャンボ輪投げ ジャンボだるま落とし 笑顔の写真展	380杯 150人 114点
	シンボルマークを作ろう シンボルマークマスコット シンボルマークシール販売	99個 116枚
	こころのチェックコーナー（ストレスレール） アルファードチェック 右脳・左脳バランス	27人 45人 44人
	ダッシュマンショー	約100人
たばこ	スモーカーライザー	30人
アルコール	アルコールパッチテスト	30人
歯	カムカムチェック 歯の16得点	38人 11人
測定	骨密度測定 健康チェックコーナー（保険年金課）	100人 78人
販売	五平餅	420本



健康
ウォーク

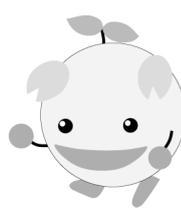
& 元気
まつりⅡ

日時 11月26日(土)
午前10時から午後3時
場所 ほほえみプラザおよび
中央公民館集会室

主催 「健康ウォーク&元気まつりⅡ」
実行委員会
大口町健康推進員
問合せ先 保健センター ☎94-0051
※当日は、できる限り徒歩、自転車、巡回バス
でお越しください。

健康ウォーク

集合場所 各地区 (秋田・豊田・大屋敷・外坪・河北・余野
上小口・中小口・下小口・垣田・さつきヶ丘)
集合時間 地区により異なります。
申込み お住まいの地区の健康推進員へお申し込みください。



各地区から
中央公民館目指して
歩こう!

元気まつりⅡ

午前10時30分から
●みんなで元気体操
●健康おおぐち21シンボルマーク愛称発表
●8020・9018運動 表彰 ●ステージ

午前11時から正午

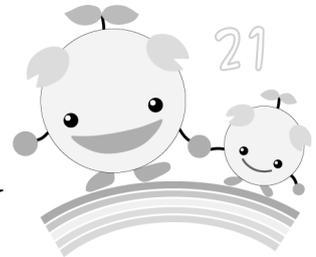
ウォーキングに関する スペシャル講演会!!

中京大学 体育学部教授 湯浅景元先生

<湯浅先生プロフィール>

★中京大学体育学部卒業。東京教育大学大学院体育学研究
科修了。その後、東京医科大学で学ぶ。医学博士・体育学修士。
★NHK総合テレビ「健康ハツラツ道場」「生活ほっとモーニング」
ほか、テレビでもおなじみ。

名前が
決まるよ!



- シンボルマーク人形を作ろう
コーナー
- 体力チェックコーナー
- 健康チェックコーナー
- アルコール相談
- 禁煙推進コーナー
- ジャンボだるま落とし
- ジャンボ輪投げ
- おおぐちの子ども食育コーナー

中央公民館集会室



ほほえみプラザ1階

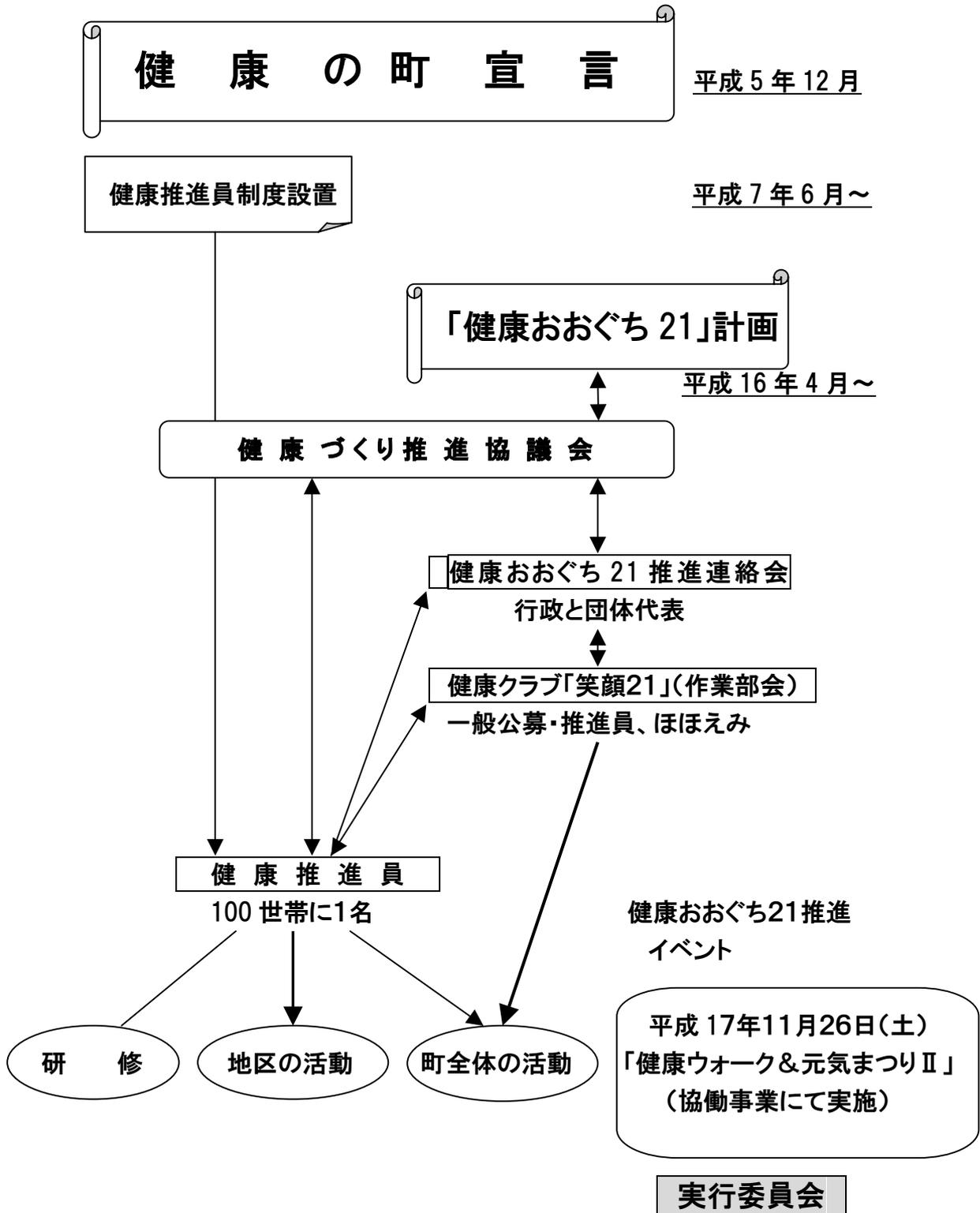
- 朝市
- 骨密度測定
- ※事前申込みが必要です。

- 癒しのお茶コーナー
- 漢方の世界紹介コーナー<パートI>
- 販売コーナー
- ・黒米、赤米をつかったおにぎり
- ・野菜たっぷりの豚汁
- ・癒しのお抹茶
- ・五平餅
- …etc

笑顔の写真屋

午前10時から午後3時

「健康推進員活動と健康おおぐち21」



1 予防接種

今日では感染症の流行が急速に減少し、予防接種によって獲得した免疫が感染症の流行を抑制していることが忘れられてしまいがちであるが、予防接種により社会全体の免疫水準を維持するためには、予防接種の接種機会を安定的に提供し一定の接種率を確保することが重要である。

本町では、予防接種法の改正に基づきより安全で有効な接種を実施するため、平成7年度からBCG及びポリオ以外の予防接種を個別予防に切り替えた。平成13年11月の法改正では、65歳以上の高齢者等を対象としたインフルエンザ予防接種が二類疾病として市町村の行なう予防接種に追加され、従来の定期接種は一類疾病とされた。

平成9年度からは電算システムにより、未接種者に対する接種勧奨を行ない、接種率の向上に努めている。

なお、今年度は平成18年4月1日からの麻しん風しん混合(MR)ワクチンへの転換に伴い、個別通知により麻しん及び風しんの単独ワクチン接種の勧奨を行なった。

(1) 個別接種実施体制

就学前の乳幼児に対しては出生届時に保険年金課において、転入者については保健センターで予防接種予診票綴と「予防接種と子どもの健康」を交付し、就学児の接種対象者については、その都度学校を通じて予防接種予診票を配付し、予防接種を受けるよう周知している。

インフルエンザ予防接種は、対象者に個別通知で申込書を送付し予防接種を受けるよう周知している。申込み方法は、窓口で送られた申込用紙と一部負担金(1,000円)を支払い、引き換えに予防接種予診票を受け取り委託医療機関で接種を受ける。

予防接種会場

予防接種の種類	接種方法	接種会場
三種混合(百日せき・ジフテリア・破傷風)	個別接種	大口町・扶桑町の 委託医療機関(予約制)
二種混合(ジフテリア・破傷風)		
麻しん		
風しん		
日本脳炎		
インフルエンザ	集団接種	保健センター
ポリオ(急性灰白髄炎)		
BCG		

個別接種の種類と接種期間

対象	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
乳幼児	麻しん 風しん 三種混合 二種混合 日本脳炎		←—————→											
小学生 6年生	二種混合※				7/20~8/31 ←————→									
小学生 4年生 中学生 3年生	日本脳炎※		←————→		(転入者・接種もれ者) ←————→									

* 日本脳炎予防接種 17年5月30日以降積極的勧奨を差し控えることとなった。

17年7月29日、第3期接種が廃止となった。

* 二種混合

17年7月29日、第1期(初回・追加)接種が廃止となった。

(2) 定期接種

		対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
三種混合 百日せき ジフテリア 破傷風	沈降精製 DPT ワクチン	1期初回 生後3月~90月未満	生後3~12月	3回	3~8週
		1期追加 生後3月~90月未満	1期初回接種(3回) 後、12~18月	1回	1期初回接種終 了後、6か月以 上の間隔をおく
		2期 11~12歳(DTトキソイド)	小学校6年(12歳)	1回	
二種混合 ジフテリア 破傷風	DT トキソイド	1期初回 生後3月~90月未満	生後3~12月	2回	4~6週
		1期追加 生後3月~90月未満	1期初回接種後、 12~18月	1回	1期初回接種終 了後、6か月以 上の間隔をおく
		2期 11・12歳	小学校6年(12歳)	1回	
麻しん		生後12月~90月未満	生後12~15月	1回	

	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
風しん	生後12月～90月未満	生後12～36月	1回	
日本脳炎	1期初回 生後6月～90月未満	3歳	2回	1～4週
	1期追加 生後6月～90月未満	4歳	1回	1期初回接種終了後概ね1年おく
	2期 9～12歳	小学校4年(9歳)	1回	
	3期 14・15歳	中学校2年(14歳)	1回	
急性灰白髄炎 (ポリオ)	生後3～90月未満	生後3～18月	2回	6週以上
インフルエンザ	65歳以上等の方		1回	

(3) 実施状況

ア 三種混合

第1期初回

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者			完了者接種率 (B/A)
		1回目	2回目	3回目(B)	
16年度	319	276	268	271	85.0
17年度	283	244	245	239	84.5

第1期追加

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	393	274	69.7
17年度	341	252	73.9

イ 二種混合

第2期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	238	202	84.9
17年度	245	207	84.5

百日せき

普通の風邪のような症状で始まる。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続性にせき込むようになる。熱は出ないがせきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出る。

ジフテリア

感染は主に咽頭であるが、鼻にも感染する。症状は高熱、のどの痛み、犬吠

様のせき、嘔吐などで、偽膜を形成して窒息死することがある恐ろしい病気である。

破 傷 風

菌は土の中にひそんでいて傷口から人へ感染する。傷口から菌が入り体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんをおこしたり、死亡することもある。

ウ ポリオ

(単位：人・%)

	対象者		被接種者	完了者接種率
16年度	1回目	296	240	81.1
	2回目	186	149	80.1
17年度	1回目	259	231	89.2
	2回目	279	240	86.0

ポリオ(小児マヒ)

ウイルスが口から入り咽頭又は腸はに感染し、便中に排泄される。感染したウイルスは3～35日(平均7～14日)の間に腸の中で増えるが、ほとんどの例は不顕性感染で終生免疫を獲得する。ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺をおこすことがある。

エ 麻疹

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	311	280	90.0
17年度	272	224	82.4

麻 し ん

麻疹ウイルスの飛沫感染によっておこる病気である。伝染力が強く、一生のうちに一度は必ずかかる重い病気で、発熱、せき、鼻汁、目やに、発疹を主症状とする。

オ 風しん

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	327	290	88.7
17年度	392	346	88.3

風 し ん

風しんウイルスの飛沫感染によっておこる病気である。潜伏期間は2～3週間で、軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状である。そのほか眼球結膜の充血も見られる。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれている。

カ 日本脳炎

第1期初回

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率(B/A)
		1回目	2回目(B)	
16年度	511	360	355	69.5
17年度	256	60	23	9.0

第1期追加

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	309	249	80.6
17年度	273	35	12.8

第2期(小学4年生)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	248	224	90.3
17年度	214	99	46.3

第3期(中学3年生)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	196	155	79.1
17年度	195	41	21.0

日本脳炎

日本脳炎ウイルスの感染でおこり、人からの直接感染ではなく、豚の中で増えたウイルスが蚊によって媒介される。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になる。

キ インフルエンザ(65歳以上の高齢者等)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
16年度	3,289	2,169	65.9
17年度	3,529	2,409	68.3

インフルエンザ

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる。高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻水など普通の風邪より症状が強い。

2 結核予防

(1) BCG接種

- ア 対象年齢 生後6か月未満
(ただし、生後6か月までの期間で医学的に接種が不適当とされた乳児は、1歳に達するまでの期間)
- イ 接種回数 1回
- ウ 接種方法 保健センターでの集団接種

エ 実施状況 (単位：人・%)

	対象者	被接種者	接種率
16年度	255	242	94.9
17年度	256	249	97.3

◆BCG接種◆

17年4月1日からツベルクリン反応検査を行わず、BCGの直接接種となった。また、4歳未満であった対象年齢が生後6か月未満と短期間となったことから、接種機会を確保するため月1回実施することとした。

接種方法は管針法といい、スタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種する。接種後は十分に乾燥させ1時間以上経過すれば、菌の生着に問題はない。

(2) 住民（結核）検診

ア 目的

全地区において、検診、健康相談を行い、結核やその他の疾病の予防、早期発見、健康保持に関する知識の普及、健康増進の啓発を行う。

イ 対象

15歳以上で、会社、学校等に勤務していない方

ウ 日時

6月28・29・30日、7月1日（4日間）

エ 内容

胸部レントゲン検査（結核・肺がん検査）

（希望者のみ、がん検診申込受付・健康相談・血圧測定・体力測定）

オ 従事者

保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関（医師を含む）

カ 実施状況

(ア) 年度別年齢別受診者状況

(単位：人)

年度 \ 年齢	受診者数	15～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
13	620	22	73	41	97	240	147
14	721	18	78	52	110	278	185
15	711	12	81	45	109	278	186
16	635	14	87	43	78	265	148
17	641	8	65	39	68	295	166

(イ) 胸部レントゲン検査 (単位：人)

年度	X線間接撮影
15年度	682
16年度	635
17年度	641

※昨年に引き続き、簡易体力チェック(片足立ち・イスからの立ち上がり・握力)を行なった(320名)。

(ウ) 胸部レントゲン検査結果 (異常所見ありの内訳)

結果	人数						
要観察者	23名						
要精検者	20名						
	<table border="0"> <tr> <td>結核の疑い(不活動性)</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>肺がんを否定できない</td> <td>4名</td> </tr> </table>	結核の疑い(不活動性)	1名	その他	15名	肺がんを否定できない	4名
結核の疑い(不活動性)	1名						
その他	15名						
肺がんを否定できない	4名						
計	43名						

※ 要観察者とは異常所見を認めるが精査を必要としない者

※ その他(肺炎の疑い、循環器疾患の疑い等)

1 救急医療の取り組み

地域住民が事故や急病など緊急の場合に、適切な医療がより早く受けられるような救急医療体制については、だれもが安心して日常生活を送るための基盤として、社会的要請が強い。

大口町においては、在宅当番医制による第一次救急医療体制、病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

2 第一次救急医療

休日における救急患者の初期医療に対応するため、扶桑町・大口町の医療機関において在宅当番医制により実施している。

(1) 実施医療機関

扶桑町 14 医療機関
大口町 7 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日数	5	8	4	6	4	6	6	6	8	8	5	5	71
	(1)	(3)	(2)	(2)	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	(4)	(2)	(2)	(26)

()内は、大口町の医療機関分

診療時間 9:00～12:00
14:00～17:00

3 第二次救急医療

第一次救急医療機関の後方病院として、入院又は緊急手術等を要する救急患者に対する医療を確保するため、尾張北部二次救急医療圏（犬山市、江南市、岩倉市、扶桑町、大口町）において病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

(1) 実施医療機関

4 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
休日	5	8	4	6	4	6	6	6	8	8	5	5	71
夜間	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

1 学生実習指導

大口町では、平成9年から尾北看護専門学校地域看護学実習の場として、平成11年からは愛知県立看護大学の公衆衛生看護学実習の場として、平成16年からは管理栄養士養成大学の公衆衛生栄養学実習の場として実施している。

公衆衛生の視点を持った保健師、栄養士、看護師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護・栄養活動を学ぶ場としている。多岐にわたる役割の中で、生活の基盤となる公衆衛生の場を学び臨床と地域の連携を進めていく上でも大切な場となっている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数(人)	実習期間
尾北看護専門学校	看護師	2	9月12日～16日
		2	10月3日～7日
		3	10月11日～14日
		3	10月31日～11月19日
愛知県立看護大学	保健師	3	7月22日～29日
名古屋学芸大学	管理栄養士	11	11月10日・18日・29日

2 研究・発表等

実施年月日	内 容	場 所
平成17年 8月4日(木)	西尾市健康推進員との交流会 大口町健康推進員活動紹介 出席者：大口町 22名、西尾市 42名	大口町 保健センター
12月22日(木)	愛西市健康日本21計画策定作業部会にて講演 「住民と行政がともに歩んでいる健康おおぐち21」	佐織総合福祉 センター
平成18年 1月21日(土)	平成17年度愛知県公衆衛生研究会にて発表 住民と取り組むオリジナル体操の作成・普及 ～運動しやすい環境づくり、きっかけづくり～ (次ページ参照)	あいち健康 プラザ
2月1日(水)	地域保健・福祉推進パイオニア育成研修 住民と取り組むオリジナル体操の作成・普及 ～運動しやすい環境づくり、きっかけづくり～	江南保健所
2月23日(木)	春日町健康推進員交流会 大口町健康推進員活動紹介 出席者：大口町 10名、春日町 16名	大口町 保健センター

住民と取り組むオリジナル体操の作成・普及

～運動しやすい環境づくり、きっかけづくり～

平成15年度大口町では住民と共同で「健康おおぐち21計画」を策定。運動についても、策定の過程でその大切さに気づき、「みんなが運動できる為の条件」を盛り込んだ。推進の一つとしてオリジナル体操を作成・普及した。その過程での保健師の役割と、ヘルスプロモーションの視点で住民と取り組むことで得られた効果を考察したい。

1、目的

住民と共にオリジナル体操を作成し普及することにより、一人でも多くの住民が楽しく運動できる環境をつくり、運動のきっかけづくりとする。

2、概要・結果

作成中心 スタッフ	健康おおぐち21作業部会運動部会3人 健康運動指導士1人、保健師1人
作成期間	H16.12.27～H17.3.4（主な検討12回、 H17.3.5実施の健康イベントで発表）

【作成・周知過程流れ図】

住民の運動習慣はH13～15年度実施の健康実態調査結果で国・県と比較し問題の多い現状。計画策定の中で共有。

健康おおぐち21計画推進方法を検討

（住民の思い：オリジナルの体操を作成したい！）

体操作成前の検討（作業部会運動メンバーで検討。）

作成目的共有。体操のイメージ・対象・曲。体操をどう活用して行くのか。アドバイザーを誰にするか。
【検討結果】 思わず笑顔が出てしまう。音楽を聴いただけで体を動かしたくなる。対象は全住民。町のイメージソングを活用。ストレッチ主体。軽い筋トレ。車椅子のバージョンもつくる。幅広い住民に親しまれるようひろめる。

作成にむけた検討～初めての取り組み～

住民・健康運動指導士・保健師（住民・健康運動指導士・行政の思い 調整・検討、検討事項の決定・共有。）

発表（3月5日「春だ！笑顔だ！元気まつり」）

体操の構成：ストレッチ・軽い筋トレ・クールダウン
所要時間：約5分（足踏みを入れた）

発表後、周囲の評価に、住民の自発的な周知活動も力を得て積極的にひろめている。

周知【媒体作成】CD-ROM、テープ、ホームページ

【元気体操ひろめ隊養成講座】

【出向いての周知、連携】

保育園、小・中学校、役場、デイサービス、老人クラブ、体育協会、健康推進員活動、町行事、保健センター各種教室等

（周知に向けた下地づくり）

作成後半から運動団体に出向き、頂いた意見を基に修正。養護教諭との連絡会等連携の下地。議会・関係課への周知。多くの住民が関わった身近な体操に。

今後の方向性（体操効果の確認・活用、普及）

- ・介護予防に活用できるメニュー作成（75歳以上の介護予防教室で筋トレと組み合わせで実施。効果測定。）
- ・整理体操・準備体操として活用を進め、町の体操として定着させる。
- ・必要に応じ出向く。動作の効果説明が大切。体でよい体操とじてもらう。

3、まとめ

体操づくりという一つの媒体づくりではあったが、それを通していろいろな団体や保育園、小中学校と連携した取り組みを行うことができた。取り組む過程で住民の健康づくりに関する意識が高まり、住民自身が環境づくりの大切さを感じ、体操に愛着を持ち、積極的な普及につながった。また、関わった住民の生き生きした姿を代理体験とし、周囲の住民に「私もやりたい。」という波及効果を与えた。

体操の普及に取り組む住民への周囲の評価が、住民の自己効力感につながり、さらに推進の力となっていくことを感じた。

今回はヘルスプロモーションの視点にたち、保健師としての役割を確認しながらの取り組みの中で、一定の成果を得ることができた。今後も更なるステップを住民と共に目指していきたい。

保健活動のまとめ

平成18年6月発行

編 集 大 口 町 保 健 セ ン タ ー
丹羽郡大口町伝右一丁目35番地
電 話 0587(94)0051
F A X 0587(94)0052

発 行 大 口 町